

第三章 旅 費

第十四條 旅費ノ概算渡ヲ請フトキハ第七號書式ノ請求書ヲ第二課ニ差出シ仕拂命令ノ交付ヲ受ケタルトキハ第八號書式ノ領收證書ヲ出タスヘシ但請求書ハ收稅部ニ於テハ課長出張ハ所長派出所ハ主幹ノ認印ヲ附クヘシ

第十五條 前條概算金ニ對シ精算ヲナストキ又ハ概算金ヲ受ケスシテ請求スルトキト雖モ旅費ハ總テ第九號書式ニ據リ精算表二種ヲ製シ第二課ニ差出スヘシ但精算表ハ課長其他ノ認印ヲ附クルコト前條ニ同シ

前項精算上ニ於テ支給ヲ受クヘキ分ニ對シ仕拂命令ノ交付ヲ受ケタルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ差出タスヘシ

過剩ヲ生シタルトキハ返納告知書若クハ納入告知書ノ交付ヲ換テ該告知書ニ指名セル金庫ニ納付スヘシ

第十六條 旅費概算ノ請求ハ最初出發ノトキハ收稅部ニ於テハ其三日以前出張所派出所ハ郵送往復ノ日數ヲ加ヘ其日限ニ次回以後ハ前回概算金ノ精算ト同時ニ之ヲ爲スヘシ但至急ヲ要スルモノハ此限ヲニアラス

第十七條 旅費ノ實費拂又ハ迂路經過旅行ノ許可ヲ得タルトキ若クハ病氣其他ノ事故ニ由リ公務外日數ヲ要スルカ或ハ指定日限外ニ涉リ其承認ヲ得タルトキハ第十五條ノ精算表ニ該証憑書類ヲ添付スヘシ但シ實費拂ニ係ルトキハ正當領收證書ニモ添付スヘシ

第十八條 旅費ノ概算金ヲ受取リタル後出發以前出張又ハ出張所派出所所在勤ヲ免セラレタルトキハ其命ヲ承ケタル日ヨリ三日以内ニ第十二號書式ノ返納書ヲ第二課ニ差出シ第十五條第三項ノ例ニ據リ返納スヘシ

第十九條 出張中退官ノ時ハ其命ヲ承ケタル日ヨリ三日以内ニ第十五條若クハ第十七條ニ據リ精算スヘシ

第四章 出張所派出所出張先諸費

第二十條 家屋其他材料寫字算入料小使給料ハ第十二號第十三號第十五號書式ニ依リ翌月一日申報スヘシ但收稅署家屋借料並ニ全所定小使給料ハ此限ニアラス

第二十一條 第二條但書第二項第三項郵便稅電信ノ諸費及出張所派出所ニ於テ要スル運搬費等ハ第十六號第十七號書式ノ申報書ニ受取人ノ請求書ヲ添付シ隨時第二課ニ送付スヘシ

第二十二條 第二條但書ノ場合及土地檢査ニ要スル丈量器械持送り人足賃等續替仕拂ヲ爲シタルトキハ第十八號乃至第二十號書式ノ請求書ニ正當領收證書若クハ仕拂證書ヲ添付シ出張所派出所ニ於ケル狀持人足賃及國稅滯納處分費中使了賃ハ隨時其他ハ第七條ニ據リ精算スヘシ

第二十三條 前條ノ場合其他領收證書ヲ徵スルハ第二十一號ノ書例ニ倣ヒ且左ノ各項ニ準據スヘシ
證書記載ノ數量ニハ壹、貳、拾ノ字ヲ用ヒシムヘシ
證書中文字ノ追加、更正及消抹ヲナシタルトキハ其箇所ニ用紙ニ繼目、綴目アルトキハ之ニ受取人ノ捺印ヲナサシムヘシ但其印ハ署名下ニ捺セシ印ニ限ル

證書ハ糊貼、刪刷、及文字ノ改竄ヲナサシムヘカラス
證書ハ成ルヘク字畫明瞭ナルヲ要シ且用紙ハ成ルヘク半紙形ヲ用ヒシムヘシ
代理人ニ金員ヲ交付スルトキハ委任狀ノ原本又ハ正本ヲ添付セシムヘシ其原本ヲ徵セントキハ仕拂人正本ト應本ニ捺印ヲナシ其正確ナルヲ證スヘシ

郵便稅ノ如キ正當受取人ノ領收證書ヲ徵スル能ハサルモノハ仕拂人ノ仕拂證書ヲ以テ代用スルコトヲ得但仕拂證書ハ上官ノ認定ヲ請クヘシ

第五章 附則

第二十四條 此規則ハ收稅部ニ屬スル大藏省所管臨時經費ニ適用ス

訓令第六十八號(二十五年四月廿三日)

直稅分署 間稅分署

明治二十三年(十一月)訓令第二百七十九號直稅分署間稅分署小使定員左ノ通改定シ明治二十五年五月一日ヨリ施行ス但給額ハ直稅署長ヨリ指示ス

分署名	小使定員
宮崎直稅分署	一人
伊肥直稅分署	一人
伊肥間稅分署	一人
都城直稅分署	一人
都城間稅分署	一人
小林直稅分署	一人
小林間稅分署	一人
高岡直稅分署	一人
高岡間稅分署	一人
高鍋直稅分署	一人
高鍋間稅分署	一人
延岡直稅分署	一人
高千穂直稅分署	一人
高千穂間稅分署	一人

訓令第三百三十三號(二十六年九月廿七日)

直稅分署 間稅分署

內國稅徵收費支辨ニ屬スル旅費中車馬賃及日當額管内ニ限リ左ノ通減額シ明治二十六年十月一日ヨリ

施行ス

區別	馬車賃	每	一里	日當	每一日
判任官	金九錢			金六十錢	

訓令第五百十五號(二十七年六月十九日)

收稅署

明治二十四年(三月)大藏省訓令第二十一號第三項間稅檢査員所轄內巡回旅費左ノ通減額シ來ル七月一日ヨリ施行ス但宿泊スルトキハ一泊金貳拾八錢ヲ増給ス

一間稅檢査員所轄內巡回旅費月額金十五圓

訓令第三十六號(二十八年三月三十日)

收稅署 町村役場

明治二十二年(三月)法律第九號國稅徵收法第三條第二項ニ係ル市町村交付金下渡手續左ノ通定ム但明治二十四年(四月)本縣訓令第七號市町村交付金請求手續ハ本年四月一日以後廢止ス
 一市町村交付金ハ一年度分ヲ前後兩期ニ分テ前半年分自其年四月一日ハ十月後半年分自十月三十一日ハ翌年四月交付スヘシ
 一收稅署ニ於テハ九月三月末日徵稅簿ノ結果ニ依リ每町村限各稅目ニ區分徵收額取調別紙樣式ニ據リ其年十月五日翌年四月五日限リ報告スヘシ
 用紙美濃縣紙

明治何年度前(後)半年分國稅徵收額報告

表中△印朱

主任檢印

租稅調定ニ關スル証憑書類整理手續

第一條 租稅調定ニ關スル証憑書類整理方ハ明治二十七年(四月)會計檢査院達第十號ニ準據シ尙ホ第二條以下各條ニ據リ取扱フヘシ

第二條 証憑書類ハ左ノ區別ニ據リ整理シ返リニ調定濟額等ニ對查シ置キ年度經過後一ヶ月以内ニ於テ之ヲ編纂シ更ニ精覈ノ調査ヲナスヘシ但地租ハ便宜ノ方法ヲ以テ區別シ整理シ置クモノトス

一 所得稅酒造稅醬油造石稅酒精營業稅及鑛業稅ハ每一ケ年 一 菓子製造稅ハ毎納期

一 諸營業稅船車稅ハ每三ヶ月

第三條 地租ニ關スル証憑書類ノ編纂ハ左ノ例ニ依ルヘシ但一書類ニシテ二種目 免租地ノ書類ニシテ量ノ部ニ入ルヘキ以上ナルトキハ其一方ニ本書ヲ他ニ添本ヲ編入シ添本ニハ其旨付記スルモノトス

一 有租地成 一 荒地免租年期明 一 低價年期明地價修正 一 開墾地價修正

一 地目變換、地類變換 一 開拓地銀下年期明、新開免租年期明、耕地變更地價據置年期明、地目變換地價據置年期明 一 地盤丈量 一 課額訂正 一 官地成 一 免租地成

一 荒地

第四條 間稅ニ關スル証憑書類ハ一稅目限増減ノ二部ニ區別編纂スヘシ但一書類ニシテ二稅目以上ニ涉リ一稅目限分離シ難キモノ 煙草、菓子、賣藥稅ノ類、ハ其稅目ニ屬スル分離シ得ヘキモノヲモ併セテ一冊トナシ表紙ニ各稅目ヲ例記スヘシ

前項増減各部中ニ屬スル種目ハ調定額明細書ニ掲グル順序ニ從ヒ編纂スルモノトス

第五條 証憑書類ノ表紙ハ第一號書式ニ準シ記載スヘシ但一種目ニシテ紙數夥多ナルトキハ適宜分冊スルモ妨ケナシ

第六條 証憑書類ノ提出ヲ要スルモノハ隨時本廳ヨリ通達スヘシ

第七條 過誤納額明細書中誤謬訂正納額調定及調定外誤納ニ係ルモノハ第二號書式ニ據リ其誤謬トナリテ事田ヲ詳記シ同ニ差出スヘシ

第一號書式

第何號

明治何年度

有租地成ノ部ノ部ト記ス

間稅ハ増(減)

地租 間稅ト記スルノ類

段別 課物件

地租 間稅ハ

紙數 表紙ヲ何枚

除ク

宮縣何地收稅署

備考

一 既往ニ遡ル租稅ハ之ヲ別記スヘシ

第二號書式

明治何年度租稅過誤納額事由書

稅目	期別	種目	金額	金額	事由
租	第六期	誤謬訂正	〇一七〇	〇二九	丈量誤謬
				〇〇三	荒地起返屆書誤謬

烟	租	第一期	調定外課納			〇	〇	〇	〇	何々
						〇	〇	〇	〇	町村長ニ於テ納付旨ニ誤記セ シニ由ル
						〇	〇	〇	〇	何々

右之通候也

明治 年 月 日

何地収稅署

訓令第百號(二十七年五月廿六日)

町村役場

國稅金收納簿其他一人別徵稅元帳様式別冊ノ通之ヲ定ム其調製並施行ノ期限左ノ如シ

但別冊ハ別ニ頒ツ

一 地租名寄帳

明治二十七年一月一日現在ヲ以テ全年十一月限調製

二 諸稅一人別徵稅元帳

明治二十七年十二月限調製

三 國稅金收納簿國稅過誤納金整理簿

明治二十七年分ヨリ施行

四 隨時收入諸稅收入簿徵稅傳令書

明治二十七年七月一日ヨリ施行

五 國稅金收納集計簿

第三第四ニ同シ

訓令第百八號(二十七年六月五日)

郡役所 收稅署

今般會計検査院達第十號ヲ以テ租稅收入調定額證明規程定メテ付左ノ書類ハ所轄收稅署ニ送付

スヘシ

書類ノ内返付ヲ要スルモノハ送付ノ際添書スヘシ

明治二十四年(五月)訓令第百三十三號ハ廢止ス

所得稅

一 調査委員會ノ決議書

一 自首ニ依リ稅金ヲ追徵セシモノアルトキハ其屆書

一 納稅者其納期以前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シ所得稅法第二十三條ニ依リ稅額ヲ輕減又ハ

免除セシモノアルトキハ其所得金高減損事由書

一 納稅者他管ヨリ轉入シ若クハ他管ニ轉出セシモノアルトキハ其年月氏名轉入出地名及所得金高稅額

ヲ詳悉セル事由書

右翌年度四月十五日限

菓子稅

一 菓子製造賣上金高屆書

右第一期分ハ其年八月三十一日限第二期分ハ翌年二月二十八日限

訓令第百八十號(二十八年九月廿一日)

收稅署 町村役場

國稅(賣藥及自家用)ヲ課スル諸營業鑑札ハ收稅署ヨリ直ニ本人ニ下附スヘシ

料酒ヲ除ク

明治二十七年(五月)訓令第百號徵稅元帳ノ整理ヲ要スル諸營業人及物件ノ異動ハ收稅署ヨリ通報スヘシ但從前ノ合達等ニシテ本文ニ抵觸スルモノハ自今廢止ス

訓令第百七十四號(二十七年十二月廿七日)

收稅署

本年(六月)大藏省令第十二號國稅徵收法施行細則中記帳凡例第四項後段隨時收入徵稅簿合計記入方之義來ル明治二十八年一月分ヨリ別紙之例ニ依リ記入整理スヘシ

(別紙)

何年度何稅(目)

徵稅令書送達ノ月日	納期	調定額	收入濟月日	摘要	納稅人
自四月一日	至同月三十日	五〇、〇〇〇	本月中收入濟		何人
自五月一日	至全月三十一日	五〇、〇〇〇	六月五日迄ニ收入濟	①五月中四拾五圓收入 ②六月中五圓收入	何人
自六月一日	至全月卅日	五〇、〇〇〇	六月卅日迄ニ四拾八圓收入濟	③貳圓ハ何某滯納處分ニヨリ ④缺損	何人

備考

一此合計ハ每月末日ニ於テ其月分ヲ集算シテ記入スルモノトス

一其月中ノ調定額ノ内收入ノ二ヶ月以上ニ渉ルモノハ①印ノ如ク毎月收入濟ノ員額ヲ摘要欄内ニ記入シ收入濟月日ノ欄ヘハ最終ノ收入ノ月ヲ以テ②印ノ如ク某月日迄ニ收入濟ノ事故ヲ記入スルモノトス
一缺損ニ歸セシモノアルトキハ③印ノ如ク收入總額ヲ收入濟月日ノ欄ニ記入シ其缺損及事故ヲ④印ノ如ク摘要欄ニ記入スルモノトス

訓令第百二十五號(二十六年九月七日)

直稅分署 間稅分署

預金局保管證書保管規則左ノ通定メラル但該規則中部局長トアルハ直稅分署ニ在リテハ直稅分署長間稅分署ニ在リテハ間稅分署長ト心得ヘシ

預金局保管證書保管規則

- 第一條 官廳ニ於テ保管スル預金局保管證書ハ之ヲ保管スル所ノ部局長其保管ノ責ニ任スルモノトス
- 第二條 保管證書ハ鐵庫又ハ堅牢ナル函内ニ之ヲ收藏シ其鎖鑰ハ部局長之ヲ管守スルモノトス
- 第三條 部局長ハ一名ノ保管證書出納主任ヲ命シ鐵庫又ハ函ノ開閉ヲ掌ラシメ別ニ一名ノ立會員ヲ命シ是ニ立會ハシムヘシ
- 第四條 部局長ハ保管證書出納簿ヲ設ケ保管證書ノ出納ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ
保管證書ノ出納ハ保管證書出納簿ニ證書ノ種類券面ノ金額并出納ノ事由等ヲ明細ニ登記シ部局長檢印ヲシタル後之ヲ執行スヘシ
- 第五條 部局長ハ毎月末日保管證書出納簿總高ト保管證書ト對照點查スヘシ
- 第五條 各省大臣若クハ北海濱廳官府縣知事ハ必要ト認ムルトキハ檢査員ヲ命シ保管證書ノ出納ヲ臨時檢査セシムヘシ

第六條 部局長ハ會計検査院ノ要求アルトキハ保管証書出納計算書ノ謄本ヲ同院ニ送付スヘシ

訓令第四百四號(二十七年五月廿六日)

出納官吏

爲替納金取扱順序ニ依リ金庫ヨリ發スル爲替納金領收証書ノ送付ヲ受ケタルトキハ自今現金出納簿ヘ記入ヲ要セサル義ト心得ヘシ

宮崎縣第五十八號(二十二年七月廿三日)

項以 誤記發見セントキハ之ヲ納付セシ者ヨリ金庫ヘ

國税金ノ内金庫ヘ納付後納付書ヘ記載ノ年度科目上 訂正ヲ請求スヘシ既ニ其別符ノ切離ヲ受ケタルモノニ係ルトキハ之ヲ收入官吏へ申出收入官吏ノ承認ヲ受ク其請求書ヘ承認書ト領收證トヲ添ヘ金庫ヘ請求スヘシ
目下ノ誤記ヲ發見セントキハ訂正方金庫ヘ請求スルニ及ハスト雖モ收入官吏へ申出領收證訂正ノ承認ヲ請フヘシ
年度科目ノ訂正ハ渾テ該年度出納閉鎖期限以前ニ限ルモノトス

訓令第四十四號(二十五年三月十七日)

直稅分署 間稅分署

明治二十六年年度以降租稅ハ從來差出タル歲入概算書及明治二十二年大藏省訓令第七十五號概算月額金庫區分表ノ様式ニ準シ別ニ定ムル所ノ期限並號製順序ニ從ヒ歲入豫定計算書及歲入豫定月額區分表ヲ調進達スヘシ

訓令第二百六十三號(二十四年十二月廿三日)

直稅分署

國稅ハ毎年九月中前年度ニ係ルモノヲ毎町村別ニ其實收總額ヲ取調報告スヘシ但明治二十三年度ニ係ルモノハ明治二十五年一月中報告スヘシ

訓令第六十七號(二十七年四月二十四日)

收稅署 收稅署在助分任收入官吏

國稅過課納下戻ヲ要スルモノアルトキハ爾今別紙書式ノ計算書ヲ調製報告スヘシ

(別紙)

第何號 (本書ノ三三三)

用ユル番號 國稅過課納下戻計算書

計	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	拂戻ノ事由ナシトシ年 月日又ハ誤納下戻ノ事 實ヲ生セシ年月日		稅目	地 價	拂戻額又ハ 課納下戻額	債 主 氏 名	事 由
									支出ノ請求ヲ爲シ タル年月日	納付ノ年月日					
	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	田租	10000	2500	何那町(村)長 某	何年第四期納稅後荒 地成ニ由リ免租
	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	出租	2000	050	何那町(村)大字何 某	何年第四期納稅後地 盤丈量減ニ由リ過納
	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何々	、、、、	、、、、	、、、、	何年第四期納稅後誤 謬訂正減ニ由リ誤納

右ノ通相違無之候條御拂戻相成度此致報告候也

某收稅署分任收入官吏

明治 年 月 日

官 氏 名 印

備 考

- 一 地租外ノ諸税モ本書式ニ準シ調製スヘシ
- 一 債主氏名ノ欄ニハ町村ニ於テ徵收納付セシモノニ在テハ其町村長名其他ノ諸税ニ在テハ各納税人ノ住所氏名ヲ掲載スヘシ
- 一 事由ハ最モ詳細ニ記入シ金員算出ノ事項ヲ掲載スヘシ
- 一 拂戻額ハ收入ノ時正當ニシテ後ニ事出ノ爲メ返戻ヲ要スルモノヲ云フ
- 一 誤納下戻額ハ收入ノ時ヨリ過誤ノモノヲ云フ

訓令第五十九號(二十七年四月十七日)

収税署

明治二十七年二月(大藏省訓令第十號)賦課課現計書並ニ報告表ハ左ノ期限ニ依リ送付スヘシ

- 一 國稅賦課現計書 甲第十一號甲第十二號ハ翌年四月二十五日限リ其他ハ翌年五月五日限
- 一 過誤納税現計書 翌年五月五日限
- 一 無租地反別表
- 一 免稅船車表
- 一 印紙類賣捌人員表
- 一 酒造免許箇數及石高表 毎年二月五日限
- 一 醬油造石表
- 一 清酒垂歩合表 翌年六月五日限
- 一 煙草製造高及印紙使用高表 一期八月五日限
二期翌年二月五日限
- 一 諸税犯則者處分表 一期七月十日限
二期翌年一月十日限

甲第三拾壹號(十七年三月廿四日)

明治十六年四月十三號布告ニ依リ租稅官吏人名ノ家宅内ニ立入証憑取調ノ降隣佐ノ者ハ立命要求スル事ハ之レガ立會ヲナスヘシ此旨布達候事

乙第四十九號(十七年三月廿四日)

明治十六年第四十三號布告ニ據リ租稅官吏人民ノ家宅内ニ立入証憑取調ノ際其地戸長若クハ用掛リノ立會ヲ要求スルトキハ之レガ立會ヲナスヘシ此旨相達候也

戸長役場

訓令第三百三號(廿三年四月八日)
明治二十三年度以降租稅外歲入ニ係ル違警罪科料沒收金警察官吏拾得金ノ收入調定及收入ノ監督ヲ委任ス

警察署 警察分署

官廳縣令第三十一號(廿四年三月卅一日)

官有土地森林原野收入金徵收規程左ノ所定ニ

官有土地森林原野收入金徵收規程

- 第一條 官有土地森林原野ヨリ生スル諸收入金ハ此規程ニ依リ徵收ス
- 第二條 諸賦付料諸賣拂代ノ徵收期ハ左ノ各項ニ據ル
- 第一項 年ヲ以テ設定シタル諸賦付料ハ土石賣拂契約ニ屬スル料金及ヒ代金ハ甲年四月ヨリ乙年三月マテテ一期トシ甲年四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ貸付又ハ賣拂契約ヲ設定シタル者ハ初期分ニ限リ契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物賣拂契約ニ屬スル代金ハ其年一月ヨリ十二月マテ一期トシ其年一月中ニ徵收ス但一月以後新ニ賣拂契約ヲ設定シタルモノハ初期分ニ限リ契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス

第三項 月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ニ屬スル料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス

第四項 隨時ノ賣拂契約ニ屬スル代金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件交付前ニ徵收ス

第三條 有期設定ニ屬スル諸貸付料及ヒ諸賣拂代ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土賣拂契約ノ四月ニ起リ若クハ二月ニ滿期トナルモノハ全年分ヲ算定シ五月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算定ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ハ初期終期ヲ問ハス總テ全年分ヲ算定ス

第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ハ初月終月ヲ問ハス總テ全年分ヲ算定ス

第四條 有期設定ニ屬スル諸貸付及ヒ諸賣拂契約ヲ該期中解除シタルトキ其料金及ヒ代金免除方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土賣拂契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ該期ニ物件ヲ採取セシヤ否ヤヲ調査シ採取前ナレハ其年ヨリ代金ヲ免除シ採取後ナレハ物件ノ年額數量ヨリ採取數量ヲ扣除シタル殘量數ニ應シテ免除シ對手人ノ契約違反又ハ季節物ノ賣拂ニシテ解除ノ當時既ニ季節經過シタルトキハ其翌年ヨリ免除ス

第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第四項 日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其日ヨリ免除ス

第五條 此規程發布ノ前ニ土地森林原野貸付及諸產物賣拂ノ契約ヲ爲シタル貸付料賣拂代ノ徵收期ハ其契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ據ル

訓令第百號(廿五年六月廿日) 直稅分署 間稅分署 警察署 警察分署

租稅外收入調定ノ分任ヲ受ケタル官吏ハ明治二十三年(十一月)會計檢査員達第一號稅外諸收入註明規程附屬第四號書式ニ依リ調定額明細書ヲ調製シ翌年度四月三十日限り之ヲ差出スヘシ但差出後異動ヲ生シタルトキハ其都度報告スヘシ

訓令第百七十四號(廿六年十二月廿七日) 郡役所 警察分署 警察署 收稅署 分任收入官吏

國稅外諸收入收納取扱細則左ノ通相定メ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス但明治二十三年(三月)訓令第六十六號及二十六(三月)訓令第三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

國稅外諸收入收納取扱細則

第一條 郡長警察署長警察分署長收稅署長ニ於テ國稅外諸收入調定ノ委任ヲ受ケタルトキハ明治二十六年(十一月)大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程ニ據リ取扱ヒ其調定セシ金額ハ每一ヶ月分ヲ集計シ第一號書式ニ依リ調定額報告書ヲ製シ翌月一日限り之ヲ知事ニ差出スヘシ但異動ナキ月ハ其旨全日限リ報告スヘシ

第二條 規程第二條ノ諸收入調定元帳ハ第二號書式ニ依リ調製スヘシ

第三條 収入官吏ニ於テ委任ヲ受ケタル調定官ノ調定ニ係ルモノニ就キ規程第八條第二項ノ報告ヲ要スルトキハ便宜其調定官ニ報告スヘシ

委任ヲ受ケタル調定官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ規程第九條ノ手續ヲナスヘシ

第四條 調定官ト在職ノ廳ヲ異ニスル収入官吏ハ第三號書式ノ調定額明細簿ヲ設ケ納入告知書又ハ金庫ノ領收濟通知書ヲ受ケタルトキ該帳簿ニ式ノ如ク登記シ調定官ト同廳内ニ在ル収入官吏ハ調定官ノ調定元帳ヲ共用シ金庫ノ領收濟通知書ヲ受ケ又ハ現金ヲ領收シタルトキ該帳簿ニ納濟年月日ヲ記入スヘシ

第五條 調定官ト在職ノ廳ヲ異ニスル収入官吏ニ於テ収入報告書ヲ差出ストキハ金庫ノ領收濟通知書ヲ添付スヘシ

第六條 委任ヲ受ケタル調定官ニ於テ分任収入官吏ノ収入報告書ヲ主任収入官吏ニ送付スルトキハ分任収入官吏拂込ニ係ル金庫領收濟通知書ヲ添付スヘシ

訓令第三百十三號(廿三年十一月十七日)

収入証明ニ關スル規程様式等ハ直ニ會計検査院長ヨリ達セラル、後ト心得ヘシ

収入官吏

訓令第九十四號(廿八年十一月九日)

明治二十五年(三月)訓令第四十一號左ノ通更正ス

出納官吏

出納官吏交替ノ際事務引繼ヲチナシタル年月日ハ前任後任連署ヲ以テ其都度届出ヘシ但後任者就職ノ日ト事務引繼ヲ了シタル日ト異ナルニキハ孰レモ届出ル儀ト心得ヘシ

訓令第四十二號(二十九年四月二十八日) 郡役所 警察署 警察分署 監獄支署

國庫ノ會計ニ屬スル分任収入官吏歳入歳出外現金出納官吏配置及該官吏交代ノ際検査方等左ノ通定ス

第一條 郡役警察署警察分署ニ分任収入官吏一名宛テ置キ納稅外諸収入ノ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ官吏ハ郡役所ニ於テハ會計事務擔當ノ上席郡書即警察署ニ於テハ次席郡書即警察署ナキトキハ署長警察分署ニ於テハ署長トス

第二條 警察署警察分署及監獄支署ニ歳入歳出外現金出納官吏一名宛テ置キ歳入歳出外ノ現金出納ヲ取扱ハシム

前項ノ官吏ハ警察署警察分署ニ於テハ分任収入官吏ヲシテ之ヲ兼テシメ監獄支署ニ於テハ署長トス

第三條 分任収入官吏歳入歳出外現金出納官吏交代ノトキニ於テハ會計規則第九十一條ノ検査ヲナスヘキ官吏ハ細島警察署ヲ除クノ外各警察署及監獄支署ニ係ルモノハ其署所在地郡役所會計事務擔當ノ上席差支ノト郡書記トシ細島警察署及各警察分署ニ係ルモノハ其時々之ヲ命スルモノトス

第四條 細島警察署ヲ除クノ外各警察署分任収入官吏歳入歳出外現金出納官吏及監獄支署歳入歳出外現金出納官吏交代シタルトキハ内務部長ヨリ之ヲ其署所在地ノ郡長ニ通知スルモノトス

郡長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ前條ノ検査員ニ通達スヘシ

訓令第五百五十二號(廿七年九月廿七日) 郡役所

明治二十四年(二月)縣令第十四號第二十八項官有土地及山林原野ニ屬スル枯木、倒木、障害木等ノ賣却(國庫歳入ニ)ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ但二十三年(四月)訓令第三百三十六號ハ廢止ス

第一條 官有土地及山林原野ニ屬スル枯木、倒木、障害木、危險木、測量ニ支障アル竹木ヲ賣却セシトスルキハ二十二年勅令第六十號會計規則ニヨリ賣却スヘシ

訓令第五百五十二號(廿七年九月廿七日)

郡役所

明治二十四年(二月)縣令第十四號第二十八項官有土地及山林原野ニ屬スル枯木、倒木、障害木等ノ賣却(國庫歳入ニ)ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ但二十三年(四月)訓令第三百三十六號ハ廢止ス

第一條 官有土地及山林原野ニ屬スル枯木、倒木、障害木、危險木、測量ニ支障アル竹木ヲ賣却セシトスルキハ二十二年勅令第六十號會計規則ニヨリ賣却スヘシ

第二條 賣却結了シタルトキハ左記書式ニヨリ直ニ内務部長ヘ報告スヘシ
 第三條 賣却代金ハ二十六年(十一月)大藏省訓令第四十二號ニヨリ交付スル納入告知書ニヨリ納付セ
 ヲムヘシ

第四條 賣却竹木ハ前條代金納付ノ証ヲ認メ引渡スヘシ
 官有土地及山林原野ニ屬スル枯木(又ハ倒木、障害木、危險木、測量ニ支障アル竹木)賣却報告書

所在地	地番	地目	種類	數量	代價	買受人氏名
何郡何町(村)大字何字何字何	何番	原野	松倒木	一本	二〇〇	何郡何町(村)大字何字何字何 誰
、、、、、	、	、	杉枯木	二本	二〇〇	、、、、、
、、、、、	、	、		三本	三〇〇	、、、、、
合計					三〇〇	

右公賣執行候條及報告候也
 年 月 日
 内務部長宛
 郡長氏名印

訓令第六十八號(廿三年三月廿日)
 明治二十三年度以降郡長管内旅費豫算取扱方左ノ通之ヲ定ム
 第一條 旅費ハ毎年度豫算ヲ定メ之ヲ達スヘシ
 第二條 旅費ハ豫算ノ増額ヲ許サス但臨時ノ事故ニ因リ不足ヲ告クルトキハ事實ヲ具シ豫メ知事ノ裁可ヲ乞フヘシ

郡役所

第三條 郡長ハ旅費ノ豫算支拂ヲ明瞭ナラシムル爲メ適宜帳簿ヲ設クヘシ
 第四條 旅費ハ直接ニ本人ニ交付シ又ハ本人ヨリ直接ニ返納セシムヘキニ依リ之ヲ受取又ハ返納シタルトキハ直ニ郡長ニ報告セシムヘシ
 本人ヨリノ旅費請求又ハ精算書類ハ郡長ヲ經由セシムヘシ

郡役所

訓令第二百二十六號(廿六年九月十一日)
 郡長旅費ノ内左ノ通減額シ明治二十六年九月十六日ヨリ施行ス

區別	車馬賃	一日毎	當
管内旅行	金拾貳錢	金壹圓貳拾錢	
所轄郡内旅行	金拾貳錢	金壹圓	

訓令第二百二十八號(廿六年九月十三日)
 監獄支署
 國庫支辨ニ係ル旅費中車馬賃日當額管内ニ限リ左ノ通り減額シ明治二十六年九月十六日ヨリ施行ス

區別	管内車馬賃一里毎	管内日當一日毎
判任(月俸拾貳圓以上)	金九錢	金六拾錢
官(月俸拾貳圓未満)	金七錢	金四拾五錢
雇	金六錢	金參拾五錢

訓令第二百二十七號(廿六年九月十一日)
 警察署 警察分署

明治十九年六月内務省令第十一號警察官吏其他内國旅費概則第一條ニ係ル旅費中車馬賃日當額管内ニ限リ左ノ通減額ヲ明治二十六年九月十六日ヨリ施行ス

警部月俸拾貳圓以上ノモノ

管内車馬賃

壹里毎

金九錢

管内日當

一日毎

金六拾錢

訓令第三十二號(廿八年三月二十七日)

警察署 警察分署

明治十九年六月内務省令第十一號警察官吏其他内國旅費概則第二條第一項ノ場合ニ限リ日當金七拾錢ニ減額シ明治二十八年度ヨリ施行ス

訓令第八十一號(明治二十年五月五日)

那役所

明治二十年(三月)訓令第三十六號陸軍歸休兵並ニ豫備軍后備軍編員兵員臨時召集旅費金支出スヘキ金庫區域左ノ通リ設定セラル

宮崎那北那珂郡

宮崎國庫金出納所

南那珂郡

宮崎國庫金出納所

眠肥出納支所

北諸縣郡

全

都城出納支所

西諸縣郡

全

小林出納支所

兒湯郡

全

高岡出納支所

東臼杵郡

全

高嶺出納支所
延岡出納支所

告示第三十八號(廿五年四月二十日)
明治二十五年(三月)陸軍省令第五號陸軍召集旅費支出規程第八條特設ノ支給場所左表ノ如ク

陸軍召集旅費特設ノ支給場所表

郡名	支給場所	區	城
南那珂郡	福島村役場	大東村	福島村 北方村 本城村 市木村 都井村
北諸縣郡	高崎村役場	山之口村 高崎村	高城村 志有池村 庄内村 西嶽村 山田村
西諸縣郡	加久藤村役場	飯野村	加久藤村 眞幸村
兒湯郡	下榎北村役場	下榎北村 東米良村	上榎北村 三財村 三納村 都農郡村 西米良村
兒湯郡	美々津村役場	木城村	川南村 都農村 美々津村
東臼杵郡	北方村役場	北方村	南方村
東臼杵郡	北郷村役場	東郷村	南郷村 北郷村 西郷村
東臼杵郡	富高村役場	岩脇村	富高村 細島町 門川村
西臼杵郡	鞍岡村役場	三ヶ所村	鞍岡村 椎葉村

西臼杵郡

全

三田井出納支所

備考 本表區域内ニ居住スル將校下士並兵員（稱卒ニシテ召集ニ應スル者ノ旅費ハ總テ本表ノ場所ニ於テ支給スルモノトス）
 本表ニ掲示セサル町村ハ總テ其所轄郡役所ニ於テ支給スルモノトス

訓令第九十二號（廿七年五月十七日）

郡役所 陸軍召集旅費出納官吏

陸軍召集旅費支出細則左ノ通改定ス

陸軍召集旅費支出細則

- 第一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ旅費金支給ノ際第一號書式ノ領收證書ヲ徴シ第二號書式ニ據リ仕拂證書ヲ調製ス可シ
- 領收證書ハ現金前渡ヲ取ケタル官吏ニ於テ調製シ旅費金支給ノ際受取人ヲシテ捺印セシム可シ
- 第二條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ召集終了後二十日以内ニ仕拂計算書ニ第一條ノ仕拂證書ヲ添付シ師團司令部ヲ經テ仕拂命令官ニ送付ス可シ
- 仕拂殘金アルトキハ第三號書式ノ返納證書ヲ調製シ其演習召集ナルトキハ不應者各人別ノ金額人名書ヲモ添付シ前項ノ手續ニ依リ送付ス可シ
- 演習召集ニ該リ返納スヘキ金額アルトキハ仕拂計算書備考ヘ「返納高ノ金額ハ返納告知書到達ノ上返納ス」ト記載スヘシ
- 第三條 郡長演習令狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ第四號書式ニ據リ演習召集旅費人別簿ヲ作り現金前渡ヲ受ケ可キ官吏ニ送付スヘシ
- 第四條 演習召集ニ際シ明治二十五年（三月）陸軍省訓令甲第二號ノ旅費金支給ノ日時ハ成ル可ク應召員ノ旅費金受領後直チニ出發シ得ヘキ様之ヲ定ムヘシ

第五條 演習召集旅費ノ仕拂計算書ハ明治二十六年（十二月）會計検査院達第三號書式ニ準シ其仕拂證書ハ第五號書式ノ表紙ヲ附シ袋綴トナシ證書ノ用紙ハ總テ半紙紙ヲ用ユヘシ

第一號書式

明治何年何月第六師團第一（第二）充員（第六師團後備軍（近衛師團充員）近衛師團後備軍）定時演習豫備役兵召集旅費領收證

領收月日	金高	住	所	召集地	里程	官	氏	名	領收
何月何日	金何程	何郡何町(村)	大字	何所	何里	何兵上等兵	氏	名	印

備考 近衛師團充員近衛後備軍召集ノ分ハ召集地トアルヲ集合地ト記載ス可シ

第二號書式

明治何年何月第六師團第一（第二）充員（第六師團後備軍（近衛師團充員）近衛師團後備軍）定時演習豫備役兵（召集旅費仕拂證書）一金何程

内 譯

住	所	召集地	里程	金高	官	氏	名

右相違無之候也 (但以上何名入營前日某地滞在ニ付一泊料共知本文)

年月日 出納官吏 官 氏 名 印

備考 近衛師團充員近衛後備軍召集ノ分ハ召集地トアルヲ集合地ト記載スヘシ

第三號書式 返納證書

一金何程

但明治四年何月何日第六師團第一(第二)充員(第六師團後備軍)近衛師團充員(近衛師團後備軍)定時演習豫備役兵(召集旅費前受金何程ノ内支給金何程ヲ差引發金返納如本文右返納候也

年月日 出納官吏 官 氏 名 印

第四號書式

演習召集旅費人別簿

住 所	召集地	召集地ニ至ル里程	旅 費	官 氏 名

第五號書式

明治 年度 年月 第 號

經常 軍事費 演習及復習費 復習諸費 從弟 號 證書紙數 葉 縣名 郡名

告示第百八號(廿七年七月十日) 海軍臨時召集旅費支出規程第二條ノ應召者ニ給與スル召集旅費支給場所ハ當分ノ内各郡役所ヲ以テ之ニ充ツ

訓令第三十四號(廿八年三月廿八日) 明治二十三年(四月)訓令第百二十五號徵兵海軍志願兵六週間現役兵旅費交付手續左ノ通改正ス

第一條 徵兵檢査諸費並新兵海軍志願兵六週間現役旅費交付手續
係ル分ハ町村長ニ於テ第一號書式ノ明細書ヲ調製シ該官吏ニ差出シ第二號書式ノ正當領收証書ヲ以テ現金ヲ受取ラントヘシ
第二條 新兵海軍志願兵六週間現役兵ノ入營旅費ハ郡長ハ現金前渡ヲナシ其仕拂ヲナサシムルモノトス但時宜ニヨリ直ニ本人ニ交付スルコトアルヘシ
第三條 郡長ハ第一條第二條ニヨリ現金前渡ヲ受ケ仕拂ヲ完了シタルトキハ第三號書式ノ精算書ヲ調

製シ二日以内ニ仕拂命令官へ送付スヘシ
 第四條 第二條但書ニヨリ直ニ本人へ旅費ヲ交付スルトキハ金庫ヨリ送金セシメ仕拂命令官ヨリ金額
 仕拂命令番號金庫名等ヲ記入シタル通知書ヲ那長へ送付スルコヨリ那長ハ之ヲ本人へ下渡シ現金ノ
 回付ヲ受ケタルトキ裏面ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シ金庫へ送付セシムヘシ
 第一號書式

檢丁旅費明細書

用紙半紙野紙

一金何程

証書何通

内 譯

摘要	里 程	金 員	居 町 村	姓 名
同月何日何々徴兵署 着何日同署發歸町村	何 里	何 程	何町村大字何々	檢 丁 何ノ誰
全	全	全	全	檢丁某保護人 何ノ誰

右ノ通相違無之候也

明治 年 月 日

何那町村長印

現金前渡ヲ受ケタル官吏宛

第二號書式

領收 證

用紙白半紙

一金何程

但町村大字何々發歸月何日何々徴兵署ニ至リ何日全署發歸町村里程何里分
 右正ニ領收候也

何那町村ノ字何々

檢 丁 何ノ誰 印

明治 年 月 日

現金前渡ヲ受ケタル官吏宛

備考 金額ノ同シキモノハ連名ノ證書ヲ差出スモ妨クナシ此場合ニ於テハ一金ニ總額ヲ掲ケ何里分
 ノ下ニ「ッ、一名ニ付金何拾何錢」ト記載スヘシ

第三號書式

府縣徴兵費精算書

用紙半紙野紙

一金何程

前受 高

内

金何程

金何程

金何程

金何程

一金何程

内

金何程

金何程

金何程

參事員手當
備 人 料
檢丁及新兵旅費
雜 費
精 算 高

金何程

内

金何程

金何程

右ノ通ニ候也

雜費
要返納高

參事員手當
檢丁及新兵旅費

現金前渡ヲ受ケタル官吏

官氏名印

明治年月日
仕拂命令官

宮崎縣知事宛

郡役所 町村役場

訓令第三十二號(廿三年二月廿八日)

裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ據リ沒收シタル物件ハ便宜郡長又ハ町村長ヲシテ之ヲ保管仕賣却セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ左ノ手續ニ依リ處理スヘシ但明治二十九年(五月乙卯)第八十一號達ハ廢止ス

第一條 保管又ハ賣却セシムルヲ要スルトキハ第二部按ヨリ通達セシムヘシ

第二條 保管スヘキ通達ヲ受ケタル物件ハ確實ノ方法ニ依リ適宜看守シ賣却スヘキ通達ヲ受ケタル物件ハ其通達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ入札ノ方法ニ依リ公賣スヘシ但廢敗變質ノ虞アルモノハ可成速ニ公賣スヘシ

第三條 前條ノ場合ニ於テハ其期日前五日以上物件所在地及郡役所町村役場其他適宜ノ箇所ニ之ヲ掲

示シ置ク入札ヲ需ムヘシ但前條但書ノ場合ニ於テハ二日以上掲示スヘシ

第四條 公賣ニ付シタル物件相當ノ價格ヲ得サルモノハ賣却ヲ停止スヘシ其停止シタルモノ又ハ買受人ナキモノハ第二郡長ニ報告シ一ヶ月以内ニ公賣ニ付スヘシ但第二條但書ノ物件ハ一週間以内ニ再公賣ノ手續ヲナスヘシ

第五條 物件中官廳ノ烙印アルモノハ公賣ニ付スル前其烙印ヲ消除スヘシ

第六條 物件中毀損廢敗ニ罹リ若クハ物品輕微ニシテ公賣ニ付スルモ價值ナシト認ムルモノ或ハ運搬費置揚料ヲ要シ公賣スルモ其得失相償ハサルモノ或ハ第四條ノ場合ニ於テ尙ホ買受人ナキモノハ第二郡長ニ協議ノ上適宜處分スヘシ

第七條 公賣ヲナシタルトキハ即日落札人住所氏名品目等第一號書式ニ依リ第二部按ヘ報告スヘシ

第八條 公賣代金ハ明治二十二年(十一月)大藏省訓令第六十六號ニ依リ交付スル納入告知書ニ依リ納付セシムヘシ

第九條 賣却物件ハ代金納付ノ後引渡スヘシ但第二條但書ノ物件ハ資力アル者代金納付ヲ保證スルトキハ納付前其引渡ヲナスコトヲ得

第十條 物件取扱上ニ要シタル費用ハ直接債主ヘ交付スヘキニヨリ事田ヲ詳記シタル請求書ヲ取立差出スヘシ

附則

第十一條 明治二十三年三月三十一日迄ハ第七條第八條ノ順序ニ依ラス郡長若クハ町村長ニ於テ直ニ現金ヲ領收シ第三號書式ニ準シタル仕譯書ヲ添ヘ翌月五日迄ニ町村長ハ郡長ヲ經テ第二部長ヘ送付スヘシ

第一號書式

沒收品公賣報告書

品目	數量	公賣 並年 月日	代 價	買受人住所姓名

右公賣執行係條及報告條也

年 月 日

第二部長宛

第三號書式

記

一金何程

是ハ沒收物品公賣代別紙任譯書ノ通

右送納候也

年 月 日

第二部長宛

郡長或ハ町(村)長氏名印

郡長或ハ町(村)長氏名印

任 譯 書

品目	數量	通達 番號 (預書番號)	代 價	買受人氏名

右之通

宮崎縣令第二十九號(二十九年五月十二日)

明治二十三年(四月)縣令第三十八號左ノ通改定ス

第一條 恩給扶助料年金受領者ハ其金額ノ交付ヲ受ケル爲メ每交付期月ニ至リ恩給書證、恩給登錄寫
帖、扶助料証書、生存証書^{條式左}若クハ年金票、年金證書ヲ左ノ區別ニヨリ縣廳郡役所又ハ町村役
場ニ持參シ其査閲ヲ請フヘシ

一 縣廳最寄ノ町村ハ居住者ハ縣廳

二 郡役所^{宮崎郡}最寄ノ町村ニ居住者ハ郡役所

三 縣廳又ハ郡役所^{宮崎郡}ニ遑隔ノ町村ニ居住者ハ町村役場

第二條 郡役所町村役場ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケ其査閲ヲナシタルトキハ生存証書ヲ添ヘ即日之ヲ縣
廳ニ報告スヘシ但町村役場^{宮崎郡}ノ報告書ハ所轄郡役所ヲ經由スヘシ

第三條 縣廳ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ仕拂通知書ヲ恩給扶助料年金受領者ヘ送付シ其金員
ハ直ニ金庫ヨリ回送スヘキニ依リ現金ノ回送ヲ受ケタルトキ該通知書裏面ニ年月日ヲ記入シ署名捺
印シテ金庫ヘ送付スヘシ

第四條 恩給扶助料年金受領者ニ於テ管内ニ係ル受領地ノ轉換ヲ要スルトキハ轉換地ノ郡役所ヲ經由
シ縣廳ヘ届出ヘシ但宮崎郡内ニ轉換スル者ノ届書ハ直ニ縣廳ヘ差出スヘシ

生存証書樣式

何郡何町(村)大字何(寄)番

右現ニ生存致シ且某家ノ戸籍ヲ去リ若シハ婚嫁セシ事等無之且某家ノ戸籍ヲ去リタル事無之候ニ付御證明有之度候也

元何縣屬 何 某

右 何 某 印

年 月 日
右 證 証 候 也

町(村)長 氏 名 印

訓令第五十號(廿五年三月二十三日)

警察 警察分署 監獄支署

在監人所持品及遺失物贓拾置品取扱規程

第一條 在監人所持品及遺失物贓拾置品ハ明治二十二年(九月)内務省訓令第三十六號物品出納規程第六條ノ規定ニシテ物品會計官ニテ直ニ出納セシムルモノトス

第二條 前條物品ノ保管及出納ノ取扱ハ物品會計官吏ヨリ知事ヲ經テ監獄署ハ首席監獄書記警察署同分署監獄支署ハ署長分署長支署長ニ委任スルコトアルヘシ

第三條 前條ノ委任ヲ受ケタル者ハ物品取扱主任トシテ其責ニ任シ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ

第一 保管ノ物品ニ就テハ物主若クハ拾得者母ニ其品名數量物主若クハ拾得者氏名接受月日其他要件ヲ記載シタル目録ヲ作り取扱主任及署員一名並ニ物主若クハ拾得者ノ合意ヲ以テ價格ヲ仮定シ該目録ニ記入シ仮定者各自ノ調印ヲ得テ之ヲ保存シ現品ハ物主若クハ拾得者氏名其他要件ヲ記載シタル票札木札厚紙ノ類ヲ添付シ鎖鑰ノ設ケアル堅牢ノ場所ニ位置ヲ整正シ格段

第二 物品ノ出納ハ次類雜品現金 贓拾置金ノ内稅日ノ證據トナルヘキモノニ限リ三月ハ區分シ憑書ニ據テ第一號様式ノ出納簿ニ登記シ一月毎ニ第二號様式ノ出納計算書ヲ製シ翌月三日限

第三 前項ノ計算書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

受入證明書 第三號様式ニ依リ調製スヘシ

任辨證明書 物品會計官吏ヨリ特ニ要求スル書類

第四條 取扱主任交替ノトキハ前任者ニ於テ現在品ノ目録ニ通テ製シ前任後任兩者立會ノ上現品ト照査シ受渡ヲナシ該目録ニ受渡濟ノ旨ヲ明記シ連印シテ各一通ヲ所持スヘシ

訓令第九十六號(廿四年三月三十一日)

官國幣社 官國幣社保存費中各社共通非常臨時營繕費ニ相當スル金額取扱手續左ノ通定メラル

一 官國幣社保存費中臨時營繕費ニ相當スル金額ハ内務省ヨリ總代ニ交付シ總代ハ直ニ之ヲ大藏省預金局ヘ預ケ入チナスモノトス但臨時營繕費ノ收支ハ東京ニ於テ之ヲ取扱ハシムルモノトス

一 内務省ニ於テ臨時營繕費ノ支出ヲ許可セシ場合ニ於テハ社寺局長ヨリ其旨ヲ總代ニ通知スルモノトス

一 總代ハ右ノ通知ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ預金局ヨリ受戻シ直ニ爲替ヲ以テ其神社ヘ送付スルモノトス

一 總代ハ金額ヲ受ケタル神社官司ヨリ領收証書ヲ出サシメ其旨ヲ内務省ニ報告スルモノトス

一 總代ハ毎年度ノ始メニ於テ臨時營繕費前年度ノ計算書ヲ製シ内務省ニ報告スルモノトス

官國幣社

二百八十八

國庫會計

一總代ハ内務省へ報告シタル上便宜ノ手續新聞紙ニ掲載又ハチ以テ各社へモ報告スルモノトス
其他ノ方法ニヨル

訓令第五百五十八號(廿四年六月九日)

官國幣社

官國幣社保存金區分并ニ取扱方左ノ通心得ヘシ

一官國幣社保存金ハ配付年額十分ノ五ヲ經費及經常管轄費トシ三分五厘ヲ永遠資本金トシ一分五厘ヲ各社共通非常臨時管轄費トス但經費及經常管轄費五分ノ四ヲ經費トシ五分ノ一ヲ經常管轄費トシ各社共通非常臨時管轄費一分ヲ以テ全國ノ共通トシ五厘ヲ以テ縣内ノ共通トス尤モ經常管轄費ハ管轄ノ都合ニ由リテハ經費金ヨリ該費へ流用支辨スルヲ得
一各社共通非常臨時管轄費ハ更ニ各社ノ共有トシテ別段ノ積立トナシ風火災等非常ノ破損ニ際シ其神社ニ拂切支辨スルモノトス但本費取扱ノ爲メ全國ノ官國幣社ヲ通シテ宮司貳名ヲ選定シ當該宮司ヨリ内務省へ届出ツルモノトス
一同上管轄費ノ内全國共通費ハ官幣大社一社ニ付金七千四百圓以内官國幣中社一社ニ付金五千五百圓以内官國幣小社并ニ別格官幣社一社ニ付金三千七百圓以内ヲ以テ一ヶ年度内支出ノ標準トシ縣内共通費ハ別ニ支出ノ制限ヲ設ケス其縣内各社宮司ノ協議ニ任カスモノトス尤出願多分ニテ支出金額差支ユルハ其出願ノ順序ニ依リ翌年度ニ於テ支出スルヲアルヘシ

訓令第三百二十三號(廿三年十二月廿七日)

官國幣社

明治二十年(八月)訓令第五百五十號官國幣社會計規則左ノ通改正シ明治二十四年度ヨリ施行ス

官國幣社會計規則

第一條 官國幣社保存金費消並積立歩合左ノ如シ但經常管轄費ニ不足ヲ生ゼシトキハ經費ヨリ流用支

辨スルコトヲ得

經費

年額十分ノ四分

經常管轄費

全 十分ノ一分

永遠資本金

全 十分ノ三分五厘

各社共通非常臨時管轄費

全 十分ノ一分五厘

第二條 經費又ハ經常管轄費ノ仕拂殘金及永遠資本金ハ總テ大藏省預金局へ預ケ入ルヘシ但預金通帳ハ縣廳ノ保管ニ付シ所用ノ都度之ヲ受取ヘシ

第三條 經費又ハ經常管轄費ノ仕拂殘金ハ翌年度該費ノ臨時補充ニ充ツヘシ

第四條 各社共通非常臨時管轄費ハ各社ノ共有トシテ別段ノ積立ト爲シ風火災等非常ノ破損ニ際シ其神社ニ拂切リ支辨スルモノニシテ其出納ハ總代宮司二名一名ハ官國幣社宮司ニ於テ取扱ヒ該手帳ハ別ニ送スヘシ

第五條 永遠資本金ハ一切之ヲ支辨スルコトヲ許サス但天災地變其他非常ノ事變ニ際シスルコトアルトキハ特ニ臨機ノ處分ニ及フコトアルヘシ

第六條 國庫支出ノ保存金配付ノ年限滿了ニ至リシトキハ第一條ノ割合ニ準シ永遠資本金ノ利子ヲ以テ支辨スルモノトス

第七條 經費經常管轄費及永遠資本金ハ左ノ期限ニ依リ金庫ヨリ送付セシメ別ニ仕拂命令官ヨリ通知書ヲ交付スヘキニ依リ其送金ヲ受ケタルトキハ該通知書裏面ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シテ該金庫ニ交付スヘシ但宮崎宮ニ係ルモノハ每期本廳へ出願ノ上受取ノ手續ヲ爲スヘシ

經費及經常管轄費

每三ヶ月分

自四月至六月

自七月至九月

各其初月

永遠資金

每一ヶ年度分

其年度四月

第十條 永遠資金ノ預ケ金額三百圓以上ニ達セントキハ時機ヲ見計ライ大藏省預金局ヘ請求シテ公債證書ヲ購入スヘシ但購入シタル公債證書ハ尙當局ノ保管ニ付スヘシ

第十一條 經費ハ左ノ科目ニ依リ仕拂フヘシ但私祭攝末社ニ關スル諸費ハ本費支辯ノ限ニアラス

- 俸給 神職及雇員俸給
- 雜費 給仕小使掃部夫及雇上人夫給品備消耗品等筆紙墨及具通信費及其他事務所諸費等
- 旅費 神職及雇員出張旅費
- 祭典費 神饌費諸器具備人給等

臨時營繕費取扱總代費

第十二條 經費ハ定額ニ超過スルコトヲ得ス但特別ノ事故ニ依リ増費ヲ要スルトキハ社入金又ハ通常蓄積金ノ内ヲ以テ補充スルコトヲ得

第十三條 營繕ヲサントスルトキハ仕樣目論見帳ヲ添ヘ其經常營繕ニ在リテハ知事ニ非常臨時營繕ニ在リテハ一厘貳圓以上ヨリ知事ニ非常臨時營繕費ニアリテハ知事ヲ經テ内務大臣ニ出願スヘシ

第十四條 保存費ノ支辯ニ屬セサル箇所ノ營繕ニシテ一厘五圓以上ヲ要シ又ハ舊形ヲ變セントスルトキハ前項ニ依リ知事ニ出願スヘシ

第十五條 社入金ハ毎月總額ノ内十分ノ一ハ神職ニ分配シテ教導費等ニ充テシメ尙左ノ割合ヲ以テ非常豫算金トシ餘額ノ十分ノ四ヲ以テ通常蓄積金トシ各分類シテ之ヲ積立テ其餘ハ私祭攝末社ノ祭事

營繕其他經費又ハ經常營繕費ノ支辯ニ屬セサル費用ニ充ツヘシ但寄附金コシテ寄附者ヨリ其費總額ヲ指定シタルモノハ其指定スル所ニ從テ之ヲ支消シ別ニ積立テテナス限ニアラス

- 金百圓未満 十分ノ一
- 金百圓以上千圓未満 十分ノ二
- 金千圓以上 十分ノ三

第十六條 非常豫備金ハ攝末社ノ非常營繕其他社入金支辯ニ屬スルモノ、特別費用ニ充ツルモノトス

第十七條 通常蓄積金ハ社入金ノ餘裕ナキ場合ニ於テ必須ノ營繕其他臨時ノ費途ニ充用スルモノトス

第十八條 非常豫備金通常蓄積金ハ郵便爲替貯金局ニ預ケ入ルヘシ

第十九條 前項ノ通帳ハ官司ニ於テ嚴重コ之ヲ保管シ紛失盜難等ニ就テハ其責任ヲ負フモノトス

第二十條 氏子其他ヨリ米穀物品ヲ以テ收入セシモノアルトキハ適宜帳簿ヲ設ケテ之ヲ明記シ賣却シテ社入金ニ受入ルヘシ但賣却セントスルトキハ二名以上ノ積蓄ヲ徵シ其高價ヲ採ルカ又ハ競賣ニ付スルモノトス

第二十一條 社入金ノ内氏子收入及寄附金等ハ毎年度分人別ニ記載シ翌年度四月十五日ヨリ六十日間社前ニ報告シ同時ニ寫書普通ヲ縣廳ニ差出スヘシ

第二十二條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ事實ヲ詳具シ知事ノ裁可ヲ請フヘシ

一 第一條但書ニ依リ經費ヨリ經常營繕費ヘ流用支辯セントスルトキ

二 第三條ニ依リ前年度支拂殘ニ屬スル經費又ハ經常營繕費ヲ以テ翌年度該費ニ補充セントスルトキ

三 第十二條ニ依リ社入金又ハ通常蓄積金ヲ以テ經費又ハ經常營繕費ヘ補充セントスルトキ

四 第十六條第十七條ニ依リ非常豫備金又ハ通常蓄積金ヲ支消セントスルトキ

-1 278 15 848" data-label="Text">

五 一個二圓以上又ハ一口五圓以上若シハ異例ノ物品ヲ購入セントスルトキ

六不用物品ヲ賣却セントスルトキ
第二十二條 現金ノ出納并預金及公債証書ハ左ノ帳簿ヲ以テ整理スヘシ但適宜補助簿ヲ設備スルモ妨
ケナシ

現金出納簿

第一號書式

經費及經常管轄

第二號書式

費永遠資本金

第三號書式

社入金出納簿

永遠資本金臺帳

第四號書式

非常豫備金臺帳

第五號書式

通常蓄積金

第二十三條 經費又ハ經常管轄費仕拂殘金ヲ大藏省預金局ニ預ケ入レタルトキハ第四號書式ニ準シ便
宜帳簿ヲ設ケテ之ヲ整理スヘシ

第二十四條 經費經常管轄諸費永遠資本金社入金非常豫備金通常蓄積金ハ第六號乃至第九號書式ニ依
リ毎半年度分翌月十五日マテニ知事ヘ報告スヘシ

第二十六條 帳簿并證憑書類ハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ
一 金員數量ニ係ル一二三十廿卅ノ數字ハ壹貳參拾貳拾參拾ノ字体ヲ用フヘシ又金員數量ハ改刷塗抹
糊貼補綴ヲナスヘカラス若シ書損ノ止止ヲ要スルトキハ中央ニ二條ノ朱線ヲ施シ正字ヲ傍記シ官
司主務者檢印シテ其改訂ノ形跡ヲ明瞭ナラシムヘシ

二 毎日收支ハ其日ニ登記スヘシ
三 證憑書類ハ凡テ金員ノ算出ニ係ル事項ヲ詳記セシメ部類ヲ分チテ編纂シ鄭重ニ保存スヘシ但郵便
税ノ如キ事實證書ヲ得難キモノハ主務者仕拂証書ヲ以テ代用スルヲ得

第二十七條 備品消耗品ハ適宜臺帳ヲ設ケ其購入消費破損賣却等ノ顛末ヲ詳記シ常ニ其現數ヲ明瞭ナ
ラシムヘシ

第二十八條 神社ニ於テハ他ヨリ金錢ヲ借入レ又ハ貸付クルコトヲ得ス
第二十九條 金錢物品ノ收支ハ隨時吏員ヲ派遣シ之ヲ檢査セシムヘシ

第三十條 明治二十三年十二月以前ニ於テ既ニ積立タル保存資金ハ總テ永遠資本金ニ組入レ該資金ヲ
以テ購入シタル公債証書ハ此際之ヲ賣却シテ其現金ヲ大藏省預金局ニ預ケ入ルヘシ

訓令第二百二十七號(廿三年四月十六日)
郡役所 町村役場

究民救助並棄兒養育米代(國庫支)請求並交付手續左ノ通り之ヲ定ム
一 究民救助並棄兒養育米代請求書ハ左ノ雛形ニ據リ豫メ所轄町村役場へ差出タサシメ該役場ハ郡役
所ヲ經由シテ本縣第二部へ送付スヘシ

(雛形)
恤救米(又ハ棄兒)代請求書
一 下米何斗何升何合
但何年何月ヨリ何月迄(又ハ何)ノ分年額何石何斗(又ハ日額)ノ割
(一戸ニシテ數人ノ恤救ヲ受ク)
(ル者ハ其内譯ヲ列記スヘシ)

右ニ對スル代金何町役場ニ於テ御下渡被下度(應下近傍ノ地ニ住スル者ハ)此段奉願候也
單ニ御下渡云々ト認ムヘシ

何郡何町大字何

知事宛 年月日

癡疾(又ハ疾病、老衰、幼弱)何ノ誰印

一前項ニ依リ送金ヲ要スルトキハ會計主務官ヨリ規定ノ領收證用紙(本人へ送付)ヲ役場へ送付シ現金ハ別ニ金庫ヨリ正當受取人宛ヲ以テ役場へ送付セシムルニ依リ金員到達シタルトキハ本人ニ交付シ該領收證用紙ニ其年月日ヲ記入シ署名捺印シテ金庫ニ交付セシムヘシ但廳下近傍(廳下ヨリノ地ヲ)ノ地ニ居住スル者へハ直ニ本縣第二部會計課ニ於テ交付スル者トス

訓令第五十一號(二十九年五月二十一日)

郡役所

聯隊區徵兵署ニ屬スル備品取扱方左ノ通定ト但二十年(三月)訓令第五十四號ハ廢止ス

第一條 聯隊區徵兵署ニ屬スル備品ハ郡役所ニ於テ保管スヘシ

第二條 郡役所ニ於テハ物品取扱主任者ヲ定メ置キ備品現在簿(様式適宜)ヲ設ケ之カ出納一切ヲ取扱其責ニ任セシムヘシ

第三條 備品ノ新調若クハ修繕ヲ要スルトキハ代價見積書ヲ添へ請求スヘシ

第四條 備品ヲ受入レ又ハ不用ニ屬セシトキハ取扱主任者ヨリ領收證若クハ返納証ヲ送付スヘシ但不用ニ屬セシ現品ハ内務部長ヨリ處分方通牒スル迄其備保管スヘシ

第五條 備品ヲ亡失毀損セシトキハ左ノ書類ヲ添へ報告スヘシ

一故意怠惰ニ由レルモノト思料シタルトキハ其顛末ヲ詳記セル取調書及相當價格(毀損ハ其ノ毀損部分ニ對スル分)調書 二故意怠惰ニアラサルモノト思料シタルトキハ取扱主任者ノ證明書

第六條 故意怠惰ニ由リ亡失毀損シタルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第七條 保管ノ爲メ置場料ヲ要スルトキハ豫メ認可ヲ受クヘシ

第八條 前條置場料ハ一ヶ年度分取纏メ直接債主へ交付スヘキニヨリ翌年度四月十五日迄ニ請求書ヲ取立差出スヘシ

附 則

第九條 二十三年(三月)訓令第五十四號ニヨリ置場料認可濟ノ分ハ此際更ニ第七條ノ手續ヲ要セス

訓令第十六號(廿七年一月廿五日)

郡役所 町村役場

明治二十三年(六月)法律第四十四號全年(同月)法律第四十五號明治二十四年(十二月)法律第四號ニ依リ扶助料ヲ受クル者死没若クハ權利消滅シタルトキハ遺族若クハ本人又ハ後見人等ヨリ直ニ届出シメ其轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ及支給期限ノ滿チタル者ニシテ轉給ヲ受クヘキ者ナキ場合ハ扶助料証書ヲ返納セシムヘシ

訓令第二百七十號(廿三年十一月七日)

郡役所

明治十九年(十月)訓令第十三號諸貸付金取扱手續左ノ通改正ス

諸貸付金取扱手續

- 第一條 諸貸付金ハ便宜帳簿ヲ設ケ整理スヘシ
- 第二條 左ニ掲クル諸件ハ其都度内務部ニ報告スヘシ
 - 一 負債者死亡若クハ退隱等ニ依リ相続人へ債權ノ移轉セシトキ
 - 二 負債者死亡等ニ依リ絶家セシトキ
 - 三 負債者他府縣へ轉居セシトキ
 - 四 負債者失踪逃亡セシトキ若クハ復歸セシトキ

五負債者身代限ノ處分ヲ受ケシトキ

第三條 負債者其債務ヲ他人ハ移轉セシメトテ願出テタルトキハ事由ヲ詳悉シ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第四條 負債者管内他郡へ轉居セシトキハ當初貸付ノ事由金額及返納スヘキ年月日若クハ据置ノ事由等ヲ詳記シ轉居先ナル郡役所へ引繼其都度届出ツヘシ其引繼ヲ受ケタル郡役所モ亦同ツ

第五條 前條ニ掲クルモノ、外負債者他府縣ヨリ轉居其他ノ異動ハ其都度内務部ヨリ通知スヘシ

第六條 負債者中身代再興ノ上返納スヘキ約アルモノハ毎月三月三十一日ヨリ於ケル生活ノ現狀詳細取調四月五日限リ報告スヘシ但身代ヲ持直シ返納ノ資力アリト認メシトキハ其都度報告ノ手續ヲナスヘシ

宮崎縣令第一號(廿四年一月四日)

明治二十三年(四月)逕信省告示第六十八號民有地ニ建設セル電信柱敷地手當金 甲年四月一日ヨリ乙年三月三十日マテ 乙年四月當廳へ差出スヘシ但明治二十三年五月縣令第四十三號ハ廢止ス

訓令第二十八號(廿五年二月廿九日)

出納官吏現金出納簿ノ備從來一人ニシテ職職ヲ兼タル者ハ各職務(收入、現金前渡、雜)並ニ各主管廳毎ニ各別ニ調製ヲ要シ候處來ル二十五年年度ヨリ右區別方ヲ廢シ一人一冊ヲ備ヘ總テ之ニ記入整理スル儀ト心得ヘシ但現金出納簿ノ補助簿ヲ設ケ其職務並ニ主管廳ヲ區別整理スルハ妨ケナシ

訓令第一百一號(廿五年七月七日)

地方稅滯納處分ノ末土地ヲ買上タルトキハ北都郡町村名大字名字番號地目反別地價地租所有主名及買上年月日ヲ所轄直稅分署へ通知スヘシ

訓令第六十九號(廿六年四月十七日)

郡役所 警察署 警察分署 間稅分署 監獄支署 郡役所警察署警察署及監獄支署ニ於テ其廳所用ノ船車ヲ新調シタルトキハ間稅分署へ通知シ縣廳銘號ノ燒印ヲ受クヘシ但解破シタルトキハ其時々通知スヘシ 間稅分署ニ於テ前項ノ燒印ヲ烙記シ又ハ破解ノ通知ヲ受ケタルトキハ其時々間稅署長へ報告スヘシ

訓令第四百十號(廿七年八月廿三日)

政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル漂流物公賣代金等取扱方左ノ通心得ヘシ但明治二十六年(七月)訓令第四百十二號ハ廢止ス

一 町村長ハ權利未定若クハ所在不明ノモノ確定或ハ判明シ現金ノ拂戻ヲ要スルモノアルトキ若クハ權利ヲ拋棄シタルモノアルトキハ金額事由宿所氏名ヲ詳記シ本廳出納官吏へ報告スヘシ

一 但權利ヲ拋棄シタル場合ハ本人ヨリ棄權書ヲ添付スヘシ

一 本廳出納官吏ヨリ町村長へ向ケ拂渡證書ヲ送付シタルトキハ町村長ハ之ヲ權利者ニ交付シ第二號書式ノ領收證書ヲ徵シ本廳出納官吏へ送付スヘシ

第一號書式 上納証

一金何程

但(漂着何品何程何年月何日何郡何町(村)何某拾得ノ分公賣代金ノ「三分ノ二」「半額」
右ニ納候也

明治何年何月何日

町村長 氏 名 印

本廳出納官吏

官氏名宛

第二號書式

領收証書

(用紙白半紙)

一金何程

但何々金

右拂渡証書ヲ以テ御交付相成止ニ領收候也

何郡何町(村)

何 某 印

明治何年何月何日

本廳出納官吏氏名宛

郡役所 町村役場

訓令第三十四號(廿九年四月八日)

明治二十七年法律第二十二號實業教育費國庫補助法ニ依リ補助ヲ受クル學校ノ經費豫算中學校長及教
員ノ俸給ハ文部大臣ノ認可ヲ得ルニアラサレハ他ノ費目ニ流用スルヲ得ス

地方會計

訓令第四十一號(廿七年三月二十日)

郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校(獸醫學校ヲ除ク)

宮崎縣會計規則左ノ通定
宮崎縣會計規則

第一章 總則

第一條 地方稅備荒儲蓄金ニ屬スル歳入歳出及歳入歳出外雜部金ノ會計ハ此規則ニ依ル

第二條 歳入ハ款項目歳出ハ款項目ヨリ區分ニ依リ整理スルモノトス但其科目ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 地方稅各年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ハ翌年度五月三十一日マテニ閉鎖スルモノトス

第四條 各年度所屬歳入歳出ノ出納事務ハ地方稅ハ翌年度六月三十日備荒儲蓄金ハ翌年度四月二十日

マテニ完結スルモノトス

第五條 地方稅歳入ハ左ノ區分ニ依リ年度ノ所屬ヲ定ムルモノトス

第一 税金授業料上錢賦金ハ産使用科學校書記金ノ額ハ其事實ノ屬スル年度

第二 土地建物及物產賣却代ノ類ハ其契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第三 寄附金國庫補助金國庫下渡金ノ類ハ豫算ニ於テ決定シタル年度

第四 懲罰金賠償金納金違約金過年度收入及前各項ノ類別ニ入ラサル收入ハ納入告知書ヲ發スル
モノハ之ヲ發シタル日其發セサルモノハ現金ノ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第六條 地方稅歳出ハ左ノ區分ニ依リ年度ノ所屬ヲ定ムルモノトス

第一 縣債ノ元利及年金ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 給料旅費手取料鑑定料借入料町村交付金療養費定時刊行物購入代運搬費及常時支給スル

諸給與又ハ補助ノ類ハ其事實ノ屬スル年度
 第三 飲損補填金 行旅死亡人諸費難儀船費及一時支給スル諸給與又ハ補助ノ類ハ其決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度
 第四 物件購入代印刷費ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但豫算ニ於テ決定シタルモノニシテ其年度開始前特ニ契約ヲ爲スモノハ其相當年度ニ編入シ又契約ノ數年ニ渉ルモノハ契約ニ依リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ
 第五 土木建築測量費ノ類ハ其事業ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但天災時變其他止ムヲ得サル事故ニ依リニ特ニ其事業ノ年度ニシテ涉リタルモノハ當該年度ニ編入スヘシ
 第六 過年度之出及前各項ノ類別ニ入ラサル費用ハ仕拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度
 第七條 備荒儲蓄金ノ歳入歳出ハ其出納ヲ爲シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムルモノトス
 第八條 出納閉鎖期限前ニ於テ其年度ニ屬スル過誤納下戻及過誤拂戻入ヲ要スルモノハ過誤納ハ其年度歳入中當該科目ヨリ下戻シ過誤拂ハ其年度歳出中當該科目ヘ戻入ヲナスモノトス
 第九條 歳入歳出及雜部金ニ係ル現金ノ出納ハ總テ縣金庫ニテ取扱フモノトス
 第十條 左掲クルモノハ知事又ハ知事ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命シタル現金出納官吏ニ於テ現金ヲ出納スルコトヲ得
 第一 公債元利金及政府ノ交付金
 第二 生徒授業料及寄附者ノ直接納付ヲ求ムル寄附金
 第三 第二十一條ニ依リ現金ノ前渡ヲ受タル經費
 第四 入札保証金
 第五 物品賣却ノ際其物品引替ニ領收ヲ要スル代金

第六 縣金庫設置ナキ地ノ各廳ニ於テ收納ヲ要スル諸收入金
 第七 各所ヨリ直ニ送付シ來ル現金
 第八 右ノ外特ニ知事ノ指揮又ハ認可ニ依ルモノ
 前項第四ハ縣金庫又ハ現金出納官吏ノ取扱ヲ不便トスル場合ニ在テハ其工事又ハ物件ノ賣買ヲ擔任スル官吏ニ於テ特ニ出納スルコトヲ得

第二章 豫算

第十一條 歳入歳出豫算議案ハ前年度十月十日マテニ完成スルモノトス但臨時追加變更ヲ要スルモノハ其都度之ヲ編成スルモノトス
 第十二條 歳出豫算中各科目ノ金額ハ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ流用スルヲ得ス但別段ノ規定ヲ以テ之ヲ許シタルモノハ此限リニアラス
 第十三條 豫算ノ臨時不足セントスル場合ニ於テ他ニ流用ノ途ナキトキ若クハ豫算外ニ生シタル事件ノ費用ヲ要スルトキハ其所要ノ事由ヲ詳ニ増額ノ手續ヲナスモノトス

第三章 收入及支出

第十四條 歳入中雑收入及備荒儲蓄金ノ收納ハ知事又ハ知事ノ分任シタル官吏ニ於テ之ヲ調定シ納人ニ對シ納入告知書ヲ發シ縣金庫ニ納付セシムルモノトス但第十條ニ依リ現金ヲ收納スルトキハ納入告知書ヲ發セサルモ妨ケナシ
 第十五條 雜部金ヲ現金出納官吏又ハ縣金庫ニ於テ出納スルハ知事又ハ知事ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命令ニ依ルモノトス
 第十六條 現金出納官吏又ハ縣金庫ニ於テ現金ヲ收納シタルトキハ保證金ノ如キ一時ノ保管ニ屬スルモノニハ保管證書其他ノモノニハ領收證書ヲ納人ニ交付スルモノトス但物品賣却ノ際其物品引替

ニ現金ヲ領收スルモノニ就テハ領收證書ヲ發セサルモ妨ケナシ
第十七條 出納閉鎖前ニ係ル其年度或入過誤納下戻金ハ其歳入ヲ測定シタル官吏ニ於テ下戻令書ヲ納
人ニ交付シ納人ヲシテ縣金庫又ハ現金山納官吏ヨリ之ヲ受取ラシムルモノトス
第十八條 雜部金外ノ支出ハ知事又ハ知事ノ分任シタル官吏ニ於テ縣金庫ニ向ヒテ仕拂ヲ命令シ縣金
庫ニ於テ之ヲ仕拂フモノトス
仕拂命令ハ通常支出及繰替拂ニ係ルモノハ正當ナル債主ノ爲メニ之ヲ發シ前渡ニ係ルモノハ第二十
一條ノ費金ヲ取收フヘキ現金出納官吏ノ爲メニ之ヲ發スルモノトス
第十九條 仕拂命令ハ債主又ハ現金出納官吏ニ之ヲ交付シ縣金庫ニ就キ現金ヲ受取ラシムルモノトス
但遠隔ノ地ニ在ル債主又ハ現金出納官吏ニ仕拂ヲ要スルモノハ仕拂命令ヲ直ニ縣金庫ニ交付シ送金
券ト交換ノ上之ヲ送付スルモノトス
第二十條 現金前渡ハ一ノ現金出納官吏ニ對シ貳百圓以內トス
一旦前渡ヲナシタル現金出納官吏ニ對シ更ニ前渡ヲ爲スモ亦先キノ前渡金殘額ト併セテ前項ノ制
限ニ依ル
第二十一條 前渡ヲナスコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ
第一 機密費
第二 縣金庫設置ナキ地ノ各廳ノ經費
第三 官吏出張先ニ於テ特ニ仕拂ヲ要スル經費
第四 非常急遽ノ場合ニ於テ特ニ仕拂ヲ要スル經費
第五 右ノ外特ニ知事ノ指揮又ハ認可ニ依ルモノ
前項ノ經費ハ必要アル場合ニ於テハ年度開始前ト雖モ特ニ前渡ヲナスコトヲ得

第二十二條 縣金庫設置ナキ地ノ各廳經費ノ前渡ヲ受ケタル現金出納官吏ハ知事ノ分任シタル官吏ノ
決定ニ依リ之ヲ支出シ其他經費ノ前渡ヲ受ケタル現金出納官吏ハ其權限ニ依リ之ヲ支出スルモノト
ス
第二十三條 概算渡ヲ爲スコトヲ得ヘキモノハ旅費及特ニ知事ノ指揮又ハ認可ニ依ルモノニ限ル
第二十四條 地方税ニ屬スル經費ヲ以テ繰替拂ヲ爲スコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ
第一 巡查管内赴任旅費
第二 他廳ノ支辨ニ屬スル在監人及護送囚人諸費
第三 官廳外ヨリ來ル郵費ノ不足又ハ未納郵便税
第四 右ノ外知事ノ指揮又ハ認可ニ依ルモノ
第二十五條 仕拂命令ヲ現金ト交換スルハ該命令發行ノ日ヨリ三十日以内トス但出納閉鎖期ニ際シ
テハ特ニ本文ノ日限ヲ短縮スルコトヲ得
第二十六條 出納閉鎖前ニ係ル其年度或入過誤納戻入金ハ其仕拂命令者ニ於テ本人ニ返納告知書ヲ發
シ本人ヲシテ現金出納官吏又ハ縣金庫ニ之ヲ納付セシムルモノトス
第二十七條 歳入或出納報告書ハ翌年度八月三十一日迄ニ完成スルモノトス
第四章 決算及責任
第二十八條 分任仕拂命令官分任仕拂決定者分任收入測定者現金出納官吏及知事ノ命シタル其各代理
者ハ其取扱タル事務ニ就キ計昇書又証憑書類ヲ以テ之ヲ知事ニ證明スヘシ
第二十九條 前條ノ官吏ハ其責任ニ屬スル事務ニ付自ラ之ヲ執ラサルヲ理由トシ其責ヲ免ル、コトヲ
得ス
第三十條 第二十八條ノ官吏ハ歳入或出ニ就テハ其精算告示ノ日雜部金ニ就テハ計算書ヲ差出シタル

翌月ヨリ三ヶ月ヲ過キタル日ヲ以テ責任ヲ了リタルモノトス但誤謬脱漏又ハ詐偽ノ證據ヲ發見シタルトキハ此限ニアラス

第五章 工事及物件ノ買賣貸借

第三十一條 工事又ハ物件ノ買賣貸借ハ總テ廣告シテ競争入札ニ附スルモノトス但左ノ場合ニ於テハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入ル、トキ

第二 特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第三 特別ノ技術家ニ命スルニテサレハ製造シ得カラサル製造品及器械ヲ買入ル、トキ

第四 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造等ニ限リタル場合

第五 貳拾圓ヲ超ヘサル工事又ハ拾圓ヲ超ヘサル物品ノ買入ヲ爲ストキ

第六 一ヶ月以内ノ期限ニ於テ借料五圓ヲ超ヘサル物品ノ買入ヲ爲ストキ

第七 試験ノ爲メ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第八 官有、其他一私人ノ所有ニアラサル、竹木土石ヲ直接ニ買入ル、トキ

第九 縣立學校生徒ノ農工作物ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ農工作物ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十一 縣立學校生徒ノ製作物品ヲ賣拂フトキ

第十二 囚徒ノ農工作物ヲ賣拂フトキ

第十三 特ニ關シアル市町村ニ於テ工事ノ請負ヲサシムルトキ

第十四 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ第三十八條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙豫定價格ノ

制限ニ達セサルトキ但之レガ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルニトヲ得ス

第十五 急應ヲ要シ競争ニ付スルノ暇ナキトキ

第十六 見積價格拾圓ヲ超ヘサル物品ヲ賣拂フトキ

第十七 特別ノ事由アルモノエ動産不動産ノ賣渡貸渡ヲ要スルトキ

第十八 右ノ外特ニ競争ニ付スルノ便益ナラサル事田アリト認ムルトキ

第三十二條 入札ハ工事又ハ物件ノ買入借入ニ就テハ最低價ヲ以テ落札トシ物件ノ賣却及貸渡ニ就テハ最高價ヲ以テ落札トス但工事又ハ物件ノ買入借入ニ係ル最低價ノ入札コシテ不相當ト認ムルトキハ時宜ニ依リ再入札ニ付シ又ハ相當ト認ムルモノヲ以テ落札トナスコトアルヘシ

第三十三條 廣告ハ新聞紙ニ掲載シ又ハ入札執行地其他發所ニ揭示スル等適宜ノ方法ニ依リ少クトモ五日以前ニ之ヲ爲シ其廣告ニハ左ノ事故ヲ記載スルモノトス但新聞紙ニ廣告スルハ二日以上五日以内トス

第一 競争ニ付スル事故

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取締ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争ハ札執行ノ場所日限及時刻

第四 入札人ヲシテ心得置カシムヘキ事項

第五 入札ノ保證金額及其處分

第六 特ニ入札人ノ資格ヲ定ムルノ必要アルトキハ其事項

第七 右ノ外必要ナル事項

第三十四條 入札ヲ爲サントシ若クハ契約ヲ結ハントスル者ニハ現金又ハ國債證書ヲ以テ保證金ヲ納

メシムルモノトス但特宜ニ依リ確實ト認ムル有價證券ヲ以テ代納セシムルコトアルヘシ
保證金ハ豫定價格又ハ競争契約金高百圓未滿ノ事項並隨意契約ノ事項ニ限り之ヲ免除スルコトアル
ヘシ

第三十五條 保證金ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

- 一 入札保證金ハ豫定價格百分ノ三以上
- 二 契約保證金ハ契約金高百分ノ七以上

第三十六條 競争入札ニ付シタル工事物件ノ價格ハ之ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ開札
場所ニ置クモノトス

第三十七條 入札人ヲシテ開札ノトキ其場所ニ出席セシムルト否トハ實際ノ便宜ニ依リ之ヲ定メ廣告
若クハ入札人心得書中ニ掲載スルモノトス

入札者ヲシテ開札ノトキ其場所ニ出席セシムル場合ニ於テ欠席者アルトキハ其入札ハ無効トス
入札者開札場所ニ出席ヲ要セサル場合ト雖其望ミアルトキハ出席セシムヘシ

第三十八條 開札場所ニ入札人ヲ出席セシメタル場合ニ於テ開札ノ上一モ豫定價格ニ達シタル入札ナ
キトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルモノトス

第三十九條 開札ノ上落札トナルヘキ同價ノ入札アリタルトキハ其開札場所ニ入札人出席シタル場合
ニ在テハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシメ再度ノ入札ニシテ尙同價ノモノアルトキ又
ハ其開札場所ニ入札人ノ出席セサル場合ニ在テハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムルモノトス

第四十條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ違約金トシテ縣ノ經濟
ニ屬スル所得トス

第四十一條 工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ係ル契約書ハ二通ヲ製シ其契約セントスル事項ノ設計仕譯落

成期限受渡期限保證金額契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分其他一切必要ナル條件ヲ揭ケ契約者双
方署名捺印シ各壹通ヲ領置スルモノトス但特宜ニ依リ請書又ハ適當ト認ムル書類ヲ以テ本文ノ契約
書ニ代用スルコトアルヘシ

附 則

第四十二條 工事ノ完成又ハ物品ノ完納前其代價内渡ノ契約ヲ爲ス場合ニ於テ其内渡金額ノ割合ハ既
成又ハ既納部分ニ對スル價額ノ五分ノ四以内トス

第四十三條 此規則ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 此規則ハ明治廿七年度ヨリ旅行ス

第四十五條 此規則ニ抵觸スル從前ノ規定ハ此規則施行ノ年度ヨリ廢止ス

訓令第九十二號(廿八年十一月七日)

明治二十七年(三月)訓令第四十一號官廳縣會計規程第三十一條第十八號ニ依リ隨意契約ヲ爲サントス
ルトキハ事實ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ請フヘシ

訓令第四十四號第廿七年三月二十七日

各廳校縣會計細則左ノ通相定メ明治二十七年ヨリ施行ス但様式ハ別ニ領ツ

第一章 總 則

第一條 本則ニ於テ各處ト稱スルハ郡役所警察署警察分署監獄支署ヲ云ヒ各校ト稱スルハ尋常師範學
校尋常中學校ヲ云フ

郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校(獸醫學校ヲ除ク)

郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校(獸醫學校ヲ除ク)

第二條 官崎縣會計規則以下單ニ規第十條ノ現金出納官吏ハ郡役所ニ於テハ會計主務ノ主席郡書記警察署警察分署監獄支署ニ於テハ署長各以ニ於テハ會計主務ノ主席書記トス但縣金庫設置ナキ地ノ各廳ノ前渡經費ヲ除クノ外現金前渡ヲ受クヘキ現金山納官吏ハ各廳校長ニ於テ隨時之ヲ命シ其時々知事ニ報告スヘシ

第三條 各廳縣金庫設置ナキ校長ハ縣金庫ノ照較ニ供スル爲メ印鑑ヲ所屬縣金庫ニ交付シ置クヘシ各廳縣金庫設置ナキ校長ニ於テ照較ニ供スル縣金庫及事務員ノ印鑑ハ各其縣金庫ヨリ差出スモノトス

第二章 豫算
第四條 郡長ハ第一號様式ニ依リ毎年度地方稅賦課員數豫算書ヲ製シ前年度五月三十一日迄ニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第五條 左ニ掲クル第一ハ郡長第二ハ警察署長及警察分署長第三ハ監獄支署長第四ハ各校長ニ於テ其毎年度豫算ヲ取調ヘ第二號様式ノ豫算書ヲ製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第一 郡吏員給料旅費及廳中諸費雜入、郡廳舍建築修繕費雜入、土木費雜入中並木賣却代、貸坐敷娼妓賦金、年度后追納金

第二 警察費雜入、警察廳舍建築修繕費雜入、年度后追納金

第三 監獄費雜入、縣監獄建築修繕費雜入、年度后追納金

第四 教育費雜入、學校書記納金、年度后追納金

第六條 左ニ掲クル第一ハ郡長第二ハ警察署長警察分署長第三ハ監獄支署長第四ハ尋常師範學校長第五ハ尋常中學校長ニ於テ其毎年度ノ豫算ヲ取調第三號様式ノ豫算書ヲ製シ前年度六月十五日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第一 郡廳舍建築修繕費 第二 警察廳舍建築修繕費 第三 監獄建築修繕費 第四 教育費ノ內尋常師範學校費 第五 教育費ノ內尋常中學校費

第七條 知事ハ毎年度豫算決定額ニ基キ各廳校長ノ經費豫算額ヲ定メ前年度三月三十一日マテニ之ヲ各廳校長ニ達スヘシ

第二十八條ニ依リ仕拂命分ヲ委任スル經費ノ豫算ハ其時々之ヲ達スヘシ

第八條 各廳校長ニ於テ達ヲ受ケタル其廳校經費豫算中規則第十二條ニ依リ流用ノ許可ヲ得ントスルトキハ第四號様式ノ豫算流用計算書ヲ添ヘ知事ニ申出ヘシ

第九條 各廳校長ニ於テ規則第十三條ニ依リ其廳校經費豫算ノ増額ヲ要求セントスルトキハ第五號様式ノ豫算増額計算書ヲ添ヘ知事ニ申出ヘシ

第三章 收入
第十條 歲入中雜收入收納ノ調定ハ第五條ノ區分ニ依リ各廳校長ニ分任ス

備荒儲蓄金中地租貸與返納金官沒地賣却代過年度過課排戻入ノ收入ハ之ヲ各郡長ニ分任ス

第十一條 前條分任外ノ雜收入ニシテ各廳校長ニ收納ノ調定ヲ爲サシムルノ必要アルトキハ其時々之ヲ分任スヘシ

第十二條 各廳校長ニ於テ雜收入及備荒儲蓄金ノ收納ヲ要スルトキハ証憑書類ニ依リ之ヲ調定シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ規則第十四條ニ依リ第六號様式ノ納入告知書ヲ納入ニ交付シ縣金庫所在地ニ在テハ其縣金庫ニ縣金庫設置ナキ地ニ在テハ其廳現金出納官吏ニ納付セシムヘシ但同條但書ニ依リ納入ナシテ現金山納官吏ニ即納セシメ納入告知書ヲ發セサル場合ハ適宜ノ方法ヲ以テ該調定額ヲ現金出納官吏ニ通達スヘシ

第十三條 縣金庫ニ於テ前條ニ依リ納付ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ接續スル領收証書及領收濟通知

書用紙ニ式ノ如ク記入捺印シ領收証書ハ納人ニ交付シ領收済通知書ハ即日其廳校長ニ送付スルモノトス

第十四條 現金出納官吏ニ於テ第十二條ニ依リ納付ヲ受ケタルトキハ告知書アルモノハ之ヲ取置キ第七號様式ノ領收証書ヲ納人ニ交付シ適宜ノ方法ヲ以テ即日其廳校長ニ收納済ノ旨ヲ通知スヘシ

第十五條 各廳校長ハ常ニ各納人ノ納否ヲ調査シ若シ期限内ニ納付セサルモノアルトキハ速ニ督促ノ手續ヲナシ尙納付ノ見込ナキトキハ相當ノ處置ヲナスヘシ

第十六條 出納閉鎖后ニ係ル過年度ノ雜收入及備荒儲蓄金ニシテ收入未定未済ノモノアルトキハ雜收入ハ現年度ノ雜收入年度后追納ニ備荒儲蓄金ハ現年度ノ備荒儲蓄金當該科目ニ編入シ徵收ノ手續ヲナスヘシ

第十七條 毎年度ノ雜收入及備荒儲蓄金ノ收入調定額ニシテ其年度ノ出納閉鎖期限マテ收入ニ至ラサルモノアルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越シ雜收入ハ年度後追納ニ備荒儲蓄金ハ當該科目ニ編入シ之ヲ徵收スヘシ

第十八條 雜部金出納ノ命令ハ各廳校長ニ分任ス

第十九條 縣金庫所在地ノ各廳校長ニ於テ雜部金ノ收納ヲ要スルトキハ後日拂戻ヲ要スル保管金ノ類ハ納人ヨリ第八號様式ノ納付書ヲ差出サシメ式ノ如ク記入捺印ノ上之ヲ返付シ該納付書ヲ添ヘ縣金庫ヘ納付セシメ一時取扱ニ係ル委託金ノ類ハ第九號様式ノ領收令書ヲ納人ニ交付シ納人ヲシテ該令書ヲ添ヘ縣金庫ヘ納付セシムヘシ但他ヨリ直接送付シ來ル現金ノ類ハ送金手形ハ適宜ノ方法ニ依リ其廳現金出納官吏ニ命令シ該官吏ヲシテ之ヲ領收セシムヘシ

第二十條 縣金庫設置ナキ地ノ各廳校長ニ於テ雜部金ノ收納ヲ要スルトキハ適宜ノ方法ニ依リ其廳現金出納官吏ニ命令シ該官吏ヲシテ之ヲ領收セシムヘシ

第二十一條 縣金庫又ハ現金出納官吏ニ於テ第十九條及第二十條ニ依リ雜部金ヲ收納シタルトキハ第十號様式ノ保管証書又ハ第七號様式ニ準シタル領收証書ヲ納人ニ交付シ縣金庫ハ第十一號様式現金出納官吏ハ適宜ノ方法ニ依リ領收済ノ旨ヲ即日其廳校長ニ通知スルモノトス

第二十二條 縣金庫設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ領收シタル雜收入現金ニ對シ内務部長ヨリ第十二號様式ノ振替通達書ヲ受ケタルトキハ之ヲ直ニ其署ノ經費仕拂基金ニ振替ヘ即日第十三號様式ノ振替済通知書ヲ同部長ニ送付シ第十四號様式ノ送納通達書ヲ受ケタルトキハ該通達書ニ式ノ如ク記入捺印ノ上之ヲ添付シ縣金庫ニ納付シ領收証書ヲ受取ルヘシ

第二十三條 縣金庫所在地ノ現金出納官吏ニ於テ領收シタル雜收入備荒儲蓄金ノ現金ハ毎月三回二十日末日第十五號様式ノ拂込書ヲ添ヘ之ヲ縣金庫ニ拂込シ領收証書ヲ縣金庫ヨリ受取ルヘシ但領收ノ金額拾圓ヲ超エルトキハ即日本文ノ手續ヲナスヘシ

第二十四條 縣金庫所在地ノ現金出納官吏ニ於テ領收シタル雜部金ノ内保管金ハ第八號様式ニ準シタル納付書ニ如ク與書ヲ受ケタル上委託金ハ第十五號様式ニ準シタル拂込書ヲ添付シ一庫毎ニ領收ノ日ヨリ三日以内ニ縣金庫ニ送付シ保管金ニ對シテハ保管証書委託金ニ對シテハ領收証書ヲ縣金庫ヨリ受取ルヘシ

第二十五條 縣金庫ノ設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ領收シタル雜部金ハ正當受取人ニ交付シ又ハ歲入ニ振替ヘテ要スマルマテ現金ノ儘ニ之ヲ保管スヘシ

第二十六條 第二十二條乃至第二十四條ニ依リ現金出納官吏ニ於テ縣金庫ヨリ受取リタル領收証書及保管証書ハ直ニ其各廳校長ニ差出シ各廳校長ハ捺印ノ上之ヲ該官吏ニ返付スヘシ

第四章 支出

第二十七條 第七條ニ依リ達シタル各廳校經費預算額ニ對スル仕拂命令若クハ仕拂決定ハ其廳校長ニ

分任ス

第二十八條 各廳校ノ經費ニ屬セザル他ノ經費ニシテ各廳校長ニ任拂テ爲サシムルノ必要アルトキハ其時々任拂命分又ハ任拂決定ヲ分任スヘシ

第二十九條 縣金庫設置ナキ地ノ各廳經費ノ任拂基金ハ知事ニ於テ其須要ヲ圖リ其器ノ現金出納官吏ニ隨時現形前渡ヲナスモノトス

第三十條 各廳校長ニ於テ經費ヲ支出セントスルトキハ証憑書類ニ依リ其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤ豫算ニ超過スルコトナキヤ金額年度科目ヲ誤ルコトナキヤ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ調査スヘシ

第三十一條 各廳校ノ置ナキ地ノ各廳校ノ校長ニ於テ前條ノ調査ヲ了リタルトキハ規則第十八條ニ依リ第十六條ノ任拂命分ヲ調査シ該命令ニ添綴スル任拂案内ハ前以テ縣金庫ニ送付シ任拂命令ハ規則第十九條ニ依リ領收証書引替ニ受取人ニ交付スヘシ但任拂命令ヲ當テタル縣金庫所在地外ニ送付ヲ要スルモノハ規則第十九條但書ニ依リ任拂命令ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ直ニ之ヲ縣金庫ニ交付シ送金券ト交換ノ上即日之ヲ送附スヘシ

第三十二條 縣金庫設置ナキ地ノ各廳校長ニ於テ第三十條ノ調査ヲ了リタルトキハ任拂決定書ニ便宜ノ式并ニ証憑書類ヲ現金出納官吏ニ交付シ現金出納官吏ハ即日該決定書ニ依リ領收証書引替ニ現金ヲ受取人ニ交付スヘシ但各地ニ送金ヲ要スルモノハ送金券ニ交換ノ上廳長ニ差出シ廳長ハ即日之ヲ送付スヘシ

前項ニ依リ現金出納官吏ニ於テ受取リタル領收証書ハ之ヲ廳長ニ差出シ任拂決定書中便宜ノ箇所ニ其領收ノ印ヲ受クヘシ

第三十三條 條給諸給與ノ如キ年度科目同一ニシテ數人ノ債主ニ同時ニ支出シ得ルモノハ連名ノ領收

証書引替ニ取人ノ債主ヲ併セタル任拂命分又ハ現金ヲ交付スルコトヲ得

第三十四條 任拂命令ニ任拂案内トモノ金額ハ更正スルコトヲ得ス若シ記入ヲ誤リタルトキハ分任任拂命令者ニ之ヲ破棄シ原符ニ其旨ヲ朱記認印スヘシ

第三十五條 任拂命令分規則第二十五條ノ期限マテ現金ト交換セザルモノアルトキハ縣金庫ヨリ任拂案内ヲ返付スヘキニ依リ各廳校ノ校長ニ於テ之ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ本人ニ通知シ事由書ニ任拂命令分ノ失ニ係ル地ノ各廳校除ク校長ニ於テ之ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ本人ニ通知シ朱記認印更ニ任拂命令分發付ノ手續ヲナスヘシ但其年度出納閉鎖期限後ハ該命令分ヲ取消シ領收証書ノ其廳校ニ存在スルモノハ之ヲ返付シ第三十六條ノ手續ニ依ルヘシ

任拂命令分亡失毀損シタル等ノ爲メ之レヲ引替テ申出ルモノアルトキハ任拂案内ヲ縣金庫ヨリ返付セシメ前項ニ依リ取扱フヘシ

第三十六條 各廳校長ニ於テ過年度ノ經費任拂未済ヲ發見シタルトキハ其年度科目金額算出事項本人住所氏名及任拂未済トナリタル事由ヲ詳記シ知事ニ報告スヘシ

前項ノ任拂未済金ハ知事ヨリ直ニ本人ニ交付スルモノトス

第三十七條 各廳校長ニ於テ雜部金ノ内保管金ノ拂戻ヲ要スルトキハ保管証書ニ式ノ如ク與書シ本人ニ交付シ縣金庫所在地ニ在テハ其縣金庫縣金庫設置ナキ地ニ在テハ其廳現金出納官吏ヨリ現金ヲ受取ラシムヘシ但縣金庫所在地ノ現金出納官吏ノ發シタル保管証書ハ先ツ該官吏ノ所持スル縣金庫ノ保管証書ト交換セシメタル後小文ノ手續ヲ爲スヘシ

前項但書ニ依リ縣金庫所在地ノ現金出納官吏ニ於テ保管証書交換ノ請ホテ受ケタルトキハ第二十四條ニ依リ縣金庫ヨリ受取リタル保管証書ヲ先キ保管証書ト交換スヘシ

第三十八條 縣金庫又ハ縣金庫設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ前條第一項ニ依リ與書シタル保管証

書ヲ受ケタルトキハ該証書引替ニ現金ヲ本人ニ交付シ即日拂戻濟ノ旨ヲ其廳校長ヘ通知スルモノトス

第三十九條 各廳校長ニ於テ雜部金ノ内ヲ以テ直ニ雜收入ヘ收納ヲ要スルトキハ第十七號様式ノ振替令書ヲ製シ保管金ハ保管証書ヲ添ヘ縣金庫所在地ニ在テハ其縣金庫ヘ縣金庫設置ナキ地ニ在テハ其廳現出納官吏ヘ交付スヘシ

第四十條 縣金庫又ハ縣金庫設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ前條ノ振替令書ヲ受ケタルトキハ雜收入ヘ振替ノ上即日振替濟ノ旨ヲ其廳校長ニ通知スルモノトス

第四十一條 縣金庫所在地ノ各廳校長ニ於テ雜部金ノ内委託金ノ支出ヲ要スルトキハ第十八號様式ノ支山令書ヲ製シ領收証書引替ニ之ヲ本人ニ交付シ本人ヲシテ縣金庫ニ就キ現金ト交換セシムヘシ但各地ニ送金ヲ要スルモノハ支出令書ニ式ノ如ク與書シ直ニ之ヲ縣金庫ニ交付シ送金券ト交換ノ上即日之ヲ送付スルモノトス

縣金庫設置ナキ地ノ各廳校長ニ於テ前項ノ支出ヲ要スルトキハ適宜ノ方法ニ依リ現金出納官吏ニ命令シ該官吏ヲシテ現金ヲ交付セシメ其送金ヲ要スルモノハ送金券ニ代ヘ差出サシメタル上即日之ヲ送付スルモノトス

第四十二條 縣金庫ニ於テ前條第一項ノ支出令書ヲ受ケタルトキハ該令書引替ニ現金ヲ本人ニ交付シ交付濟ノ旨ヲ即日其廳校長ニ通知スルモノトス但送金ヲ要スルモノハ該令書ノ指定ニ從ヒ爲替手數料ヲ引去リタル上金券及郵便切手ニ代ヘ之ヲ其廳校長ニ差出スモノトス

縣金庫設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ前條第二項ノ命令ヲ受ケタルトキハ領收証書引替ニ現金ヲ本人ニ交付シ交付濟ノ旨ヲ即日其廳校長ニ通知スヘシ但送金ヲ要スルモノハ前項但書ノ例ニ依リ取扱フヘシ

第五章 過誤納下戻過誤拂替拂戻入

第四十三條 各廳校長ニ於テ出納閉鎖前其年度ノ雜收入及備荒儲蓄金ノ過誤納金ヲ下戻サントスルトキハ規則第十七條ニ依リ第十九號様式ノ下戻令書ヲ製シ領收証書引替ニ之ヲ納人ニ交付シ納人ヲシテ縣金庫所在地ニ在テハ其縣金庫設置ナキ地ニ在テハ其廳現金出納官吏ニ就キ之ヲ受取ラシムヘシ但各地ニ送金ヲ要スルモノハ下戻令書ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ直ニ之ヲ縣金庫又ハ現金出納官吏ニ交付シ送金券ト交換ノ上即日之ヲ送付スルモノトス

第四十四條 縣金庫又ハ縣金庫設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ前條下戻令書ヲ受ケタルトキハ該令書引替ニ現金ヲ本人ニ交付シ交付濟ノ旨ヲ即日其廳校長ニ通知スルモノトス但送金ヲ要スルモノハ該令書ニ指定セル種類ノ金券ニ代ヘ之ヲ其廳校長ニ差出スモノトス

第四十五條 出納閉鎖期限後ニ係ル過年度ノ雜收入及備荒儲蓄金過誤納下戻ヲ要スルトキハ各廳校長ハ其年度科目金額算出事項納人住所氏名并ニ過誤納トナリタル事由ヲ詳記シ知事ニ報告スヘシ前項ノ下戻金ハ知事ヨリ直ニ本人ニ交付スルモノトス

第四十六條 各廳校長ニ於テ出納閉鎖前其年度經費過誤拂金及概算渡現金前渡ノ精算殘餘金ノ戻入ヲナサントスルトキハ五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ規則第二十六條ニ依リ第二十號様式ノ返納告知書ヲ本人ニ交付シ本人ヲシテ之ニ現金ヲ添ヘ縣金庫所在地ニ在テハ其縣金庫設置ナキ地ニ在テハ其廳現金出納官吏ニ納付セシムルモノトス

第四十七條 縣金庫ニ於テ前條ノ納付ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ接續セル領收証書及領收濟通知書ニ年月日ヲ記入シ捺印シテ領收証書ハ納人ニ交付シ領收濟通知書ハ即日之ヲ其廳校長ニ送付スルモノトス

縣金庫設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ前條ノ納付ヲ受ケタルトキハ該告知書ハ之ヲ取置キ第七號

様式ニ準シタル領收証書ヲ本人ニ交付シ適宜ノ方法ニ依リ領收済ノ旨ヲ即日其廳長ニ通知スヘシ
第四十八條 各廳校長ニ於テ出納閉鎖後ニ係ル過年度經費過誤拂金ヲ發見セシトキハ雜收入又ハ備荒
儲蓄金ヘ收納ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十九條 各廳校長ニ於テ規則第二十四條ニ依リ繰替拂ヲシタルトキハ三日以内ニ繰替ヲ受ケタ
ル向ヘ之レカ返償ヲ請求シ其償却ヲ受ケタルトキハ第二十一號様式ノ領收令書ヲ現金出納官吏ニ交
付シ其現金ハ現金出納官吏ヲシテ直ニ領收セシムルモノトス

第五十條 縣金庫所在地ノ現金出納官吏ニ於テ前條ノ令書ヲ受ケ及現金ヲ收納シタルトキハ該令書ト
共ニ現金ヲ縣金庫ニ送付シ縣金庫ヨリ領收証書ヲ受ケ其廳校長ノ檢印ヲ得テ之ヲ其償却ヲ爲シタル
向ヘ送付スヘシ

縣金庫設置ナキ地ノ現金出納官吏ニ於テ前條ノ令書ヲ受ケ及現金ヲ收納シタルトキハ第七號様式ニ
準シタル領收証書ヲ製シ其廳長ノ檢印ヲ得テ之ヲ其償却ヲ爲シタル向ヘ送付スヘシ

第六章 帳簿及金櫃
第五十一條 各廳校長ハ歲入中雜收入及備荒儲蓄金及歲出並雜部金ノ會計ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿ヲ
設クヘシ但收入調定基帳ハ收入少ナキ各廳ニ於テハ之ヲ設ケサルモ妨ナシ

一 地方稅雜收入(備荒儲蓄金)收入調定基帳
第二十二號様式
第十二條ニ依リ收納ヲ調定シタルトキ、第十三條又ハ第十四條ニ依リ縣金庫又ハ現金出納官吏
ヨリ領收済ノ通知ヲ受ケタルトキ、第四十四條ニ依リ縣金庫又ハ現金出納官吏ヨリ下辰金交付
済ノ通知ヲ受ケ又ハ第四十三條但書ニ依リ送金券ヲ發送シタルトキ、缺損確定シタルトキ、科
目ヲ訂正シタルトキ、式ニ依リ登記スヘシ

二 地方稅雜收入(備荒儲蓄金)收入簿
第二十三號様式
同上

三 某費(款)支出簿
第二十四號様式
第七條ニ依リ豫算ノ邊ヲ受ケタルトキ、豫算ノ流用又ハ増額ノトキ、第三十一條又ハ第三十二
條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂決定書ヲ交付シタルトキ、第三十五條第一項但書ニ依リ仕拂命令ヲ
取消シタルトキ、第四十七條ニヨリ縣金庫又ハ現金出納官吏ヨリ戻入済ノ通知ヲ受ケタルトキ
、第五十條ニ依リ領收証書ニ檢印ヲ爲シタルトキ、科目ヲ訂正シタルトキ、第七十六條ニ依リ
前渡金支出計算書ヲ受ケタルトキ、式ニ依リ登記スヘシ

四 雜部金整理簿
第二十五號様式
第二十一條第三十八條第四十條第四十二條ニ依リ縣金庫又ハ現金出納官吏ヨリ領收済交付済振替
済ノ通知ヲ受ケ又ハ第四十一條ニ依リ送金券ヲ發送シタルトキ式ニ依リ登記スヘシ

第五十二條 現金出納官吏ハ現金ノ出納ヲ整理スル爲メ第二十六號様式ノ現金出領簿ヲ設ケ現金ヲ出
納シタルトキ式ニ依リ登記スヘシ

第五十三條 各廳校長ニ於テ概算前渡金精算ノ濟否及各地ニ送金ヲ爲シタルモノ領收證書ノ着否ノ
調査其他會計整理上必要ナリト認ムルトキハ適宜補助簿ヲ設クヘシ

第二十九條ノ經費前渡ヲ受ケタル官吏ヲ除クノ外各現金出納官吏ニ於テ前渡ヲ受ケタル經費又ハ雜
部金ノ種類ノ區別ヲ明ニスルノ必要アリト認ムルトキハ適宜補助簿ヲ設クヘシ

第五十四條 現金出納官吏ニ於テ金櫃ヲ開閉スルトキハ其廳校長ノ立會ヲ受クヘシ
第五十五條 金櫃開鎖中ニ於テハ其鍵ハ現金出納官吏其廳校長ト共ニ封印ヲ爲シ其保管ハ之ヲ其廳校長ニ委託スヘシ

第五十六條 現金出納官吏ノ保管スル現金ハ每日出納終結後各廳校長ニ於テ現金出納簿ニ對照調査シ該帳簿累計ノ殘高ニ捺印スヘシ

第五十七條 官廳縣金庫ヲ除クノ外各縣金庫ハ毎日第二十七號様式ノ現金在高報告書ヲ郡長ニ差出スヘキニ依リ郡長ハ之ヲ其縣金庫ノ抵當價格ニ對照シ若シ超過アルトキハ直ニ第二十八號様式ノ一時還納令書ヲ發シテ即日現金ヲ納付セシメ領收證書ヲ交付シ其現金ハ金櫃ニ藏置シ適當ノ方法ニ依リ嚴重ニ保管スヘシ但現金在高報告書ノ金額ハ時々縣金庫ノ帳簿ニ對照シ尙必要ト認ムルトキハ証憑書類ニ照較スヘシ

前項ノ抵當價格ハ內務部長ヨリ通知スルモノトス

第五十八條 前條第一項ニ依リ保管シタル現金ハ抵當價格ニ餘裕ヲ生シタルトキ第二十九號様式ノ一時還納金下戻書ヲ添ヘ之ヲ縣金庫ニ交付シ縣金庫ヨリ差出シタル領收證書ハ捺印ノ上即日之ヲ內務部ニ送付スヘシ

第五十九條 知事ハ臨時吏員ヲ派遣シ各廳校ノ會計ニ關スル帳簿及金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第七章 決算

第六十條 各廳校長ハ毎月第三十號様式ノ雜收入收入計算書及備荒儲蓄金收入計算書及第三十一號様式ノ經費支出計算書ヲ製シ証憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第六十一條 縣金庫ハ毎月收支セル雜收入及備荒儲蓄金收入經費及雜部金ノ月計書ヲ製シ翌月五日マテニ之ヲ各廳校長ニ差出スヘキニ依リ各廳校長ニ於テ之ヲ受ケタルトキハ各帳簿ニ對照シ其符合ヲ

認メタル上雜收入及備荒儲蓄金收入及經費ノ月計書ハ前條各計算書ニ之ヲ添付シ雜部金月計書ハ捺印ノ上二日以内ニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第六十二條 第二十九條ノ經費前渡ヲ受ケ及雜收入備荒儲蓄金收入雜部金ヲ取扱フ現金出納官吏ハ毎月第三十二號乃至第三十四號様式ニ依リ雜收入備荒儲蓄金收入經費及雜部金ノ各現金出納計算書ヲ製シ翌月五日マテニ之ヲ各廳校長ニ差出シ各廳校長ハ之ヲ帳簿ニ對照シ其符合ヲ認メタル上雜收入備荒儲蓄金收入及經費ノ計算書ハ第六十條ノ各計算書ニ添付シ雜部金ノ計算書ハ捺印ノ上二日以内ニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第六十三條 雜收入收入測定ニ關スル証憑トシテ雜收入收入計算書ニ添付スヘキモノハ左ノ書類トス
一 不動産ノ賣拂及不動産動産ノ貸渡并ニ見積價格拾圓以上ノ動産賣拂ニ就テハ其契約書但競争契約ニ係ルモノハ其公告書寫據定價格調書落札以下三番札共
二 逃約金賠償金 物品ノ亡失毀損ハ契約ヨリ生スルモノハ其契約書及事實計算等ヲ詳記セル事由書
三 裁判言渡ニ係ルモノハ其言渡書其他ハ其原因事實計算等ヲ詳記セル事由書

第六十四條 支出ノ証憑トシテ支出計算書ニ添付スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書其他事實ノ確實ヲ証スル書類トス

第六十五條 工事業ノ參圖ヲ超ユルモノニ就テハ其全部ノ支拂了了リタル月ノ支出計算書ニ其出來形精算帳ヲ添付スヘシ
工事業ノ貳拾圓ヲ超ユルモノヲハ物品購買代ノ拾圓ヲ超ユルモノニ就テハ其全部ノ支拂了了リタル月ノ支出計算書ニ其契約書代用ニ係ルヲ添付スヘシ但競争契約書ニハ廣告書寫ハ前廣告書寫トモ

定價格調書落札以下三番札マテ再入札ニ係ルモノハノ書類ヲ添付スヘシ
第六十六條 工費ノ既済又ハ物品ノ既納部分ニ對スル代價内渡ノ領收證書ニハ主任官吏ノ作リタル其

高千穂縣金庫	西日杵郡役所内	高千穂警察署	西日杵郡役所
延岡縣金庫	東日杵郡延岡町大字南町	延岡警察署	延岡監獄支署
高鍋縣金庫	兒湯郡高鍋村大字南高鍋村	高鍋警察署	兒湯郡役所
高岡縣金庫	東諸縣郡役所内	高岡警察署	東諸縣郡役所
小林縣金庫	西諸縣郡役所内	小林警察署	西諸縣郡役所
都城縣金庫	北諸縣郡都城町大字官丸村	都城警察署	北諸縣郡役所
鉄肥縣金庫	南那珂郡鉄肥村大字板敷村	鉄肥警察署	南那珂郡役所

二 官崎縣金庫ハ官崎警察署ヲ除クノ外受持ノ各廳校ハ鉄肥都城高鍋延岡各縣金庫ハ受持郡役所ハ出張所ヲ設ケ官崎縣金庫ハ本廳ヘハ毎日他ノ各廳校ヘハ隨時其他各縣金庫ハ毎日該出張所ヘ事務員ヲ派出セシメ縣金庫ノ名義ヲ以テ其出納ヲ取扱ハシム

三 官崎縣金庫ノ受持ニ係ル各廳校ノ内官崎警察署及出張所ヲ設ケタル各廳校ノ事務員ヲ派出セシメサル日ノ出納ハ縣廳出張所ニ於テ其他各縣金庫ノ受持ニ係ル縣廳及各警察署延岡監獄支署ノ出納ハ各其本庫ニ於テ毎日之ヲ取扱ハシム

四 縣金庫出納ノ時間ハ左ノ如シ

一月一日ヨリ二月末 日マテ 午前九時ヨリ午後三時マテ
十一月一日ヨリ十二月三十一日マテ 但土曜日ハ正午マテ

三月一日ヨリ七月十 日マテ 午前八時ヨリ午後三時マテ
九月十一日ヨリ十月三十一日マテ 但土曜日ハ正午マテ

七月十一日ヨリ九月十日マテ 午前八時ヨリ正午マテ

縣金庫

訓令第四十五號(廿七年三月廿二日)
縣金庫事務規程左ノ通相定メ明治二十七年度ヨリ施行ス但様式ハ別ニ頒ツ

縣金庫事務規程

第一章 總則

第一條 縣金庫ノ出納ハ左ノ時間内ニ於テ取扱フヘシ但臨時至急ノ仕拂ヲ要スルトキ又ハ納期ニ際シ領收金幅渡スル場合ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ四月末 日マテ 午前九時ヨリ午後三時マテ
十一月一日ヨリ十二月三十一日マテ 但土曜日ハ正午マテ

三月一日ヨリ七月十 日マテ 午前八時ヨリ午後三時マテ
九月十一日ヨリ十月三十一日マテ 但土曜日ハ正午マテ

七月十一日ヨリ九月十日マテ 午前八時ヨリ正午マテ

第二條 縣金庫ニ於テ領收スル現金ハ其貨幣持參人ノ目録ニ於テ鑑定スヘシ但假造捕收ノ通貨ヲ發見シタルトキハ明治九年第五十七號布告ニ據ルヘシ

第三條 縣金庫ニ於テ領收セシ現金ハ其縣金庫ノ仕拂金ニ充ツヘシ但時宜ニ依リ他ノ縣金庫ニ回送セ

シムルコトアルヘン

第四條 縣金庫ハ照較ニ供スル爲メ受持ノ各廳校ニ其印鑑及事務員ノ印鑑ヲ差出シ置クヘシ

縣金庫ニ於テ仕拂上照較ニ供スル印鑑ハ關係各廳校ヨリ之ヲ交付スルモノトス

第五條 縣金庫ノ印章ハ方五分トシ何地縣金庫ト刻スヘシ

第六條 縣金庫ノ現金及帳簿ハ他ノ現金帳簿ト區別シテ之ヲ藏置シ縣金庫部ト記載セル標章ヲ掲クヘシ

第七條 縣金庫ニ於テ毎年度ノ現金ヲ出納スルハ翌年度五月三十一日限リトス

縣金庫ノ毎年度出納事務ハ翌年度六月三十日マテニ完結スルモノトス

第二章 收入及過誤納下戻

第八條 縣金庫ニ於テ町村又ハ各納人ヨリ現金ヲ以テ地方税又ハ滯納處分費ノ拂込ヲ受ケタルトキハ本人ノ所持リル徵稅令書又ハ納付書ニ照較シ上假預リ金トシテ之ヲ受取リ第一號樣式ノ預リ証書ヲ本人ニ交付スヘシ

第九條 縣金庫ニ於テ出納吏又ハ現金出納官吏ヨリ第二號樣式ノ拂込書又ハ第三號樣式ノ送納書ヲ添ヘ縣金庫預リ証書又ハ現金送金手形ヲ以テ地方税又ハ雜收入又ハ備荒儲蓄金又ハ國庫交付金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第四號樣式ノ領收証書ヲ該官吏ニ交付スヘシ

第十條 縣金庫ニ於テ出納吏又ハ各納人ヨリ第五號樣式ノ納入告知書ヲ添ヘ縣金庫預リ証書又ハ現金ヲ以テ雜收入又ハ備荒儲蓄金ノ納入ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ接續セル領收証書及通知書用紙ニ式ノ如ク記入捺印ノ上之ヲ切離シ其領收証書ハ本人ニ交付シ其通知書ハ即日當該收入調定者ニ送付スヘシ

第十一條 縣金庫ニ於テ各町村長又ハ郡長ヨリ第六號樣式ノ納付書及領收濟證明請求書ヲ添ヘ小學校

教員恩給基金ノ納付ヲ受ケタルトキハ第四號樣式ノ領收証書ヲ交付シ尙該證明請求書(式ノ如ク記入捺印ノ上之ヲ返付スヘシ)

第十二條 縣金庫ニ於テ各納人又ハ現金出納官吏ヨリ第七號樣式 納付書(式ノ如ク與書)ヲ添ヘ雜部金ノ納入ヲ受ケタルトキハ第八號樣式ノ保管證書ヲ製シ納人又ハ現金出納官吏ニ交付シ即日第九號

樣式ノ領收濟通知書ヲ該令書ヲ發シタル官吏ニ送付スヘシ

第十三條 縣金庫ニ於テ各納人又ハ出納吏又ハ現金出納官吏ヨリ第十號樣式ノ領收令書又ハ第二號樣式ニ準シタル拂込書ヲ以テ雜部金ノ納入ヲ受ケタルトキハ第十一號樣式ノ領收證書ヲ納人又ハ出納

吏又ハ現金出納官吏ニ交付シ即日第九號樣式ノ領收濟通知書ヲ發シタル官吏ニ送付スヘシ

第十四條 縣金庫ニ於テ各債主ヨリ第十二號樣式ノ下戻令書ヲ以テ地方税又ハ雜收入又ハ備荒儲蓄金過誤納下戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ現金ヲ拂渡シ該令書ニ渡濟年月日ヲ記入シ即日第十三號樣式ノ

拂戻濟通知書ヲ當該收入調定者ニ送付スヘシ

第十五條 縣金庫ニ於テ收入調定者ヨリ送金券ニ代ヘ差出ヲ要スル旨ヲ記入シタル第十二號樣式ノ下戻令書ヲ受ケタルトキハ之ヲ仕拂ヒ其現金ヲ指定ノ金券ニ代ヘ該官吏ヘ差出シ該令書ニ渡濟年月日ヲ記入シ置クヘシ

第三章 支出及過誤拂戻入

第十六條 經費ノ支出ヲ要スルトキハ仕拂命令者ニ於テ第十四號樣式ノ仕拂命令及仕拂案内ヲ製シ仕拂案内ハ前以テ縣金庫ニ送付シ仕拂命令ハ債主又ハ現金出納官吏ニ交付シ之ヲ縣金庫ニ差出サシムルモノトス但遠隔ノ地ニ在ル債主又ハ現金出納官吏ニ仕拂ヲ要スルモノハ仕拂案内ヲ發セスシテ送金券ト交換ノ旨ヲ記入セル仕拂命令ヲ直ニ縣金庫ニ送付スルモノトス

第十七條 縣金庫ニ於テ仕拂案内ヲ受ケタルトキハ現金仕拂ノ準備ヲ爲シ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ

仕拂案内ニ對照ノ上之ヲ仕拂ヒ直渡ニ係ルモノハ現金ヲ本人ニ交付シ送金券ト交換ヲ要スルモノハ現金ヲ指定ノ金券ニ代ヘ當該仕拂命令者ニ送付シ仕拂案内及仕拂命令ヘ渡濟年月日ヲ記入シ置クヘ

第十八條 縣金庫ニ於テ受領シ置キタル仕拂案内ノ日付ヨリ該案内ニ記載スル有効期限ヲ過キ尙之ニ對スル仕拂命令ヲ受ケサルトキハ該仕拂案内ヲ當該仕拂命令者ニ返付スヘシ

第十九條 縣金庫ニ於テ當該仕拂命令者ヨリ仕拂未濟ニ係ル仕拂案内返付ノ要求ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ返付スヘシ

第二十條 縣金庫ニ於テ第十二條ニ依リ發シタル保管證書ヘ第八號様式ニ示シタル書式ノ如ク拂戻ヲ要スル旨ヲ記入シタルモノヲ受ケタルトキハ現金ヲ拂渡シ該證書ヘ渡濟年月日ヲ記入シ置キ即日第十五號様式ノ拂渡濟通知書ヲ當該官吏ニ送付スヘシ

第二十一條 縣金庫ニ於テ各債主又ハ出納吏ヨリ第十六號様式ノ支出台書ヲ以テ雜部金拂渡ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ拂渡シ該台書ヘ渡濟年月日ヲ記入シ置キ即日第十三號様式ニ準シタル拂渡濟通知書ヲ當該官吏ニ送付スヘシ

第二十二條 縣金庫ニ於テ第十六號様式ノ支出台書ニ式ノ如ク與書ヲナシタルモノ、交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ仕拂ヒ該台書ノ指定ニ從ヒ爲替手帳料ヲ引去リタル上金券及郵便切手ニ代ヘ當該官吏ヘ差出シ該台書ヘ渡濟年月日ヲ記入シ置クヘシ

第二十三條 縣金庫ニ於テ各納入ヨリ第十七號様式ノ返納告知書ヲ添ヘ過誤拂金等ノ戻入ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ接續セル領收證書及通知書用紙ニ式ノ如ク記入捺印ノ上之ヲ切離シ其領收證書ハ納入ニ交付シ其通知書ハ即日當該仕拂命令者ニ送付スヘシ

第二十四條 縣金庫ニ於テ現金出納官吏ヨリ第十八號様式ノ領收台書ニ式ノ如ク記入シタル送付書ヲ添ヘ繰替返債金ノ送付ヲ受ケタルトキハ第十一號様式ニ準シタル領收證書ヲ該官吏ニ送付スヘシ

第四章 振替回送一時還納

第二十五條 縣金庫ニ於テ内務部長ヨリ第十九號様式ノ振替台書ヲ受ケタルトキハ即日振替ノ手續ヲ爲シ同日該台書ヘ接續セル振替濟通知書用紙ニ式ノ如ク記入捺印ノ上之ヲ内務部長ニ送付スヘシ

第二十六條 縣金庫ニ於テ收入調定者ヨリ第二十號様式ノ振替台書ヲ受ケタルトキハ即日振替ノ手續ヲ爲シ同日第二十一號様式振替濟通知書ヲ當該官吏ニ送付スヘシ

第二十七條 縣金庫ニ於テ内務部長ヨリ第二十二號様式甲號ノ回送台書ヲ受ケタルトキハ翌日マテニ第二十三號様式ノ回送書ヲ添ヘ之ヲ回送シ即日該台書ニ接續セル回送濟通知書用紙ニ式ノ如ク記入捺印ノ上之ヲ内務部長ニ送付スヘシ

第二十八條 縣金庫ニ於テ内務部長ヨリ第二十二號様式乙號ノ回送案内書ヲ受ケタルトキハ之ヲ受領シ置キ回送金到達シタルトキハ即日第十一號様式ニ準シタル領收證書ニ度金種ヲ明記スヘシ

第二十九條 縣金庫ニ於テ保管ノ現金其抵當價格ニ超過シタルトキ内務部長又ハ郡長 宮崎北那珂ヨリ第三十條 縣金庫ニ於テ内務部長又ハ郡長 宮崎北那珂ヨリ第二十五號様式ノ一時返納下戻書ヲ添ヘ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ第十一號様式ニ準シタル領收證書ヲ當該官吏ニ差出スヘシ

第五章 帳簿

第三十一條 縣金庫ハ現金ノ出納ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

第一 現金出納簿 第二 地方稅部收支簿 第三 備荒儲蓄金部收支簿 第四 雜部金部
收支簿

第三十二條 現金出納簿ハ別表第一ニ記載スル年度部類毎ニ口別ヲ爲シ現金ノ出納ヲ爲シタルトキ登
記スヘシ其格式第二十六號ノ如シ

第三十三條 地方稅部收支簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ別表第二ニ記載スル主管廳及科目毎ニ口別ヲ爲シ
地方稅部ニ屬スル收支ヲ爲シタルトキ登記スヘシ其格式第二十七號ノ如シ

第三十四條 備荒儲蓄金部收支簿ハ各年度毎ニ之ヲ設ケ別表第三ニ記載スル主管廳及科目毎ニ口別ヲ
爲シ備荒儲蓄金ノ收支ヲ爲シタルトキ登記スヘシ其格式第二十八號ノ如シ

第三十五條 雜部金部收支簿ハ各主管廳毎ニ口別ヲ爲シ保管金委託金ノ收支ヲ爲シタルトキ登記スヘ
シ其格式第二十九號ノ如シ

第三十六條 縣金庫ニ於テ事務整理上必要ト認ムルトキハ適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得
第六章 決算報告検査

第三十七條 縣金庫ハ毎日現金出納簿ノ各部類高及地方稅部收支簿備荒儲蓄金部收支簿中回送中ノ
科目ニ於ケル各段高ヲ取調ヘ第三十號格式ノ現金在高島報告書ヲ製シ宮崎縣金庫ハ内務部長其他ノ縣
金庫ハ其地ノ郡長ニ之ヲ差出スヘシ但異動ナキ日ニ於テモ尙其旨ヲ該官吏ニ報告スヘシ

第三十八條 縣金庫ハ地方稅部收支簿中地方稅及仮預リ金ノ科目ニ於ケル毎月一日ヨリ十日マテ十一
日ヨリ二十日マテ二十一日ヨリ末日マテ各期日內ノ現計ヲ取調ヘ第三十一號格式ノ收入計算書ヲ
製シ毎期ノ翌日ニ之ヲ所管出納吏ニ差出スヘシ

第三十九條 縣金庫ハ地方稅部收支簿備荒儲蓄金部收支簿中縣廳主管ノ各科目及郡役所所管科目中ノ

仮預リ金及一時還納ヲ除クノ外各主管廳各科目ニ於ケル每一ヶ月ノ現計ヲ取調ヘ各主管廳各科目毎
ニ第三十二號格式ノ收入月計書及第三十三號格式ノ支出月計書ヲ製シ翌月二日マテ之ヲ其主管廳
ニ差出スヘシ

第四十條 縣金庫ハ雜部金部收支簿ニ依リ縣廳ヲ除ク外各主管廳ノ每一ヶ月ノ收支ヲ取調ヘ各主管廳
毎ニ第三十四號格式ノ雜部金月計書ヲ製シ翌日マテ之ヲ其主管廳ニ差出スヘシ

第四十一條 縣金庫ハ地方稅部收支簿備荒儲蓄金部收支簿及雜部金部收支簿ノ各口坐ニ於ケル每一ヶ
月ノ現計ニ依リ第三十五號格式ノ金庫計算表ヲ製シ翌月五日マテニ内務部長ニ差出スヘシ

第四十二條 縣金庫ハ前條ノ各帳簿ニ依リ毎年度ニ屬スル收支總額 雜部金ハ甲年四月一日ヨリ乙年三
月三十一日ニ至ル一ヶ年度間ノ現
額ヲ取調ヘ第三十六號格式ノ金庫出納決算書ヲ製シ翌年度六月卅日マテ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第四十三條 内務部長ハ宮崎縣金庫、宮崎北那珂郡長ヲ除クノ外各郡長ハ各其地縣金庫ノ帳簿及証憑
書類ヲ臨時検査スルコトアルヘシ

第四十四條 知事ハ臨時吏員ヲ派遣シ各縣金庫ノ帳簿証憑書類及金櫃ヲ検査セシムヘシ

訓令第四十七號(廿七年三月廿二日)

郡役所 出納吏

明治二十五年(九月)訓令第四百十四號出納吏取扱ニ屬スル雜種金取扱規則左ノ通改止シ明治二十七年四
月一日ヨリ施行ス

出納吏取扱ニ屬スル雜種金取扱規則

第一條 出納吏取扱ニ屬スル滯納處分ノ差押通貨、差押財產賣却代、滯納處分費 町村ニ於テ發シタル
及他處ヨリ處分屬托ニ係ル税金處分費ノ現金ハ其保管方ヲ縣金庫ニ委託スヘシ但領置ノ金額貳拾圓
ヲ超ヘサルトキハ委託セサルモ妨ケナシ

第二條 出納吏ニ於テ縣金庫へ現金保管ノ委託ヲナサントスルトキハ郡長ヨリ領收令書ノ交付ヲ受ケ
現金ト共ニ縣金庫へ送付シ縣金庫ヨリ領收証書ヲ受取ルヘシ

第三條 出納吏ニ於テ縣金庫へ委託セル現金ヲ以テ税金ニ編入シ若クハ囑托廳へ回送シ若クハ滯納者
又ハ其債主へ還付シ若クハ町村へ交付セントスル場合ニ於テハ領收証書引替ニ郡長ヨリ支出令書ノ
交付ヲ受ケ該令書引替ニ現金ヲ縣金庫ヨリ受取ルヘシ

第四條 出納吏ニ於テ縣金庫ニ委託セル現金ノ内雜收入ニ編入スヘキモノアルトキハ適宜ノ方法ニ依
リ其金員年度事由及振替収入ヲ要スル旨ヲ郡長ニ通知スヘシ

第五條 第一條但書ニ依リ出納吏ニ於テ縣金庫へ現金保管ノ委託ヲナサルトキハ其現金ハ堅牢ナル
金櫃ニ藏置スヘシ

第六條 前條保管ノ現金中雜收入へ納付スヘキモノアルトキハ郡長ヨリ納入告知書ノ交付ヲ受ケ該告
知書ヲ添へ現金ヲ縣金庫へ納付スヘシ

第七條 出納吏ハ左ノ書式ノ雜種金出納簿ヲ設ケ其計算ヲ整理シ毎日帳簿ノ殘高ト現在金
庫金ト對照スヘシ

訓令第六十四號(廿七年四月廿一日)
明治二十七年(三月)訓令第四十四號各廳校縣會計規則第五十七條ニ依リ縣金庫ノ現金在高報告書ノ抵
當價格ト對照シタルトキハ該報告書ノ餘白へ捺印シ即日內務部へ送付スヘシ

訓令第七十一號(廿七年四月廿七日)
明治廿七年(三月)訓令第四十四號各廳校縣會計規則第六十條ノ支出計算書ニ添付スヘキ證憑書類ノ調
査

郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校(獸醫學校ヲ除ク)

理方左ノ通心得フヘシ

第一條 證憑書類ハ各部類 精算ノ部、概算渡ノ部、各節目限リノ毎ニ區分編纂シ其金高枚數ヲ表記スヘシ
但警察費中本務旅費護送旅費ハ左ノ區分ニ依ルヘシ

本務旅費
區内日當月額 區内出張旅費 區内巡回旅費 管内旅費 管外旅費 赴任旅費
護送旅費
官金護送旅費 囚人護送旅費

第二條 精算拂中各地へ送金シタルモノニ對シ其月中領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金額
仕訓命令發行年月日送金先及支出ノ目的ヲ詳記セル仕訓書ヲ各部毎ニ調製シ當該科目ニ編入スヘシ

第三條 前條ノ領收證書ハ其到達ニ從ヒ當初支出セル月ヲ餘白ニ朱記捺印シ其到達セル月ノ支出計算
書ニ添付スヘシ

第四條 概算渡及前渡ニ對スル領收證書ハ精算ニ至リ該精算證書(旅費明細書又ハ各廳校縣會計規則
該計算書ニ添付セ)ト合綴シ精算セル月ノ支出計算書ニ添付ヘシ

第五條 概算渡ノ精算ニ際シ追給セシモノアルトキハ其追給金ノ領收證書へ精算書類ハ概算渡ノ部ニ
編綴セル旨ヲ朱記捺印シテ之ヲ精算ノ部ノ當該科目ニ編入スヘシ

第六條 精算ノ部、概算渡ノ部、現金前渡ノ部、ニ於ケル戻入高ニ對シテハ縣金庫所在地ニ在テハ縣
金庫ノ領收通知書縣金庫設置ナキ地ニ在テハ返納人ヨリ差出シタル返納告知書ヲ當該科目ニ編入
證明スヘシ

第七條 繰替ノ部支出高ニ對シテハ事由欄内ニ受取人住所氏名繰替先繰替ノ年月日繰替ノ事由ヲ詳記
スルニ止メ戻入ノトキ繰替先ヨリ送付シタル送金書へ繰替ヲナシタル年月日ヲ朱記捺印シ繰替戻入

書トシテ一冊ニ編纂シ其金高枚數ヲ表記スヘシ

訓令第七十八號(廿七年五月五日)

郡役所

郡長ノ擔任ニ屬セサル工事ニ係ル土木費ノ仕拂命令ヲ郡長ニ委任シタル場合ニ於テ其支出ニ就キ各屬
 校會計細則第三十條ノ調査ニ備フヘキ證據書ハ豫メ内務部長ヨリ通知シタル工事擔任ノ官吏ニ於テ左
 ノ書式ニ依リ與書シタル請求書父ハ正當領收證書ヲ添付シタル該官吏ノ請求書ヲ以テ之ニ充ツ
 前項支出ニ對シテハ支出計算書ニ各屬校會計細則第六十五條ノ書類ヲ添付セサルモノトス但同則第六
 十六條ノ調査ハ前項ノ請求書ヲ以テ代用スヘシ
 土木傭人及水量監査人手當ニ對スル土木費ノ仕拂命令ヲ郡長ニ委任シタルトキハ毎月分翌月五日マテ
 ニ本人ノ請求書道路看守人手當ハ土木係派ニ依リ仕拂フヘシ但監査人ノ姓名及給額等ハ異動アル毎ニ内
 務部長ヨリ通知スヘシ
 與書式

右調査ス

但竣工(何分通成工)(省納)(何分通納済)

明治何年何月何日

擔任者印

訓令第九十號(廿七年五月十五日)

郡役所

明治二十七年(三月)訓令第四十四號各屬校縣會計細則第六十條ニ依リ差出スヘキ備荒儲蓄金支出計算
 書ニハ左ノ書式明細書ヲ添付スヘシ但既ニ差出シタル支出計算書ニ對シテハ此際調製進達スヘシ

何年度何年何月分

備荒儲蓄金精算支出額明細書(何郡分)

區別	町村名			員數			金額
	町	村	名	數	數	金	
火災救助							六〇〇〇
食料	何	町	何	村	延人員何人		一〇〇〇
小屋掛料	何	町	何	村	現人員何人		一〇〇〇
農具料	何	町	何	村	何	戶	一〇〇〇
種穀料	何	町	何	村	何	戶	一〇〇〇
避難所諸費	何	町	何	村	何	貫目	二〇〇〇
薪代					何	貫目	一〇〇〇
蠟燭代					何	斤	一〇〇〇
何々					何	々	
合計							六〇〇〇

右之通
備考 官崎北那珂郡ハ郡別ニ調製スヘシ

訓令第三百三十六號(廿七年八月七日)
雜部保管金出納委託及送金手續左ノ通相定ム

郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校 縣金庫

雜部保管金出納委託及送金取扱手續

第一條 甲 縣 內務部監獄署 校ノ雜部金出納命令者 以下單ニ命ヨリ乙 縣校ノ命令者 雜部保管金ノ領收ヲ委託セントスルトキハ甲 縣校ノ命令者ヨリ乙 縣校ノ命令者ヘ保管スヘキ金額金額ノ定マラザル額收期日其他要項ヲ詳記セル委託書ヲ送付スヘシ

第二條 乙 縣校ノ命令者ニ於テ前條ノ委託ニ係ル保管金ノ納付書ヲ受ケタルトキハ其 縣校ノ保管金ト同一ノ手續ニ據リ取扱ヒ保管證書ハ納人チシテ委託ノ 縣校ニ差出シシメ 縣金庫又ハ現金出納官吏ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ即日其納人氏名別ノ金額等ヲ委託 縣校ニ通知スヘシ但納付書與書ニハ朱字ニテ某 縣委託ノ分ト附記スヘシ

第三條 甲 縣校ノ命令者ニ於テ第一條ニ依リ領收ヲ委託セル保管金ノ拂戻ヲ爲サントスルトキハ乙 縣校ノ命令者ヘ其旨ヲ通知シ保管證書ヲ送付スヘシ

第四條 乙 縣校ノ命令者ニ於テ前條ニ依リ拂戻通知書及保管證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其 縣校ノ保管金ト同一ノ手續ニ依リ拂戻ノ取扱ヲ爲シ 縣金庫又ハ現金出納官吏ヨリ拂戻濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ即日其旨ヲ甲 縣校命令者ヘ通知スヘシ

第五條 縣金庫又ハ現金出納官吏ニ於テ第二條但書ニ依リ委託 縣名ヲ記入セル納付書ヲ以テ保管金ノ納付ヲ受ケ若クハ其拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ總テ通常ノ手續ニ依リ取扱ヒ其出納ノ委託 縣ノ保

管金トシテ整理スヘシ但保管證書ニハ金員ノ肩ニ某 縣委託某 縣取扱ト朱記スヘシ

第六條 遠隔ノ地ニ在ル債主ヘ保管金ノ拂戻ヲ要スルトキハ當該命令者ニ於テ左ノ書式ノ支出令書ヲ 縣金庫又ハ現金出納官吏ニ交付シ保管證書ト引換ニ送金券ヲ受取リ即日之ヲ債主ヘ送付スヘシ

第七條 縣金庫又ハ現金出納官吏ニ於テ前條ノ支出令書ヲ受ケタルトキハ即日現金ヲ指定ノ金券ニ換書式

支出令書

保管金

何縣何郡何町村(現住地)
債主 何 之 誰

但何々保證書明治何年何月何日納ノ分
右本人ヘ送付ヲ要スルニ付送金手形(何々爲換)ヲ以テ本官ヘ差出可有之候也

明治何年何月何日
何地縣金庫宛(縣金庫設置ナキ地ニ在テハ現金出納官吏宛)
官(職) 氏 名 印

訓令第六百六十四號(二十七年十一月十五日)

警察署 警察分署

縣金庫設置ナキ地ノ各署ノ現金出納官吏ハ毎月五日及二十日ノ現金保管高ニ對スル左ノ書式ノ報告書ヲ翌日マテニ署長ニ差出シ署長ハ之ヲ該官吏ノ現金出納簿殘高ニ對查シ捺印ノ上即日內務部長ニ送付スヘシ

書式

署長
捺印

現金在高報告書

一金

內

金金金

何年度雜收入
何年度何々(款)
何年度何々(款)
雜部金

何月何日現金在商

右之通相違無之候也

明治何年何月何日

某署現金出納官吏

官 氏 名 印

內務部長宛

訓令第五十六號(廿六年三月三十一日)

內務部 警察部 警察分署 監獄支署 郡役所
警察署 監獄支署 縣立學校

縣有物品會計規則別冊之通相定

縣有物品會計規則

第二章 第一章 總則
第二條 縣有物品ト稱スルハ器具器械圖書被服食料品藥品日用消耗品土木建築用農工業藥品農產物製
作品動物其他一切ノ動産ヲ云フ

第三條 物品ヲ分ツテ經常備品特別備品經常消耗品特別消耗品農產物製作品及動物ノ七種トス
經常品トハ各廳及各學校ニ於テ普通使用ノ物品ヲ云ヒ特別品トハ某廳又ハ某校ニ於テ特ニ要スル物
品ヲ云ヒ農產物及製作品トハ某廳又ハ某校ニ於テ農工業上生産スル物品ヲ云フ

第四條 經常備品ノ定數及品種並ニ經常消耗品ノ品目ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五條

第六條 物品ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 物品ノ會計ハ現ニ其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第八條 本廳內務部監獄署及本廳外各廳及各學校ヲ部局ト稱シ各部局ニ物品出納吏ヲ置ク

內務部監獄署及學校ニ屬スル物品出納吏ハ知事之ヲ指命シ郡役所警察署警察分署監獄支署ニ屬スル
物品出納吏ハ會計ニ從事スル上席者ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 出納及保管

第九條 物品ノ出納及備付渡付並ニ戻入ハ部局長ノ命令ニ依リ物品出納吏ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十條 常時出納又ハ備付渡付若クハ戻入スル物品ハ部局長ニ於テ適宜制限ヲ定メ物品出納吏ヲシテ
直ニ出納セシムルコトヲ得

第十一條 土木建築工事場其他官吏出張先等ニ於テ出納ヲ要スル物品ニシテ部局長又ハ物品出納吏ニ
於テ直接ニ其出納命令又ハ出納ヲ爲シ難キトキハ部局長及ヒ物品出納吏ハ便宜之ヲ其出張官吏ニ委
任スルヲ得

第十二條

第十三條

第十四條 在庫及備付ノ物品ハ物品出納吏之ヲ保管シ第十一條ノ委任及各官吏以下ハ渡付ニ係ル物品
ハ當該官吏以下各自之ヲ保管スヘシ

第十五條 備付ニ係ル物品ニシテ物品出納吏ノ直接保管ヲ不便トスル場合ニ在テハ部局長ニ於テ物品
出納吏ノ請求ニ依リ一名又ハ數名ノ物品取扱主任ヲ定メ便宜其保管ヲ爲シムルコトヲ得

第十六條 物品出納吏ハ他ノ官吏以下ノ保管ニ屬スル物品ニ就キ監督ノ責ニ任スヘシ

第十七條 物品ノ出納ハ物品出納吏ノ保管監督ヲ離ル、ヲ出トシ其保管監督ニ屬スルヲ納トス

第三章 帳簿及報告

第十八條 物品出納吏又ハ第十一條ニ依リ委任ヲ受ケタル官吏ハ物品ノ現納ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿

ヲ設ケ式ノ如ク登記スヘシ但委任ヲ受ケタル官吏其出納簡單ナルトキハ出納吏ノ承諾ヲ得テ便宜之ヲ設ケサルコトヲ得

一 經常(特別)備品出納簿

二 經常(特別)消耗品出納簿

三 農産物出納簿

四 製作物出納簿

五 動物出納簿

特別備品特別消耗品出納簿ノ様式ハ部局長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ適宜之ヲ變更スルコトヲ得

農産物製作物及動物出納簿ハ部局長ニ於テ適宜様式ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

第十九條 物品出納吏ハ備品ノ備付及渡付ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ式ノ如ク登記スヘシ但第一

第二ハ實際ノ便宜ニ從ヒ孰レカ一方ヲ省略スルコトヲ得

一 經常(特別)備品供用書留簿

二 經常(特別)備品供用書留簿

三 經常(特別)備品渡書留簿

四 經常(特別)備品番號簿

特別備品帳簿ノ様式ハ部局長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ適宜之レヲ變更スルコトヲ得

第二十條 物品取扱主任ハ備付物品ノ出納ヲ整理スル爲メ經常(特別)備品供用書留簿(第七)簿ヲ設ケ式

ノ如ク登記スヘシ

第二十一條 第十八條第十九條ニ定ムル帳簿ノ外實際ノ必要ニ從ヒ適宜補助簿ヲ設ケルコトヲ得

第二十二條

第二十三條 物品出納吏ニ於テ第二十七條ノ計算書ヲ受ケタルトキ其出納ノ員額ハ直ニ物品出納簿ニ

登記スヘシ

第四章 決算証明

第二十四條 物品出納吏ハ出納簿ノ結果ニ依リ一ヶ年毎ニ出納計算書(第九)ヲ製シ証憑書類ヲ添ヘ翌年

度四月三十日マテニ部局長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

物品出納吏交替ヲナシタルトキハ後任官吏ニ於テ之ヲ繼承シ前項ノ手續ヲナスヘシ

証憑書類ハ命令書正當受取人ノ領收證書契約書其他事實ノ確實ヲ証スル書類トス但受入物品ニ對シ

テハ受入明細書(第十)ヲ以テスルモ妨ケナシ

証憑書類ハ原本ニ限ル若シ其原本ヲ提出シ難キ場合ニ於テハ當該官吏ノ保証アル謄本ヲ以テスルコ

トヲ得

第二十五條 前條ノ証憑書類ハ物品出納計算書ニ掲クル品目毎ニ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及証憑

書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ証憑僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ

妨ケナシ

第二十六條

第二十七條 第十一條ニ依リ委任ヲ受ケタル官吏ハ其物品出納ノ二ヶ年度以上ニ跨リタルトキハ一ヶ年

度毎ニ年度ノ跨リタルトキハ其出納了リタル毎ニ出納計算書(第九)ヲ製シ証憑書類ヲ添ヘ十日以

内ニ物品出納吏ニ送付シ殘品アルトキハ同時ニ之ヲ引繼クヘシ

第五章 雜則

第二十八條 毀損又ハ不用ノ物品ニシテ賣却スルモ望人ナキカ又ハ輕微ニシテ價格ナシト認ムルモノハ物品出納吏ニ於テ部局長ノ指揮ヲ受ケ之レヲ棄却スルコトヲ得

第二十九條 物品ヲ保管スルモノ其物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨明書ヲ製シ價格貳圓未満ハ部局長ニ貳圓以上ハ部局長ヲ經テ知事ニ之ヲ差出スヘシ知事又ハ部局長ニ於テ若シ其亡失毀損故意怠慢ニ出テタルモノト認ムルトキハ相當代價ヲ辨償セシム

直接ニ保管ノ責ナキ若物品ヲ亡失毀損シタルトキハ亦前項ニ同シ
第三十條 物品出納吏ハ年度經過後九ヶ月ヲ過キタル日ヲ以テ責任ヲ了ルモノトス但誤謬脱漏又ハ詐偽ノ證據ヲ發見シタルトキハ此限ニアラス

第三十一條 物品ニ保存期限ヲ定メ記番號ヲ付シ及特別備品ニ定數ヲ設クル等ハ實際ノ便宜ニ依ルヘシ
第三十二條 物品ノ價格ハ購入ノ價格ニ依リ整理スヘシ但生産製作若クハ寄贈ニ係ル物品ニシテ價格分明ナラサルモノハ見積價格ニ依ルヘシ

第三十三條 物品出納吏第十一條ノ委任ヲ受ケタル官吏並ニ物品取扱主任ノ帳簿及保管物品ハ検査員ヲ命ジテ臨時検査セシムルコトアルヘシ

第六章 附則

第三十四條 本規則ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス
本規則ト抵触スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

訓令第七十七號(廿六年五月一日)

内務部 監獄署 郡役所 警察署
警察分署 監獄支署 縣立學校

縣有特別備品特別消耗品ハ左ノ類別ニ依リ整理スヘシ
特別備品特別消耗品類別

内務部

土木費建築修繕費勸業費ニ屬スル物品ヲ除クノ外一切ノ物品相當ノ物品出納吏ニ屬スル分

手帳ヲ除ク

特別備品

巡查給與貸與品 (衛生費中傳染病豫防費ニ屬スル一切ノ物品ヲ云フ)
傳染病豫防用品 (衛生費中試驗費検査費ニ屬スル分)
衛生試驗及検査用品 (地方既取扱費帶納處分費ニ屬スル分)
帶納處分費用品 (衆議院議員撰舉費ニ屬スル分)
衆議院議員撰舉用品 (小學教員檢定及教科用圖書審查費ニ屬スル分)
衆議院議員撰舉用品 (財產費ニ屬スル分)

特別消耗品

巡查教習用品 (衛生費中傳染病豫防費ニ屬スル分)
傳染病豫防用品 (衛生費中試驗費検査費ニ屬スル分)
衛生試驗及検査用品 (衆議院議員撰舉費ニ屬スル分)
衆議院議員撰舉用品 (教育費所屬中本廳直接ノ取扱ニ屬スル分)
衆議院議員撰舉用品 (勸業費ニ屬スル物品相當ノ物品出納吏ニ屬スル分)

特別備品

勸業見本品及陳列用器具 (直接測候ニ用フル物品ニ限ル)

特別消耗品

測候用品 (直接測候ニ用フル物品ニ係ル)
土木費建築修繕費ニ屬スル物品相當ノ物品出納吏ニ屬スル分

訓令第四百十六號(廿七年九月四日)
明治二十四年(二月)訓令第四十八號傳染病救療手續左ノ通改正ス

郡役所 町村役場

傳染病救療及費用申請手續

第一條 傳染病ニ罹リタル貧困者ハ本籍寄留又ハ旅行中ナルヲ問ハス此手續ニ依リ救療シ其費用ハ地方稅ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條 貧困者ト稱スルハ左ノ各項ニ該當シ救助ヲ受クヘキ親戚故舊ナキモノニ限ル

一 地方稅又ハ町村稅ヲ免稅セラレタルモノ(地方稅又ハ町村稅ノ一部ヲ免稅セラレタルモノモ含メ但該下年期或ハ荒地成等ノ爲メ正租並ニ附加稅ハ此限ニアラス)並其家族

一 恤救規則ニ依リ救助ヲ受クルモノ並其家族

第三條 前條ノ貧困者ニシテ傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ發病地町村長ニ於テ救療ノ手續ヲナシ

其患ニ轉歸後十日以内ニ左ノ書式ノ仕譯書ヲ作り主治醫ノ藥價表ヲ添ヘ費用ノ下付ヲ申請スヘシ

第四條 寄留者(地方稅村稅ノ賦)又ハ行旅人ニシテ貧困ナルヤ(治療費ニ充ツヘキ金額)否ヤヲ認メ

難キモノ又ハ地方稅町村稅ノ賦課ヲ受クル寄留者ニシテ第二條ニ該當スルモノハ救療ノ手續ヲナシ

速ニ原籍市區町村長ニ照會シ果シテ貧困者ナルトキハ其回答ヲ添ヘ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 救療ニ係ル費用ハ左ノ制限以内ヲ以テ支辨ス

但消毒藥ハ實費ヲ以テ支給スヘキニ依リ仕譯書中ニ品名數量代價ヲ明瞭ニ記載スヘシ

一 患者賄料 一日金八錢

一看護人手當 一日其他傳染病ハ金參拾錢

但看護スヘキ親戚故舊ナキモノニ限ル尤モ他ノ規則ニ依リ各自ニ於テ看護人ノ雇人ヲ要セサル場

合ハ此外タルヘシ

一 藥價 一日分金拾貳錢

一 手術料 一回金拾錢

一 往診料 往復一里以上ハ一回金五錢一

里ヲ加フル毎ニ五錢ヲ増ス

但一家同時ニ二名以上ノ患者アル場合又ハ避病室ニ於テ二名以上ノ入室者アルトキハ之ヲ患者

各別ニ下付セス

一 棺桶及附屬品共 死者一人分金四拾錢小兒ハ半額

一 埋葬人足賃 全上 虎列刺病ハ金壹圓錢

一 小家掛料 金貳圓 他傳染病ハ金四拾其

但旅行人ニシテ宿泊セシムル家屋ナキ場合ニ限ル

書式

何病患(死)者救療費明細仕譯書

何郡何町村番戶(某父子兄弟姉妹叔姪)

一金何程

內 譯

金何程

但何月何日ヨリ何月何日迄日數何日間一日金何程

金何程

何月何日ヨリ何月何日迄日數何日間服藥何回一日金何程

何 某

賄 料

藥 價

金何程
但、、、、

何々

訓令第七十號(廿八年八月十五日)

郡役所 町村役場

明治二十七年(九月)訓令第四百四十八號六種傳染病豫防費町村負擔額程度及地方稅支辨手續左ノ通り收正シ明治二十八年年度ヨリ施行ス

傳染病豫防費地方稅負擔規則

第一條 傳染病豫防ニ關スル左ノ各項ノ費用(寄付金アルモ)ニシテ地價割地租壹圓ニ付金壹錢四厘戸別割一戸平均金拾錢ノ割合ヲ超過スルトキハ其超過シタル金額ノ二分ノ一ハ地方稅ヲ以テ支辨ス但傳染病流行ノ勢猛烈ニシテ多數ノ患者ヲ出シ巨額ノ費用ヲ要スルトキハ變更スルコトアルヘシ

一種痘ニ關スル諸費

一豫防消毒ニ關スル諸費

一避病院又ハ隔離所等ニ關スル諸費

一豫防並救療ノ爲メ雇入レタル醫師ニ關スル諸費

前項地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費用ハ町村或入出豫算ニ編入シ其收入科目ハ地方稅下渡金ノ目ヲ設ケルモノトス

第二條 前條ノ費用下渡ハ町村會決議ノ上第一號様式ノ豫算負擔調書ヲ添付シ郡長ヲ經テ知事ニ申請スヘシ

第三條 前條ノ費用下渡ヲ受ケタル時ハ年度後一ヶ月以内ニ第二號様式ノ計算書ニ第一號様式ノ決算負擔調書ヲ添付シ郡長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第四條 前條決算ニ依リ地方稅下渡金ニ不足ヲ生スル時ハ更ニ縣廳ヨリ之ヲ下渡シ過剩ヲ生スルトキハ返納告知書ニ依リ返納スルモノトス

第一號様式

明治何年度何町(村)衛生費豫(決)算負擔調書

一金

衛生費歳出豫(決)算額

内 譯

種 痘 費

豫防消毒ニ關スル諸費

避病院隔離所等ニ關スル諸費

豫防救療ノ爲メ雇入レタル醫師ニ關スル諸費

町村負擔額

金

地 價 割

内

戶 別 割

金

衛生費超過額

金

但地租豫(決)算高金何程地租壹圓ニ付金壹錢四厘

金

但戸數豫(決)算何戸一戸ニ付金拾錢

第二號様式

明治何年度地方稅下渡金計算書

一金
一金

地方稅下渡金受取高
地方稅下渡金決算高
過剩返納高(受取不足高)

右明治何年度地方稅下渡金計算書相違無之候也

年 月 日

何那何町(村)長 何 某 印

知事宛

訓令第二百六十二號(廿三年十月三十日)

監獄署 監獄支署 郡役所
警察署 縣立學校

地方稅並備荒儲蓄ノ計算出納ニ關スル諸證書中ニ記載スル金員ニシテ「三」「廿」「卅」ノ數字ハ自今「參」「貳拾」「參拾」ノ字體ヲ用フヘシ

訓令第五十號(二十七年三月廿四日)

郡役所

明治二十七年年度以降備荒儲蓄金支出科目左ノ通定

備荒儲蓄金支出科目表

款	項	目	節
備荒儲蓄金	救助費		

		水災救助	
	火災救助		
	旱災救助		
	地震救助		
	崩潰救助		
			食料科 小屋掛科 農具科 農產科 避難所諸費科 (以下ニ準ス)

訓令第五十五號(廿七年三月廿七日)

郡役所

備荒儲蓄救急分儲金(別途下渡)ノ分トモ 毎年三月末日發高翌月一日限リ報告スヘシ

訓令第二十三號(二十八年三月十二日)

警察署 警察分署

縣金庫設置ナキ地ノ各廳現金出納官吏ニ於テ其保管セル經費仕拂基金ニ對シ内務部長ヨリ第一號書式ノ振替通達書ヲ受ケタルトキハ直ニ振替ノ手續ヲナシ即チ第二號書式ノ振替通達通知書ヲ同部長ニ送付スヘシ

第一號書式(用紙通常郵半紙)

振替通達書

一金

但明治何年度警察費(警察廳舎建築修繕費)

右ノ現金明治何年度警察費(警察廳舎建築修繕費)仕拂基金ニ振替アルヘシ
明治何年何月何日
内務部長 氏 名 印

現金出納官吏
官氏名宛

第二號書式(用紙通常紙)
振替通知書

一金

但明治何年度何々費

右ノ現金明治何年何月何日付御通達ニ依リ何年度何々費仕拂基金ニ振替濟ニ付及御通知候也

現金出納官吏

明治何年何月何日

内務部長宛

官 氏 名 印

宮崎縣令第四號(廿六年一月十七日)
地方稅營業規則左ノ通相定メ明治二十六年度ヨリ施行ス

地方稅營業規則

第一條 地方稅ノ賦課アル營業 自用水車自乘馬自用牛馬使用器
械日蒸氣使用機械日トモ以下全シ
第一號樣式ニ依リ營業ノ種類其他課稅上必要ナル事項ヲ詳記シ町村長ヲ經テ郡長ニ鑑札ノ交付ヲ願
出ツヘシ其行商露店ヲ兼ユル者稅額同シトキハ一方ニ付稅額異ナルトキハ其高キモノニ付願出ツヘ
シ但船車漁業採藻ハ此限リニアラス

警察其他徵收ニ關セサル諸般ノ取締上ニ付官廳ノ許可ヲ受クヘキ營業ニ係ル鑑札ノ交付ヲ願出ント
スルトキハ前項ノ願書ニ其許可ノ證ヲ添付スヘシ

第二條 營業者ニ於テ鑑札ヲ受ケタル後稅率ニ對スル員數 興行日數木戸 又ハ營業種目ヲ增減變更セシ
トスルトキハ其都度改氏名代替若クハ鑑札ヲ亡失毀損シタル等ノ場合ハ十日以内ニ事由ヲ詳記シ町
村長ヲ經テ郡長ニ鑑札ノ書換若クハ再渡ヲ願出ツヘシ

第三條 營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類以外ノ營業者ニシテ免稅ヲ請ハントスルトキハ一ケ
年度毎ニ課稅課目營業種目税金及貧困ニシテ納稅ニ堪ヘ難キ事情ヲ詳記シ隣保二人以上ノ連署ヲ得
テ戶籍寫及鑑札アル者ハ鑑札ヲ添ヘ町村長及郡長ヲ經テ知事ニ免稅鑑札ノ交付ヲ願出ツヘシ

第四條 營業稅商業第一類及雜種稅第一類ノ營業者ニシテ營業種目ヲ增減變更シタルトキハ其都度町
村長ヲ經テ郡長ニ届出ツヘシ

演劇興行遊覽所營業者ハ願書ニ記載スル開始初日以後興行又ハ營業セサル日アルトキハ翌日迄ニ町
村長ヲ經テ郡長ニ届出ツヘシ

第五條 營業者縣内他町村へ轉居ノトキハ第二號樣式ニ依リ鑑札書換願ヲ製シ 郡役所ノ所轄ヲ異ニス
正副鑑札ヲ添ヘ營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類ニ係ルモノハ先ツ原住地ノ町村長ニ差出シ
與書ヲ受ケ及鑑札ノ返戻ヲ得テ更ニ轉居地ノ町村長ニ差出シ其他ノモノハ直ニ轉居地ノ町村長ニ差
出スヘシ

第六條 水車乘馬及牛馬使用器械日蒸氣使用機械日賣買及讓與ニシテ縣内ノ受渡ニ係ルトキハ受渡
人同町村ナルトキハ第二條ノ例ニ依リ他町村ナルトキハ前條ノ例ニ依リ鑑札書換ヲ願出ツヘシ但願
書ハ受渡人連署スヘシ

第七條 質屋及金穀貸付商、兩替屋ハ帳簿ヲ設ケ貸付金高若クハ收益金高ヲ詳記シ置キ前稅半期分

期ハ四月一日ヨリ九月三十日マテ後半期ニ第三號様式ニ依リ其貸付又ハ收益金高届書ヲ製シ前半期分ハ十月十日後半期分ハ四月十日マテニ町村長ニ差出スヘシ但廢業ノトキハ此期ノ初日ヨリ廢業ノ日マテノ分テ廢業後五日以内ニ本條ニ依リ届出ツヘシ

第八條 市場屠畜營業者ハ帳簿ヲ設ケ市場ハ毎日ノ上リ金高屠畜ハ毎日ノ屠殺頭數及獸種ヲ記載シ翌日マテニ市場ハ町村長屠畜ハ警察官ノ檢印ヲ受ケ置キ一ヶ月分毎ニ第三號様式ニ準シ其上リ金高又ハ屠殺獸種頭數届書ヲ製シ帳簿ヲ添ヘ翌月一日町村長ニ差出シ帳簿ハ町村長使用済ノ后返付ヲ受クヘシ但一ヶ月間休業ノ場合ニ於テモ尚本條ノ期日ニ依リ町村長ヲ經テ郡長ニ届出ツヘシ

第九條 營業者廢業シタルトキハ第四號様式ノ鑑札返納書ヲ製シ鑑札ヲ添ヘ廢業後五日以内ニ町村長ニ差出スヘシ

前項ノ期日ヲ過キ鑑札ヲ返納スルモノハ其鑑札ヲ返納シタル日ヨリ五日前ヲ以テ廢業シタルモノト見做シ取扱フヘシ

第十條 演劇興行遊覽所營業者ハ興行日數若クハ木戸錢協代ヲ減シタル爲メ税金ニ過納ヲ生シタルトキハ事由ヲ詳記シ町村長ヲ經テ郡長ニ其下戻ヲ請求スヘシ

第十一條 營業者ハ第五號様式ニ依リ標札ヲ店製シ之ヲ其店頭若クハ門戸ニ掲出スヘシ但行商露店遊藝稼人相撲俳優間藝妓市場演劇興行遊覽所船車馬屠畜營業者ハ此限ニアラス

第十二條 行商露店職工理髮人遊藝稼人相撲俳優間藝妓市場屠畜演劇興行遊覽所營業者ハ營業場所ニ鑑札ヲ携帶スヘシ

第十三條 鑑札ハ賣貸借及讓與スルヲ得ス

第十四條 俳優相撲遊藝稼人及行商ニシテ一時他府縣ヨリ來リ營業スルモノ、内當期納稅済ノ證ナキ者ハ之ヲ有シ難キ正當ノ事由アルモノヲ除クノ外第一條ニ依リ鑑札交付ヲ願出ツヘシ

第十五條 營業者ハ臨檢ノ証票ヲ有スル官吏ニ於テ營業者ノ家宅又營業場所等ニ臨ニ營業ノ實地營業ニ關スル書類帳簿物件鑑札等ヲ檢査スルニ當リ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 何人ヲ問ハス鑑札ノ閱覽ヲ請求スルモノアルトキ營業者ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十七條 第一條第十四條ノ願出ヲナサ、ルモノ及第七條第八條ノ届出ノ員數ヲ詐リタルモノ及第十五條ニ違背シタルモノハ貳拾錢以上一圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十八條 第二條第五條第六條ノ願出ヲナサ、ルモノ第四條第七條第八條ノ届出ヲ怠リタルモノ及第十一條第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第一號様式 其一

鑑札願

何等地又ハ何等(地方等級又ハ營業等級) 一何々 (諸商山產物商職工料理屋等其) 但卸賣兼何々何々 (他課稅ノ課目ヲ記載スヘシ)

商業會社工業會社ハ資本金高山產物商ハ其種類職工ハ其職名
細屋業ハ廻桶取印刷業ハ器械取藝妓ハ營業地名演劇興行遊覽
所ハ開場初日興行日數大人一人ノ木戸錢上等一坪揚代水車乘
馬ハ日數又ハ頭數等課稅上必要ナル事項ヲ詳記スヘシ

右何年何月何日ヨリ營業(使用)致候ニ付鑑札御下渡相成度(別紙警察署、分署、許可証相添)此段願上候也

何縣何國何郡何村大字何何番戶
(寄留)(同居)(寄留者ハ本籍ヲ)
モ併記スヘシ

明治 年 月 日

郡長宛

備考 二ヶ所以上ノ店舗ヲ開キ營業スルモノハ各店舗毎ニ願出テ其店舗ニ別ニ管理者ヲ置クモノハ
店主及管理者連署ノ上願出ツヘシ

第二號様式

鑑札書換願

何等地又ハ何等

一何々

但何々

右何郡何町字何々ニ於テ營業致來候處今般肩書ノ場所へ轉居ニ付鑑札書換御下渡相成度鑑札相添此段
願上候也

以下記載方第一號様式其一ニ倣ヘ

備考 甲郡ヨリ乙郡へ轉居ノトキハ 甲地兩郡長ニ宛ツヘシ

第三號様式

貸付金高(收益金高)届

一金

但何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ貸付高(收益高)

右及御届候也

何縣何國何郡何町字何何番戶

何 誰 印
(年齢ニ依リ課税ニ區
別アルモノニ限ル) 生年月日

(肩書一ツ書但書記載方ハ第一號様式其一ニ倣ヘ地位等級ハ轉居地等級ヲ記載スヘシ)

(寄留) (同居)

(寄留者ハ其本籍
ヲモ記入スヘシ)

何々商 何 之 誰 印
「實屋及全般貸付商又ハ兩替屋ト記載ス
ヘシ

明治 年 月 日

郡長宛

第四號様式

鑑札返納書

何等地又ハ何等

一何々鑑札

一何々鑑札

(二枚以上ノ鑑札ヲ返納スルトキハ斯ク例記スヘシ)

右ハ明治何年度限又ハ何年何月何日廢業 使用相止候ニ付鑑札返納仕候也

何縣何國何郡何町 大字何何番戶

(寄留) (同居)

(寄留者ハ其本籍
ヲモ併記スヘシ)

何 之 誰 印

明治 年 月 日

郡長宛

第五號様式

木製 長壹尺五寸
巾四寸

一河々 (課税課目ヲ記載スヘシ)
住所
氏名

職工ハ何等職ニト記載スヘシ

宮崎縣令第二十七號(廿九年四月一日)
鮎敷網罟網營業者ハ明治二十九年年度以降帳簿ヲ設ケ捕獲高及賣上金高等ヲ詳記シ置キ賣上金高ハ左ノ
様式ニ依リ前後半期分(前半期ハ四月一日ヨリ九月三十日マテ後半期ハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ
後半期分ハ四月十日マテニ町村長ニ差出スヘシ
前項ノ願出ヲ怠タルモノハ五錢以上五拾錢以下故意ヲ以テ帳簿ノ記載ヲ怠タリ若クハ虚偽ノ記載ヲナ
シ又ハ届出ノ員數ヲ詐リタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
明治何年度(前(後)半期(鮎敷網(鮎網)捕獲物賣上金高届

事 由	數 量	賣 上 金 高	平 均 單 價
賣 上 高	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	〇五〇〇
捕獲物ヲ以テ漁夫ノ賃 錢ニ換ルモノ	五、〇〇〇	一、五〇〇	〇五〇〇

全上一時助力者ノ賃錢 ニ換ルモノ	全上綱其他ノ損料ニ換 ルモノ	計
一〇〇	一〇〇	一五、二〇〇
五〇〇〇	五〇〇〇	七、六〇〇

右及御届候也

何那何村

營業人

何

某印

何所漁業組合支部長

何

某印

年 月 日

郡長宛

町村役場

訓令第三十二號(廿九年四月一日)

明治二十九年(四月)宮崎縣令第二十七號ニ依リ鮎敷網罟網營業者ヨリ賣上金高ノ届書ヲ差出シタルト
キハ欄外ニ檢印ノ上即日郡長ニ送付スヘシ

宮崎縣令第三十一號(二十年五月十四日)

地方税中諸營業者ノ内地行不在等ノ節納税ニ差支サル様豫メ納税代人ヲ定メ置キ双方通署ノ上戸長役
場ヲ經テ所轄郡役所ヘ届出ヘシ

訓令第百八十三號(二十二年七月三日)

郡役所

間税分署

船車ノ解体等ニ依リ地方稅徵收上ニ異動ヲ生スル事項ハ其時々間稅分署ヨリ主管郡役所へ通知スヘシ
郡役所ハ此際更ニ國稅臺帳ニ準シ船車一人別臺帳ヲ製シ爾後新規ニ係ルモノハ納額達ニ依リ其他ノ異
動ニ係ルモノハ收稅部出張ノ通知ニ依リ其都度加除スヘシ

訓令第二百六十五號(二十二年十月三十日)

郡役所 間稅分署

本年(七月)訓令第八十三號ニ依リ船車ノ新規ニ係ルモノハ納額達ニ基キ地方稅臺帳加除スヘキ筈ノ
處自今新規ニ係ルモノト雖モ其時々間稅分署ヨリ主管郡役所へ通知シ郡役所ハ其通知ニ依リ加除スヘ
シ

訓令第一百五號(廿三年四月十四日)

郡役所 間稅分署 町村役場

船車ノ異動通報方ハ明治二十二年(七月)訓令第八十三號ノ次第モ有之候處自今新規ニ係ルモノト雖
モ間稅分署ヨリ速ニ郡役所ニ通報シ(國稅)郡役所ハ其通報ニ依リ臺帳ニ記入スヘシ但明治二十九年
(七月)訓令百八十七號ハ廢止ス

宮崎縣令第三號(廿四年一月十二日)

一宮崎縣地方稅徵收細則
右縣會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

宮崎縣地方稅徵收細則

第一條 府縣稅徵收法第五條町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號樣式ニ依リ同法第七條各納稅人ニ對
シ發スル徵稅令書ハ第二號樣式ニ依リ調製スヘシ

第二條 納期月日ノ一定セル收入ニ對スル徵稅令書ハ年稅ハ納期ノ二十日以前納期(數日ニ涉ルモノ
以)月稅ハ納期ノ十日以前ニ之ヲ發シ隨時收入ノ日稅中場、屠畜稅、及年稅月稅ニ對スル徵稅令書
ハ便宜之ヲ發スヘシ

第三條 縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ徵稅令書ヲ發シタルトキハ該納額ヲ出納吏ニ達ス
ヘシ

第四條 縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シタル後納期以前ニ納額
ニ減少ヲ生シタルトキハ之ヲ其町村及出納吏ニ達スヘシ

第五條 町村長ニ於テ地租割稅船稅車稅乘馬稅ノ徵稅傳令書發付後納期限以前ニ於テ土地若クハ船車
水車乘馬ノ所有權移轉又ハ土地ノ質入ニ係ルモノアルトキハ其キノ傳令書ヲ更止スヘシ

第六條 各納稅人ニ於テ稅金ヲ出納吏ニ納付スルトキハ徵稅令書ヲ添付スヘシ

第七條 町村ニ於テ稅金ヲ出納吏ニ納付スルトキハ第三號樣式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第八條 出納吏ニ於テ稅金ヲ領收シタルトキハ徵稅令書納付書付屬ノ領收證書用紙ニ年月日ヲ記入シ
書式ノ如ク捺印シ之ヲ切離シテ返付スヘシ

第九條 出納吏ニ於テ第三條第四條ニ依リ納額又ハ納額減少ノ達ヲ受ケタルトキハ收入簿徵稅簿ニ登
記スヘシ

第十條 出納吏ハ領收證書ヲ切離シタル徵稅令書納付書ニ據リ出納簿收入簿及徵稅簿ニ登記スヘシ

第十一條 出納吏ニ於テ領收シタル稅金ハ日々其他ノ爲替方ニ送附シ其領收證書ヲ得テ出納簿ニ登記
スヘシ

第十三條 出納吏ハ毎月收入報告書ヲ調製シ爲替方ヨリ差出シタル收入金月計對照表ヲ添へ翌月七日

限リ縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ニ差出スヘシ
 第十四條 出納吏ハ各納期限後三十日以内ニ收入額收入未済額及缺損額報告書ヲ調製シ縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ニ差出スヘシ
 第十五條 收入簿徵稅簿出納簿其他諸書報告書式ハ便宜ノ式ニ據リ之ヲ定ム

訓令第四十二號(廿七年三月廿日)

出納吏

明治二十四年(一月)縣令第三號宮崎縣地方稅徵收細則第十二條ニ依リ地方稅金ヲ縣金庫ニ送付スルトキハ明治二十七年年度以降左ノ書式ノ拂込書ヲ添付スヘシ

(用紙通常野半紙)

拂込書

一金

是ハ何年度地方稅

內譯

金

現金ニテ

金

預リ證書ニテ

右(現金ヲ以テ)預リ證書ヲ以テ拂込候也

出納吏

明治何年何月何日

官氏名印

何地 縣金庫宛

(備考)

現金ノミヲ以テ拂込ムカ又ハ預リ證書ノミヲ以テ拂込ムトキハ内譯ヲ削リ右書ノ下ニ其種類ヲ記入スルモノトス

訓令第二十四號(廿四年二月四日)

郡役所

明治二十四年(一月)縣令第三號第十五條ニ據リ帳簿及報告書ノ様式別冊ノ通定ム但別冊ハ別ニ頒ツ

訓令第二十一號(廿四年二月三日)

郡役所

明治廿三年(九月)法律第八十八號府縣稅徵收法第八條府縣出納吏ノ事務ハ郡長ニ於テ取扱フヘシ

宮崎縣令第十九號(廿七年三月廿二日)

左ノ場合ニ於テハ納人又ハ第三者ハ納金ニ明治二十四年(一月)縣令第三號地方稅徵收細則第三號様式ニ準シタル納付書ヲ調製添付シ督促令狀ヲ受ケタルモノハ尙其令狀ヲ添付スヘシ但シ納付書用紙ハ郡役所ヨリ受取ルヘシ

一府縣稅徵收法第五條ニ依リ徵稅傳令書ヲ受ケタル納税人ニシテ納期後其稅金ヲ出納吏ニ納付スルトキ

二地方稅滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處方費ヲ出納吏ニ納付スルトキ
 地方稅納人又ハ第三者ニ於テ稅金又ハ滯納處分費ヲ出納吏ニ納付セントスルトキハ現金ヲ所屬縣金庫ニ拂込ニ其預リ證書ヲ以テ納付スヘシ但シ拂込ミノトキハ徵稅令書又ハ納付書ヲ縣金庫ニ示スヘシ
 本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年(一月)官制令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

訓令第四號(廿六年一月十七日)

郡役所 町村役場

地方稅徵收取扱規則左ノ通相定メ明治廿六年度ヨリ施行ス但明治二十四年(二月)訓令第三十五號全年(三月)訓令第五十八號及明治二十五年(三月)訓令第三十八號ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

地方稅徵收取扱規則

第一章 地租割 戶數割

第一條 町村長ハ地租割戶數割毎半割ノ納額ヲ取調ヘ第一號第二號様式ニ依リ前半期分ハ四月十日後

第二條 郡長ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ其納額ヲ調定シタル上一郡ヲ合計シ第一號及第二號様式ニ準シ定期收入調定額報告書ヲ製シ前半期分ハ四月二十日後後半期分ハ十月二十日限り之ヲ知事ニ差出スヘシ

第三條 町村長ハ十月一日現在戶數ニ係ル戶數割毎半割ノ各戶負擔額ヲ取調ヘ第三號様式ノ議案ニ依リ四月二十五日マテニ町村會ヲシテ議決セシメ第四號様式ニ依リ四月三十日マテニ之ヲ郡長ニ報告シ尙實行ノ方式ニ依リ町村内ニ公告スヘシ

郡長ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ第五號様式ニ依リ五月十五日マテニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 四月一日後新ニ一戶ヲ構ヘ戶數割ノ賦課ヲ受ケヘキモノアルトキハ町村長ニ於テ第六號様式ニ依リ其都度之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第五條 郡長ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ其納額ヲ調定シタル上一ヶ月毎ニ一郡ヲ合計シ第七

號様式ニ依リ隨時收入調定額報告書ヲ製シ翌月五日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第六條 町村長ハ第八號様式ノ地租割徵收簿ヲ設ケ人別ノ納額納濟年月日滯納等ノ事項ヲ詳記スヘシ

第七條 郡長ハ第九號様式ノ地租割臺帳及第十號様式ノ戶數割臺帳ヲ設ケ定期收入ノ調定ヲ爲シ若クハ缺損ノ稟申ヲ認知シタルトキ式ノ如ク登記スヘシ

第二章 營業稅 雜種稅

第八條 町村長ニ於テ地方稅營業規則第一條及第二條ノ願書ヲ受ケタルトキハ第一條ノ願書中營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類ニ在ラハ左ノ各項ノ取以テナシ其他ハ欄外ヘ捺印シ執レモ即日之ヲ郡長ニ送付スヘシ

一 第二十一條第一項ノ町村會開以則ニ係ルモノハ定期稅額町村會ノ決定ニ屬スル百餘白ニ朱記シ年月日ヲ記入シ職印ヲ捺スヘシ

二 第二十一條第一項ノ町村會開設後ノ願書ニ係ルモノ、内際ノ町村會ニ於テ議定シタル稅額指定方法ニ依リ其稅額ノ定マリタルモノハ之ヲ餘白ニ朱記シ同條第二項ニ依リ追テ町村會ニ於テ稅額ヲ議定スヘキモノハ隨時稅額町村會ノ決定ニ屬スル旨餘白ニ朱記シ執レモ年月日ヲ記入シ職印ヲ捺スヘシ

第九條 郡長ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ヲ査定シ第十二號及第十三號様式ニ依リ鑑札ヲ製シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十條 郡長ニ於テ新ニ鑑札ヲ交付シタルモノ、内營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類ノ營業ニ係ルモノハ其營業人住所氏名課稅課目營業種目鑑札交付ノ年月日ヲ詳記シ鑑札交付后二日以内ニ郡

第十一條 町村長ニ於テ地方稅營業規則第三條ノ願書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ取調ヘ意地ヲ付シテ

郡長ニ送付シ郡長ハ尙之ヲ調査シ其當否ヲ判断シテ鑑札ハ留置キ之ヲ知事ニ差出スヘシ
第十二條 前條ニ對スル指令書ハ郡長及町村長ヲ經テ交付スヘシ郡長ニ於テ前項ノ指令書ヲ受ケタル
トキハ其許可ニ係ルモノニ就テハ鑑札裏面ニ免稅年度ノ半期限リ免稅ノモ
ヲ記人シ免稅ノ證明ヲ捺シ
指令書ト共ニ之ヲ交付シ其許可セサルモノニシテ先キニ鑑札ヲ留置キタル分ハ指令書ト共ニ其鑑札
ヲ下戻スヘシ

第十三條 町村長ニ於テ地方稅營業規則第五條ノ願書及鑑札ヲ受ケタルトキハ左ノ各項ニ依リ取扱フ
ヘシ

一營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類ノ諸業ニ係ルモノハ居住地町村長ニ於テハ第十四號様式
ニ依リ願書ヲ爲シ鑑札ト共ニ本人ニ交付シ願書アルモノハ其願書ニ亦同様ノ願書ヲ爲シ直ニ之ヲ
所轄郡長ニ送付シ轉居地ノ町村長ニ於テハ第八條ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

二營業稅商業第三類及工業并雜種稅第二類ノ諸業ニ係ルモノハ郡役所ノ所轄ヲ異ニスル町村ハ轉居
ノモノハ正副願書ノ余白ニ年月日ヲ記シ捺印ヲ捺シ正書及鑑札ハ所轄郡長ニ送付シ副書ハ居住地
ノ郡長ニ送付シ郡役所ノ所轄ヲ異ニスル町村ハ轉居ニ係ルモノハ第八條ノ手續ニ依リ取扱フヘ
シ

第十四條 營業者郡役所ノ所轄ヲ異ニスル町村ノ轉居ニ關シ居住地ノ郡長ニ於テ前條第一ノ副書ヲ受
ケタルトキハ余白ニ年月日ヲ記入シ郡役所印ヲ捺シ轉居地ノ郡長ニ送付シ轉居地ノ郡長ヨリ本條
第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ之ヲ所屬町村長ニ傳達スヘシ

前項ノ轉居ニ關シ轉居地ノ郡長ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其第一ニ係ルモノハ第九條及第
十條其第二ニ係ルモノハ第九條ノ手續ヲ行フ原住地郡長ニ舊鑑札ヲ添ヘ鑑札書換濟年月日ヲ通知ス
ヘシ但其第一ノ願書ハ前項ニ依リ原住地郡長ヨリ回送セル副書ト照合ノ上本項ノ手續ヲ爲スヘシ

營業者郡役所ノ所轄ヲ異ニスル町村ハ轉居ニ關シ郡長ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其第一
ニ係ルモノハ第九條及第十條ノ手續ヲ爲シ及居住地町村長ニ鑑札書換濟年月日ヲ通知シ其第二ニ係
ルモノハ第九條ニ依リ取扱フヘシ

第十五條 町村長ニ於テ地方稅營業規則第六條ノ願書ヲ受ケタルトキハ受渡人同町村ナルトキハ第十
七條ノ手續ニ依リ他町村ナルトキハ第十三條第二ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

願書正副アルモノハニ於テ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ受渡人同町村ナルトキハ第九條ノ手續
正書ヲ受ケヘキ郡長
ニ依リ他町村ナルトキハ前條第二項若クハ第三項ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

第十六條 町村長ニ於テ地方稅營業規則第八條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其願書ニ添ヘテ差出シタル帳
簿ト照合ノ上余白ニ帳簿ト照合濟ト記載シ職印ヲ捺シ即日之ヲ郡長ニ送付シ帳簿ハ即時本人ニ返付
スヘシ

第十七條 町村長ニ於テ地方稅營業規則第四條第七條第九條第十條ノ願書等ヲ受ケタルトキハ欄外
ニ捺印ノ上即日郡長ニ送付スヘシ

第十八條 郡長ニ於テ其年度ノ出納閉鎖期限前町村長ヨリ地方稅營業規則第十條ノ請求書ヲ受ケタル
トキハ第十四號乙様式ノ下展令書ヲ製シ領收證書引替ニ之ヲ本人ニ交付シ本人ヲシテ縣金庫ニ就
キ之ヲ受取ラシムヘシ但送金ヲ要スルトキハ下展令書ニ式ノ如ク與書ヲナシ直ニ之ヲ縣金庫ニ交付
シ送金券ト交換ノ上即日之ヲ本人ニ送付スルモノトス

郡長ニ於テ其年度ノ出納閉鎖期限前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ其年度科目金額算出事項納入住
所氏名并事由ヲ詳記シ知事ニ報告スヘシ

前項ノ過納金ハ知事ヨリ直ニ本人ニ交付スルモノトス

第十九條 郡長ニ於テ新ニ鑑札ヲ交付シ又ハ書替交付シタルトキハ左ノ場合ニ於テ其期又ハ其月又ハ

其日數ニ對スル税金若クハ差税金ヲ測定シ及徴收ノ手續ヲ爲スヘシ
一税金後收ニ屬スルモノハ地方稅營業規則第七條第八條ノ屆書ヲ受ケタルトキ但漁業稅後收ニ係ル
モノハ賣上金高ノ屆書ヲ受ケタルトキ
二鑑札交付ノ際稅額未定ノモノハ第二十一條第一項ノ報告ヲ受ケタルトキ
三右ノ外ハ鑑札ヲ交付スルトキ
稅額未定ノ船車ノ新規又ハ異動通知ヲ受ケ若クハ漁業取締規則ニ依リ新ニ免許鑑札ヲ交付シ又ハ書
替交付シタルトキ(税金後收ノ)ハ直ニ其期ノ税金若クハ差税金ヲ測定シ及徴收ノ手續ヲ爲スヘシ
第二十條 營業者縣内轉居ノ場合ニ於テ其期又ハ其月ノ税金ノ徴收命令ハ營業稅商業第一類第二類雜
種稅第一類ノ諸業ニ在テハ其稅額ヲ決議スル町村ノ屬スル郡長之ヲ發シ營業稅商業第三類及工業并
雜種稅第二類ノ諸業ニ在テハ税金前收ニ屬スルモノハ原住地ノ郡長之ヲ發シ後收ニ屬スルモノ及轉
居ノ爲メニ生スル増稅ハ轉居地ノ郡長之ヲ發スヘシ
第二十一條 町村長ハ四月一日以後町村會開設前日マテノ營業者 新規開業及當期稅額未定ノ他町村
換願出後未タ其交付ニ係ル營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類ノ各戶負擔額ヲ取調第十五號様
式ノ議案ニ依リ四月三十日マテニ議定セシメ第十六號様式ニ依リ五月五日マテニ之ヲ郡長ニ報告
シ尙慣行ノ方式ニ依リ町村内ニ公告スヘシ
前項町村會開設後町村長ニ於テ受理シタル營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類ノ新規開業ニ係
ル鑑札額及當期稅額未定ノ他町村ヨリ轉居ニ係ル鑑札書替願ニシテ像テ町村會ニ於テ稅額指定方
法ヲ議定シテ其方法ニ依リ稅額ノ定マリタルモノヲ除クノ外其稅額ヲ週クモ三十日以内ニ町村會
ノ議定ニ付シ議定後二日以内ニ其營業人住所氏名課稅課目營業種目及稅額ヲ郡長ニ報告スヘシ

第二十二條 郡長ニ於テ前條第一項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其納額ヲ測定シ一郡ヲ合括シテ第十七號
様式ノ定期收入測定額報告書ヲ製シ十一月二十日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ
第二十三條 郡長ハ營業稅商業第三類及工業並雜種稅第二類ニ屬スル四月一日現在營業者ノ前收年稅每
半期分納稅額及毎月一日現在營業者ノ月稅毎月分納稅額ヲ測定シ年稅ハ第十八號様式月稅ハ第十九
號様式ノ定期收入測定額報告書ヲ製シ年稅ノ分ハ四月廿五日月稅ノ分ハ其月七日迄ニ之ヲ知事ニ差
出スヘシ
第二十四條 郡長ニ於テ第十九條ニ依リ稅額ヲ測定シタルトキハ第二十號乃至第二十四號様式ニ依リ
每半期又ハ隨時收入測定額報告書ヲ製シ後收年稅定期收入測定額報告書ハ四月二十日マテ其他ハ翌
月七日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ
第二十五條 郡長ハ第二十五號乃至第二十七號様式ノ營業暨帳ヲ設ケ左ノ各項ノ場合ニ於テ式ノ如ク
登製スヘシ但第十四條第一項ノ場合ニ於テハ町村長ヨリ副書ヲ受ケタルトキ其要領ヲ付箋ニ置キ轉
居地郡長ノ通知ヲ受ケタルトキハ其處分終了ノ後消抹スヘシ
一第九條第十四條第十八條第一項及第十九條ノ取扱ヲナシ及第十二條ニ依リ免稅鑑札ヲ交付シタル
トキ
二第十七條ニ依リ地方稅營業規則第四條及第九條ノ屆書ヲ受ケ及第二十一條第一項ノ報告ヲ受ケタ
ルトキ但第九條ノ屆書ノ内税金徴收未済ニ係ルモノハ其處分終了シタルトキ
三第二十三條ニ依リ調額ヲ測定スルトキ
四税金收入濟トナリ及其缺損ノ確定シタルトキ
五收稅署ヨリ船車ノ新規又ハ異動通知ヲ受ケタルトキ及漁業取締規則ニ依リ免許鑑札ヲ交附シタル
トキ

第二十六條 町村長ハ第二十五號様式ノ營業臺帳ヲ設ケ左ノ場合ニ於テ式ノ如ク登記スヘシ但第十三條第一項ノ場合ニ於テ原住地ノ町村長ハ與齒ヲナシタルトキ其要領ヲ付箋ニ置キ第十四條第一項第三項ノ通達ヲ受ケタルトキ税金徵收ノ取扱ヲ要スル消株スヘシ

一 第十條ノ通達ヲ受ケタルトキ

二 第二十一條ノ議定ヲ了リタルトキ

三 地方稅營業規則第四條及第九條ノ届書ヲ受ケタルトキ但第九條ノ届書ノ内税金徵收未済ニ係ルモノハ其處分終了シタルトキ

四 税金收入済及其滞納トナリタルトキ

第二十七條 郡長ハ營業稅商業第一類第二類及雜種稅第一類ニ係ル四月一日現在營業者ノ氏名及其課稅課目ヲ取調ヘ第二十八號様式ニ依リ四月五日マテニ町村長ニ通知シ町村長ハ之ヲ營業臺帳ト照合スヘシ但他ニ便宜照合ヲナスノ序アルトキハ此手續ヲ省略スルコトヲ得

第三章 雜則

第二十八條 郡長ハ税金徵收ノ命令ヲ發付スル爲メ第二十九號様式ノ地方稅徵收命令簿ヲ設ケ税金ヲ測定シ徵稅台書ヲ發付シ税金收入済トナリ缺損確定セシ等ノ場合ニ於テ式ノ如ク登記スヘシ

第二十九條 町村ニ對シ發スル徵稅台書ニハ營業稅商業第一類第二類雜種稅第一類及戶數割ノ定期收入ニ係ルモノヲ除ク外第三十一號様式ノ人別納額調製ヲ添付スヘシ

第三十條 町村ニ於テ税金ヲ出納吏ニ納付セントスルトキハ現金ヲ縣金庫ニ拂込シ其預リ證書ヲ以テ納付スヘシ

第三十一條
第三十二條 出納吏ハ第三十號様式ノ滞納處分簿ヲ設ケ滞納處分ノ領未ヲ登記スヘシ

第三十三條 出納吏ニ於テ滞納處分法施行細則第十條ニ依リ缺損稟申ヲナスルハ郡長ヲ經由スヘシ

第三十四條 郡長ニ於テ第二條及第二十二條乃至第二十四條ニ依リ收入測定額報告ヲナシタル后誤調等ニ依リ該測定額ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々々之ヲ知事ニ報告スヘシ

第三十五條 出納吏ニ於テ測定額外ノ過誤納金ヲ收入シタルトキハ其金員年度科目納人氏名及事由ヲ詳記シ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第三十六條 郡長ニ於テ收入ノ測定ヲ誤リ爲メ過誤納ヲ生シ又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第八條ノ手續ニ依ルモノトス

第三十七條 郡長ニ於テ第十八條第三十六條ニ依リ過誤納金ヲ下戻シタルトキハ直ニ出納吏ニ其測定額(第三十五條ノ過誤納金ヲ除ク)及收入額ノ減額ヲ達スヘシ

第三十八條 出納吏ニ於テ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ收入簿徵稅簿中測定額及ハ收入済額ノ内該金額ヲ扣除スヘシ

第三十九條 郡長ハ地方稅徵收細則第十三條第十四條ニ依リ出納吏ヨリ毎月收入報告書及收入額收入未済額及缺損額報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ翌日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第四十條 地方稅徵收細則第十二條ニ依リ出納吏ニ於テ縣金庫ニ送付シタル税金及本則第三十條ニ依リ町村ニ於テ縣金庫ニ拂込シタル税金并明治廿七年(三月)縣令第十九號ニ依リ各納稅人又ハ第三者ニ於テ縣金庫ニ拂込シタル税金及滞納處分費ニ對シ縣金庫ハ毎旬ノ收入計算書ヲ製シ其翌日マテニ

出納吏ニ送付スヘキニ依リ出納吏ニ於テ之ヲ受ケタルトキハ欄外ニ檢印ノ上即日知事ニ差出スヘシ

第四十一條 出納吏ハ第三十三號様式ニ依リ毎年度ノ收入決算書ヲ製シ翌年度六月三十日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

訓令第十四號(廿六年二月二日) 郡役所
明治二十六年(一月)訓令第四號地方稅徵收取扱規則ニ依リ營業者ニ交付スル紙製鑑札ハ押捺スル郡役所印ハ左ノ雜形ニ依リ製スヘシ

訓令第四十五號(廿六年三月二十三日)

郡役所

地方稅營業檢査規程左ノ補定ニ明治二十六年度以降誤規程ニ依リ檢査執行スヘシ但明治二十四年四月達第一二二號地方稅檢査心得ハ本文施行ノ期ヨリ廢止ス

地方稅營業檢査規程

- 第一條 郡長ハ毎年度前後兩期ニ於テ時機ヲ圖リ少ナクとも各一回所轄内一般ニ檢査ヲ執行スヘシ右ノ外必要ナリト認ムル場合ハ所轄内ノ幾部ニ對シ臨時檢査ヲナスヘシ
- 第二條 所轄内一般ニ檢査ヲナサントスルトキハ其着手七日以前ニ臨時檢査ヲナサントスルトキハ其都度檢査員ノ官氏名及其檢査日割ヲ知事ニ届出ツヘシ
- 第三條 檢査員ハ左ノ様式ニ依リ作りタル檢査ノ證票ヲ携帯スルモノトス
- 第四條 檢査ハ左ノ各項ニ就キ檢査及視察ス可シ
 - 一 無鑑札ニテ營業ヲナスモノナキヤ否ヤ
 - 二 輕稅ノ鑑札ヲ以テ重稅ノ營業ヲナスモノナキヤ否ヤ
 - 三 其他地方稅營業規則ノ規定ニ違背スルモノナキヤ否ヤ
 - 四 違犯者増加又ハ減少ノ原因
 - 五 營業者増加又ハ減少ノ原因
 - 六 國稅ニ係ル營業ノ外營業稅雜稅ノ課目ニ掲ケサル營業者ノ有無

第五條 檢査員ハ營業者ノ家宅及營業場所等ニ就キ營業ノ實地營業ニ關スル書類簿物件鑑札等ヲ周密ニ檢査スヘシ

第六條 檢査員ハ營業者ノ需メアルトキハ其檢査ノ證ヲ示スヘシ

第七條 檢査員ハ檢査上地方稅營業規則第十八條ノ違犯者ト認メタルモノアルトキハ始末書又ハ證據トナルヘキ書類ヲ徵シ告發ノ手續ヲナスヘシ

第八條 郡長ハ一般ノ檢査終了後十五日以内ニ左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一 檢査着手並其終了日及檢査ニ費シタル日數
 - 二 檢査執行ノ概況
 - 三 違犯者ノ種別人員
 - 四 違犯者増加又ハ減少ノ原因ト認ムヘキ事項
 - 五 營業者増加又ハ減少ノ原因ト認ムヘキ事項
 - 六 國稅ニ係ル營業ノ外營業稅雜稅ノ課目ニ掲ケサル營業者ノ種別人員
 - 七 監察員ノ要求ニ依リ再檢査執行ノ町村名又ハ部落名
 - 八 營業稅雜稅課目課額及賦課方法中實地ノ狀況ニ適合セスト認ムルモノアルトキハ其事項
 - 九 其他緊要ナリト認ムル事項
- 第九條 郡長ハ臨時檢査ヲナシタルトキハ其狀況ヲ檢査終了後五日以内ニ知事ニ報告スヘシ
- 第十條 檢査ノ正當ナルヤ否ヤヲ監査シ又全管内ノ檢査ニ區々ノ弊ナキヤ否ヤヲ視察スル爲メ縣廳ニシテ監察員ヲ派遣スルコトアルヘシ
- 第十一條 監察員ニ於テ檢査適正ナラスト認ムル場合ハ郡ノ一部若クハ全部ニ對シ再檢査ヲ郡長ニ要求スルコトアルヘシ

宮崎縣令第八十一號(廿五年十二月廿七日)

地方稅地租割戶數割賦課方法縣令ノ決議ヲ經テ左ノ通相定メ明治二十六年度ヨリ施行ス

地方稅地租割戶數割賦課方法

地租割

第一條 地租割ハ前後兩期(前半期四月ヨリ 九月迄)ニ分テ每期課率ノ半額ヲ以テ 四月一日土地臺帳ノ現在地租額ヨリ賦課シ爾後地租額ニ異動アルモ既定ノ賦課額ハ増減セス

第二條 地租割ハ 四月一日 後新ニ地租ノ賦課ヲ受ケタル土地アルモ其期內ハ之ヲ賦課セス

戶數割

第三條 戶數割ハ本籍寄附戶主非戶主ヲ問ハス現住シテ一戸ヲナス者ニ賦課ス但同居異籍ノ者ハ各一戸トス

第四條 戶數割ハ前後兩期(前半期四月ヨリ 九月迄)ニ分テ 四月一日 現在戶數ニ一戸平均課率ノ半額ヲ乘シタルモノヲ以テ其町村毎期ノ賦課額トシ各戶ノ負擔額ハ町村會ニ於テ貧富ニ應ジ等級ヲ設クルモノトス

赤貧ニシテ納稅ニ堪ヘ難キモノハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ免稅スルヲ得ルト雖モ其町村總賦課額ヲ減少スルヲ得ス

各戶ノ負擔最高額ハ一戸平均額ノ十倍ヲ超過スルヲ得ス

第五條 戶數割ハ 四月一日ノ現住者ハ假令他町村ニ轉住スルモ其期ノ負擔額ハ原住地ノ町村會ニ於テ議定スルモノトス

前項期日後新ニ一戸ヲ構ヘタルモノハ一戸平均額ヲ賦課ス但縣內他町村ヨリ轉住シタルモノヨリテ

當期戶數割ノ賦課ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第六條 戶數割ハ 四月一日 後納稅義務消滅スルモ其期ノ稅金ハ全額ヲ賦課ス

第七條 戶數割ハ恤救規則ニ依リ一戸中ニ於テ救助ヲ受クルモノアルトキハ之ヲ賦課セス但救助ヲ受クル前既ニ賦課シタル稅金ヨリテ未納ノモノハ免除シ徵收濟ノモノハ返付セス

宮崎縣令第八十號(廿六年十二月廿五日)

地方稅營業稅雜稅賦課規則縣令ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

地方稅營業稅雜稅賦課規則

第一條 營業稅雜稅ハ課目課額ニ據リ之ヲ賦課ス

第二條 左ニ掲クルモノハ課稅セス

一 商業ニアラスシテ各自收穫ノ農産物及自己所有ノ物品ヲ販賣スルモノ但店舗ヲ開ク者ハ此限ニアラス

二 各自收穫ノ原料ヲ以テ生糸茶砂糖ヲ製造シ之ヲ販賣スル者但店舗ヲ開キ又ハ行商露店ヲナス者ハ此限ニアラス

三 工業稅ヲ納ムルモノ及職工ノ課目中名目ナキ職工ニシテ自製ノ物品ヲ販賣スル者但店舗ヲ開キ又ハ行商露店ヲナス者ハ此限ニアラス

四 酒類又ハ醬油製造者ニシテ自製ノモノヲ其製造場ト同邸內ニ在ル店舗ニ於テ販賣スル者

五 山間僻地ノ孤店ニシテ行旅ノ便ヲ圖リ旅客ヲ宿泊セシムルモ其專業ニアラズ者

六 職工ニシテ十五歲未滿七十歲以上ノ者

七 船車ニシテ國稅免除ノ者

八 遊藝師匠遊藝家人ニシテ盲啞ノ者

九 一時他店縣ヨリ來リ營業スル俳優相撲行司遊藝家及行商ニシテ当期納稅濟ノ證アル者

第三條 營業稅并雜稅ノ中數種ノ課目ヲ兼ル者及營業稅雜稅ノ課目ヲ兼ル者ハ各別ニ課稅ス但營業稅中行商露店ノ課目相兼ル者同等ナレハ一方ニ就キ異等ナレハ稅額ノ重キニ就テ課稅シ雜稅中行商露店ノ課目相兼ル者ハ一方ニ就テ課稅ス

山產物商ニシテ山產物商ニ掲ケタルモノヲ買入レ之ヲ販賣スルモノハ諸商ニ就テハ課稅セサルモノトス但其仕込ヲ爲ス物品ト買入ヲ爲ス物品ト異ナルトキハ稅額ノ高キニ就テ課稅ス

第四條 年稅ハ半ケ年度(前半年四月ヨリ九月迄後)月稅ハ一ケ月ヲ以テ各一期トシ其實事一期ニ滿タスト雖モ其期ノ稅金ハ全額ヲ賦課ス

第五條 脫稅者アルトキハ其年期間ノ稅金ヲ一時ニ徵收ス其一月平均額ヲ賦課スルモノ、稅額ハ第八條ニ據ル

第六條 營業稅中商業第一類及雜稅第一類ハ町稅內各類總營業者(四月一日現在)毎ニ一月平均年稅金ノ半額ヲ乘シタルモノヲ以テ其町村每期ノ賦課額トシ各自ノ負擔額ハ町村會ノ議定ニ依リ各種ヲ通シテ等級ヲ設クルモノトス貧困ニシテ納稅ニ堪ヘ難キモノハ町村會ノ議決ヲ以テ特ニ之ヲ免除スルヲ得ルト雖モ其町村總賦課額ヲ減少スルヲ得ス

各自ノ負擔最高額ハ一月平均額ノ二十倍ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 前條各自ノ負擔額ヲ定ムルニハ土地ノ狀況營業ノ大小商況ノ盛衰資本ノ多寡利潤ノ厚薄等ヲ

參酌シ標準トナスヘシ

第八條 一月平均額ヲ賦課スル諸業ニシテ町村會開設後新ニ開業スル者ノ稅額指定方法ハ第七條ニ據リ町村會ニ於テ之ヲ議定ス

第九條 一月平均額ヲ賦課スル諸業ニシテ(四月一日)後町村會開設前ニ於テ新ニ開業スル者及他町村ヨリ轉居引續營業スル者ハ現營業者ニ加算シ縣內他町村ニ轉居居業スルモノハ現營業者ヨリ除算ス但同期限內ニ於テ廢業又ハ他府縣ニ轉居セシモノハ原營業地ノ町村ニ於テ其負擔額ヲ定ムルモノトス他町村ヨリ轉居引續營業スルモノニシテ原營業地ノ町村ニ於テ已ニ負擔額ノ決定シタル者ハ其決定額ヲ賦課シ其未タ決定セサルモノニシテ轉居地ノ町村會開設後ニ係ルモノハ第八條ニ據ス

第十條 一月平均額ヲ賦課スル諸業ニシテ各自ノ負擔額決定後ハ縱令營業ニ消長アルモ其期內ニ於テハ課額ヲ増減スルコトヲ得ス

第十一條 商業第一類第二類及雜稅第一類ヲ除ク各營業者ニシテ貧困ニヨリ納稅ニ堪ヘ難キモノハ特ニ免稅スルコトアルヘシ

第十二條 商業中行商露店山產物商ノ各課目中數種ヲ兼ル者及職工ノ課目數職ヲ兼ルモノハ稅額ノ重キニ就テ課稅ス

雜稅稅漁業ノ課目中數種ヲ兼ルモノハ各別ニ課稅ス

第十三條 商業中行商露店ノ各課目中同課目內ノ轉業者及ヒ各課目交互轉業スルモノニシテ稅額ノ輕キヨリ重キニ移ル者ハ先稅額ニ照シ其期相當ノ增稅ヲ課シ又稅額ノ重キヨリ輕キニ移ルモノハ其期內ハ先稅額ニ據置クモノトス

雜稅稅中行商露店ノ課目交互轉業スルモノハ其課目ニ就テハ更ニ課稅セサルモノトス

第十四條 資本金ニ賦課スル年稅ハ四月一日現在ノ資本金ニ依リ前收ス其資本金ノ増加シタル時ハ增

加額ニ對スル其期相當ノ増稅ヲ課シ資本金ノ減少ナル時ハ先稅額ニ據置クモノトス
第十五條 貸付金ニ賦課スル貸付金ノ計算方ハ其年度ニ於テ貸出シタル惣高ヲ通算スルモノトス
第十六條 物件ノ數ニヨリ課稅スルモノ其數増加スルトキハ該期ヨリ減少スルトキハ次期ヨリ相當稅額ヲ賦課スルモノトス

第十八條 兩姓ニシテ甲地ヨリ乙地ヘ轉居シ若クハ出稼シ稅額ニ差異ヲ生スルモ其月分ハ甲地ノ稅額ニ據ル

第十九條 各營業者ノ内分店支店等ヲ設ケ開業スルモノハ其店舗毎ニ課稅スルモノトス

第二十條 漁業ノ中投網待堀網白浪網鱈配並魚釣掛掛具採鵜遣ハ一人毎ニ築ハ一ヶ所毎ニ其他各種ノ網數除クハ一張毎ニ課稅スルモノトス

鮎敷網鮎網ハ其網ヲ以テ捕獲シタル全部ノ賣上高ニ依リ課稅ス但漁夫其他ノ賃錢等ニ代スルニ其捕獲物ヲ以テスルモノハ賣上タルモノト見做シ營業者ノ賣上高ヲ標準トシテ算出シ之ヲ併算スルモノトス

採藻ハ一人毎ニ課稅スルモノトス
第二十一條 本則ハ明治二十七年年度ヨリ施行ス

訓令第二十七號(廿八年三月廿日)
過年度地方稅徵收手續左ノ通相定ム

過年度地方稅徵收手續
第一條 郡長ニ於テ雜收入^{年度後}ニ編入スヘキ過年度地方稅ノ稅額ヲ測定シ徵收令書ヲ發付シタルトキハ即日更ニ之ヲ雜收入ニ測定シ出納吏ニ對シ納入告知書ヲ發付スヘシ

郡役所 出納吏

第二條 毎年度地方稅收入測定額ニシテ其年度出納閉鎖期限マテニ收入ニ至ラサルモノアルトキハ郡長ハ該期限後一ヶ月以内ニ之ヲ翌年度ノ雜收入^{年度後}ニ測定シ出納吏ニ對シ納入告知書ヲ發付スヘシ

第三條 出納吏ニ於テ前二條ニ係ル稅金ヲ收納シタルトキハ納入告知書ヲ添ヘ縣金庫ニ納付スヘシ但雜納處分ニ依リ全部若クハ幾分ノ缺損ヲ生シタルトキハ其旨ヲ附記シテ納入告知書ヲ返付シ收納セシ現金モ亦直チニ郡長ニ納付スヘシ

前項ノ出納ハ明治二十七年(三月)訓令第四十七號出納吏取扱ニ屬スル雜種金取扱規則第七條ニ依リ雜種金出納簿ニ登記スヘシ

第四條 郡長ハ地方稅徵收命令簿ノ式ニ倣ヒ過年度地方稅徵收命令簿ヲ設ケ新規測定及測定繰越ノ口坐ヲ分チ第一條ニ係ルモノハ徵稅令書發付ノトキ新規測定ノ口坐ニ登記シ第二條ニ係ルモノハ翌年度雜收入ヲ測定シタルトキハ測定繰越ノ口坐ニ地方稅徵收命令簿ヨリ移記シ各其所屬年度及事由等ヲ記入シ納濟若クハ缺損トナリタルトキハ更ニ其額未ヲ記入スヘシ

前項ノ帳簿ハ各年度ヲ通シテ使用スヘシ

第五條 出納吏ハ地方稅收入簿ノ式ニ倣ヒ過年度地方稅收入簿ヲ設ケ納入告知書ヲ受領シ及納濟又ハ缺損トナリタルトキ測定額收入額缺損額等ヲ登記スヘシ

前項ノ帳簿ハ口坐ヲ分チ各年度ヲ通シテ使用スヘシ

宮崎縣令第十一號(廿九年二月廿二日)
明治二十六年(一月)宮崎縣令第三號地方稅納期明治二十九年年度以降左ノ通改正ス

戸 數 割	雜 種 稅	雜 種 稅	雜 種 稅
	車 船	遊興演 覽 所行劇	屠 市 畜 場
		鑑札交付ノ日	毎月分 翌月十五日限
	町村會ニ於テ稅額ヲ決定スルモノ 前 半 期 自五月十一日 至同月二十五日 後 半 期 自十一月十一日 至同月二十五日 但新規製造並他府縣ヨリ買受讓 受携帶轉給及船ノ定製場ヲ移シ タルモノ、當期分ハ其事實ノ生 セシ日ヨリ三十日以内		
	町村會ニ於テ稅額ヲ決定スルモノ 前 半 期 自五月十六日 至同月三十一日 後 半 期 自十一月十六日 至同月三十日 定率ヲ以テ賦課スルモノ 戸ヲ擔ヘタル翌月十五日ヨリ二十日ニ至		

一納期ノ末日休日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス
一町村ヨリ出納吏へ納付スル期日ハ各納期ノ翌日ヨリ三日以内ヲ以テ適宜郡長ノ指定スル所ニ依ル

訓令第四百四十八號(二十三年五月二日)

明治二十二年(十二月)法律第三十二號ニ依リ地方稅及町村稅滯納處分ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 國稅滯納處分法第二條其他ニ掲クル收入官吏ノ事務ハ地方稅並郡長管理ニ係ル町村稅ハ郡長
町村稅 郡長管理ニ係ルハ町村長ニ於テ取扱フヘシ但地方稅滯納督促令狀ハ時宜ニ依リ町村長ヲシテ
之ヲ發シシムルコトヲ得

第二條 國稅滯納處分法第十二條ノ財産差押命令書ハ地方稅並郡長管理ニ係ル町村稅ハ郡長ヨリ之ヲ
發シ町村稅 郡長管理ニ係ルハ町村長ヨリ之ヲ發スヘシ

第三條 郡長管理ニ係ル町村稅滯納處分費 督促令狀手 地方稅ニ收入スヘシ但町村長ヲシテ地方稅督
促令狀ヲ發シシメタルトキハ其手數料ハ該町村ニ收入スヘシ

第四條 國稅滯納處分法第四十條ノ買受受人ナキ物件ニシテ地方稅ニ係ルモノハ其豫定價格等知事ニ
上申スヘシ

前項ノ物件ニシテ町村稅ヲ以テ買上クルトキハ其代金ハ雜支出ヨリ支辨スヘシ

第五條 國稅滯納處分法第十一條ノ嘱托ハ町村稅ニ係ルモノハ經由ヲ要セス直ニ嘱托スヘシ

第六條 町村稅ノ督促ニ關スル規定ハ町村制第百二條ニ依ルヘシ

第七條 各滯納稅金扣除ヲ要スルトキノ順序ハ從來ノ例ニ據リ取扱フヘシ

訓令第九十九號(廿四年四月八日) 郡役所 出納吏 町村役場
明治二十三年(五月)訓令第一條ニ依リ町村長ヲシテ督促令狀ヲ發付セシメタルトキハ該手數料ハ便宜
滯納稅金ト共ニ出納吏へ納付セシメ出納吏ハ之ヲ町村長へ下渡スヘシ

訓令第三十三號(廿五年三月四日)

郡役所 出納吏

國稅滯納處分法第十一條ニ依リ他管廳ヨリ本廳ヲ經テ府縣稅又ハ地方稅滯納處分ノ屬托ヲ受タルトキハ本年大藏省訓令第五號報告式ニ該當セル事以ハ悉旨取調ヘ本廳又ハ囑托郡市長(囑托郡市長ニ直ニ達テ受ケタルトキ)ニ報告スヘシ

宮崎縣令第二十號(廿七年三月二十四日)

貸坐敷及娼妓賦金納付方左ノ通り定メ明治二十七年改ヨリ施行ス但明治二十一年(十二月)宮崎縣令第八十三號ハ明治二十六年度限リ廢止ス

一 貸坐敷營業及娼妓稼ヲ爲ナス者ハ賦金トシテ一ヶ月ニ付左ノ金額ヲ納ムヘシ但開業又ハ廢業ノ月ニ於テ其營業又稼キ全月ニ滿タサルモノト雖トモ尙全月分ヲ納ムヘシ

宮崎郡大淀村大字中村町

貸坐敷 金參圓

娼妓 金貳圓

南那珂郡油津町及東口杵郡延岡町大字岡富及同郡細島町

貸坐敷 金貳圓五拾錢

娼妓 金壹圓五拾錢

二 娼妓徵收ノ爲メ休業スルトキハ其月分ノ賦金ハ月ノ十五日前後ヲ以テ區分シ半月休業ノ者ハ半額全月休業ノ者ハ全額ヲ免除スヘシ

三 賦金ハ本人又ハ代人ニ於テ左ノ期限内ニ所轄郡役所ニ就キ納入告知書ノ交付ヲ受ケ該告知書ノ指定ニ依リ縣金庫ニ納付スヘシ

前月ヨリ營業又ハ稼キ續キノ者ノ毎月分賦金ハ其月一日ヨリ五日マテ新規開業者ノ開業當月分賦金ハ鑑札ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二日以内

前月ヨリ徵收ノ爲メ休業スル娼妓ノ業ニ就キタル其月分賦金ハ其就業ノ日ヨリ二日以内

四 賦金ニ過納ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シタル元締連印ノ下展請求書ヲ所轄郡長ニ差出スヘシ

五 賦金ヲ忘納シタルモノアルトキハ元締ニ於テ直ニ鑑札ヲ引揚ケ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

訓令第二十八號(廿八年三月廿日)

郡役所 出納吏

地方稅雜收人ニ屬スル滯納處分費ノ缺損トナリタルモノハ出納吏ニ於テ每一ヶ月分ヲ集計シ算出事項及人員等ヲ詳記シ翌月十日マテニ郡長ニ報告シ郡長ハ該報告ニ依リ調定額缺損額ヲ記帳スヘシ

訓令第六號(廿五年七月十一日)

郡役所 警察署 警察分署

警察署警察分署ニ於テ地方稅ノ賦課アル營業ヲ無鑑札ニテ爲シタル者及該營業中取締規則ニ依リ許可ヲ受ケヘキモノヲ其許可ヲ得スシテ爲シタル者ヲ處分シタルトキハ即時其住所姓名及要項ヲ本人居住

地郡役所ハ當該警察署警察分署所在地郡役所ニ通知スヘシ

郡役所

訓令第五十五號(廿五年十二月五日)
本縣地方稅ノ賦課アル工商業若クハ雜種業ヲ無鑑札ニテ爲シ又ハ取締規則ニ依リ許可ヲ受ケヘキニ其許可ヲ受ケサル爲メ違警罪ノ處罰ヲ受ケタルモノハ其時々當該區裁判所ヨリ本人住居地ノ郡役所内ニ寄留セサル他府縣ノモノハニ通知ノ答ニ付此旨心得ヘシ

區裁判所々在地ノ郡役所

內務部 警察部 監獄署
監獄支署 郡役所 監獄學校

地方稅支辨ニ屬スル奏仕待遇ノ者俸給支給方ハ明治二十四年勅令第六十二號及明治廿五年勅令第九十六號高等官々等俸給令並ニ同年大藏省令第十一號文官俸給支給細則ニ據ルヘシ
 同上判任待遇ノ者(巡查看守)及傭員ノ俸給支給方ハ明治二十四年勅令第六十二號及明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令並ニ明治二十五年大藏省令第十一號文官俸給支給細則ニ據ルヘシ但傭員ニ於テハ明治二十四年勅令第六十二號ハ適用セズ
 縣立學校職員ニシテ明治二十七年勅令第四百一十一號第一條第一項ニ依リ休職ヲ命シタルモノハ俸給ヲ支給セス全第二項ニ該當スルモノハ明治二十四年勅令第六十二號ニ據ルヘシ
 以上ノ者及郡書記俸給支給定日ハ毎月二十一日トシ休日ニ當ルトキハ順延トス
 明治二十三年訓令第八號同第九號同第百三十五號同第百三十六號ハ廢止ス

訓令第十一號(廿六年一月廿六日)

內務部 警察部 監獄署 郡役所
 警察署 警察分署 監獄支署 縣立學校

地方稅支辨ニ屬スル雇員日給及傭員月給並日給支給規則左之通相定メ明治二十六年二月一日ヨリ施行ス但明治二十一年(七月)訓令第三百十三號雇員以下日給支給方法ハ本年一月分ノ支給ヲ了ヘタル日ヨリ廢止ス

- 雇員日給及傭員月給並日給支給規則
- 第一條 雇員日給及傭員月給並日給ハ每一ヶ月分ヲ翌月一日(休日ニ當ルトニ於テ支給シ十二月分ハ其月二十八日(休日ニ當ルトニ於テ支給シ)ニ於テ支給シ罷免ノトキハ其際支給ス
 - 第二條 雇員及傭員ノ日給ハ定例休日病氣缺勤等總テ其缺勤日數ヲ扣除シ現勤日數ニ依リ支給ス但女監取締ノ日給ハ缺勤後ニ連續スルモノ、外定例休日及忌引ヲ現勤日數ニ算入ス
 - 第三條 傭員缺勤中ノ月給ハ定例休日ニ係ルモノ、外總テ日割ヲ以テ扣除ス但缺勤後ニ連續スル休日

ハ缺勤日數ニ算入ス

- 第四條 傭員ノ月給ハ其雇入ノトキハ就職日ヨリ其罷免死亡ノトキハ執職セシ日迄日割ヲ以テ支給ス
 - 第五條 日給及月給ノ増減ハ總テ發令ノ翌日ヨリ計算シ月給ニ係ルモノハ日割ヲ以テ支給ス
 - 第六條 月給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス
- 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

訓令第六十五號(二十七年四月廿一日)

縣立學校(獸醫學校ヲ除ク)

尋常師範學校正教員尋常中學校長及正教員ノ俸給ハ各本人ニ對シテハ府縣立師範學校長俸給并公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ國庫ニ納ムヘキ金員ヲ差引シタル殘額ニ就キ仕拂命令ヲ發付シ其差引額ハ別ニ本縣主任收入官吏ニ對シ仕拂命令ヲ關製シ左ノ書式ノ納付書ヲ添ヘ該官吏ニ送付スヘシ

納付書

一金

但明治何年何月分國庫納金

納

付

高 俸

給

高 官

氏 名

氏 名

名

右納付候也

本縣主任收入官吏宛

校長 氏 名 印

宮崎縣令第七十六號(廿六年十二月廿五日)

縣會議員旅費日當及常置委員月手當旅費日當額中縣會ノ決議ヲ經テ第四項ヲ削除シ第五項「出張」ノ下

「及出會往復」ノ五字ヲ挿入シ明治二十七年度ヨリ施行ス但本支施行ノ場合ニ於テ實際歸郷セルモノアルモ廳下滞在中ト見做シ歸路ニ係ル分ヨリ第五項ノ旅費ヲ給ス
(參照)

縣會議員旅費日當及常置委員月手當旅費日當額

- 一 縣會議員旅費ハ車馬賃一里毎ニ金拾錢日當金壹圓トス
- 一 同上出會手當ハ一日金壹圓トス
- 一 常置委員月手當金參拾圓トス
- 一 同上赴任歸郷旅費ハ車馬賃一里毎ニ金貳拾錢日當金壹圓トス
- 一 同上管内出張旅費ハ車馬賃一里毎ニ金八錢日當金七拾錢トス
- 一 同上巡回旅費ハ日當金九拾錢トス
- 一 縣會議員並常置委員管外出張旅費ハ汽車賃一哩毎ニ金拾錢海船賃一海里毎ニ金拾錢車馬賃一里毎ニ金貳拾錢日當金貳圓五拾錢トス

訓令第四百號(廿三年四月九日)

監守押丁囚人護送一旅行片道三里未滿ハ車馬賃及雜費ヲ給セス

監 獄

訓令第四百七十九號(廿三年六月十日)

監守押丁囚人護送旅行往復六里以上ニ涉ルモ宿泊セサルトキハ日當ヲ給セス

監 獄

訓令第九十號(廿五年五月三十一日)

警察署

警察分署

駐在所詰巡査並署所在地巡査受持區内巡回日當月額及支給方法左之通相定ム但明治二十年訓令第六十號同二十二年訓令第百號ハ廢止ス

駐在所詰巡査並署所在地巡査受持區内巡回日當月額及支給方法

一 駐在所詰巡査並署所在地巡査受持區内巡回日當月額ヲ以テ支給ス其金額ハ左ノ範圍ニ於テ別ニ之ヲ定ム但臨時急行又ハ傳染病流行ノ爲メ臨時出張ノ節特ニ警部長ノ認可ヲ得タル場合ニ限リ日當月額ヲ給セス日當ヲ支給スルノヲ得

駐在所詰巡査日當月額

金五拾錢以上金三圓五拾錢以下

署所在地巡査日當月額

金參拾五錢以上金壹圓五拾錢以下

一日當月額ハ其給與ノ初月端數ニ係ルキ又ハ已ニ給與ヲ受クルモノニシテ轉任免職詰署ノ變更若クハ其他ノ事故ニヨリ給與ヲ止メ又ハ死亡シタルトキハ日割ヲ以テ支給ス
一日當月額ハ赴任ノ者ハ到着ノ翌日ヨリ轉免ノ者ハ辭令書到達ノ日マテ第二項ニ依リ支給ス
一日當月額ヲ受クル者病氣引(職務上負傷又ハ傳染病)又ハ忌引ノ日ハ日割七日迄ハ全額ヲ給シ八日以上ニ及フトキハ第八日目ヨリ出勤前日迄ノ日割ヲ除キ第二項ニ依ル但病氣引忌引前後連續スルトキハ之ヲ通算ス

一 第一項但書ニヨリ日當ノ支給ヲ受ケタルキ並受持區外出張(所屬警察署分署)及賜暇ノ日ハ其日割ヲ除キ第二項ニ依ル但賜暇ニ病氣引若クハ忌引ノ連續スルトキ第四項ノ例ヲ用イス總テ其日割ヲ通算シ本項ニ準ス

一 駐在所詰巡査ノ所屬警察署分署へ出張スル者ハ日當月額ノ外別ニ旅費日當ヲ支給セス

一駐在所若クハ所在地受持區ノ分合等ニヨリ日當月額ヲ更正スルノ必要アリト認ムル場合ハ警察署長ニ於テ第一項ノ範圍ニヨリ其見込金額ヲ上申スヘシ

宮崎縣令乙第十五號(十九年八月十二日) 警察本部 警察署
 巡查持區内ヲ旅行スルトキハ日當金貳拾五錢ヲ支給ス

訓令第三十七號(廿六年三月十八日) 郡役所 警察署 警察分署
 郡書記縣立學校職員巡查看守其他地方稅支辨ニ屬スル職員旅費左ノ通改正シ明治二十六年度ヨリ施行ス但明治二十四年(八月)訓令第百八十三號全二十五年(一月)訓令第十二號全第十四號全年(一月)連第
 四一號全第四六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 尋常師範學校長旅費

管内	車馬賃 一里 每二	日當 一日 每二
管内	金拾貳錢	金壹圓

管内	月俸拾貳圓以上ノ郡書記	月俸拾貳圓未満ノ郡書記
	車馬賃 一里 每二	車馬賃 一里 每二
管内	日當 一日 每二	日當 一日 每二
管内	金六錢	金五拾錢
管内	金五拾錢	金五錢
管内	金參拾五錢	金參拾五錢

巡查看守旅費

車馬賃 一里 每二	日當 一日 每二
管内	金五錢
管内	金六錢
管内	金三拾錢
管内	金四拾錢

縣立學校職員並各雇員旅費

奏任 待遇	金六錢	瀛車賃 一哩 每二	瀛船賃 一哩 每二	車馬賃 一里 每二	管内	管外	管内	管外
判任 待遇	金四錢	金六錢	金五錢	金拾貳錢	金拾五錢	金壹圓	金壹圓六拾錢	金七拾錢
縣立學校 雇員	金三錢	金四錢	金六錢	金八錢	金拾錢	金五拾錢	金七拾錢	金七拾錢
監獄支署 勤務雇員	金三錢	金四錢	金六錢	金七錢	金四拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢
郡役所 雇員	金三錢	金四錢	金五錢	金七錢	金三拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢

一旅費支給ノ方法ハ管外旅行ノ爲メ管内ヲ通過スルトキハ管外ニ準シ管內旅行ノ際便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ管内ニ準ス
 一縣立學校職員並各雇員ハ前項ノ外明治十九年(六月)閣令第十四號内國旅費規則ニ據ル

成第五四號(十九年五月廿九日)

那役所

明治十八年成第三十四號並ニ同年乙卯五十九號ヲ以テ那役所經費及戸長以下給料旅費流用届出ノ儀相
簿置候處自今那役所經費小科目流用伺ノ外ハ都テ一期中取廻メ勘定帳進進ノ節届出スヘシ
右相違ス

訓令第九十六號(廿五年六月六日)

監獄署 監獄支署

看守被服屬具品給與及貸與規則左ノ通之ヲ定ム但明治廿三年(四月)訓令第九十五號ハ廢止ス

看守被服屬具品給與及貸與規則

第一條 被服屬具ヲ分ツテ給與品貸與品ノ二種トス

第二條 給與品ノ員數保存期限豫備期限渡區別及渡期月等別表第一號ノ通リ貸與品ノ員數ハ第二號ノ
通リトス

第三條 給與品ノ内渡期月アルモノハ各看守エ一齊ニ之ヲ渡シ被服帽等ヲシテ彼是新舊ノ差別ナカラ
シムルヲ要ス故ニ中途ニ拜命スルモノハ相當ノ古服帽等ヲ渡スモノトス

第四條 保存期限ハ渡期月ヨリ豫備期限ハ保存期限ノ了リタル翌月ヨリ月數ヲ以テ計算スルモノトス

第五條 給與品ノ保存期限ヲ經過シタルモノヲ以テ豫備品トシ不時ノ用ニ備フ豫備期限ノ經過シタル
モノハ之ヲ本人ニ給與ス轉免死亡ノトキモ亦全シ

第六條 給與品中長短靴肌着靴下ノ代價ハ別表第三號ノ通リトシ長短靴ノ代料ハ前金肌着靴下ノ代料
ハ後金ヲ以テ給與ス但新任ノ者ニハ日割ヲ以テ給與スルモノトス

第七條 給與品貸與品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ本人ヨリ相當代價ヲ賠償セシム其保存期限アルモ

ノハ剩餘ノ月數ニ應ジ代價ヲ徵收シ毀損シタル給與品ハ之ヲ本人ニ付與ス但毀損ノ摸樣ニ依リ修補
シテ其用ニ堪ユルモノハ修補料ヲ自辨セシム

第八條 職務ノ爲メ給與品貸與品ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ實際取調ノ上已ムヲ得サルコト出ルト認
ムルモノハ修補或ハ換與スヘシ但本文ノ場合ニ於テハ代價ヲ賠償セシムルノ限ニアラス

第九條 給與品等合格セサルモノアラハ當初授受ノ際申出ヘシ一旦支給ノ後ハ輒スク換與スルヲ許サ
ス

第十條 轉免死亡者ニ屬スル代料渡ニ係ルモノハ(後金渡ノモ)其代料十分ノ八ヲ使用期限ノ月割トシ
殘期相當ノ金額ヲ納付セシム

訓令第七十四號(廿七年五月三日)

警察署 警察分署

巡查被服屬具給與規則左ノ通定ム但明治二十三年(七月)訓令第二百號ハ廢ス

巡查被服屬具給與規則

第一條 巡查ノ被服屬具ハ別表ニ依リ給與ス但使用期限ハ其使用ノ月ヨリ月數ヲ以テ計算スルモノト
ス

第二條 第一部品第三部品ハ現品第二部品ハ代料ヲ以テ給與ス但受業者ニ限リ現品ヲ給與シ滿期後第
六條ニ準ス

第三條 第二部品中長短靴ノ代料ハ前金肌着靴下ノ代料ハ後金ヲ以テ給與ス第四條第二部品ノ代料金
額及代料ヲ以テ調度スヘキ給與品ノ物質形体ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五條 帽冬服夏服ハ新ニ給與スルモノヲ甲種トシ前期ニ給與シタルモノ(使用期限ノ半ヲ經過)ヲ乙
種トシ常ニ甲乙二具ヲ所持セシムルモノトス

第六條 給與期日ノ前後ニ於ケル教任者ハ其現品渡ニ係ルモノハ相當品代料渡ニ係ルモノハ月割ヲ以テ給與スルモノトス但夏服ハ一時ニ二具ヲ給與ス

前項ノ相當品ナキ場合ニ於テハ新品ヲ合與シ其使用期限ヲ適宜申宿スルコトアルヘシ

第七條 第一部品第二部品ノ使用期限ヲ經過シタルモノハ本人ニ付與ス

第三部品ハ使用期限ヲ定メス實際使用ニ堪ヘサルヲ待テ修理又ハ交換スヘシ

第八條 給與品ヲ失却毀損シ修理交換ヲ要スル場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ修理又ハ交換スヘシ若シ正當ノ事由ナキモノハ本人ヲシテ修理セシメ又ハ相當代價ヲ賠償セシム

第九條 代價ヲ賠償セシムル場合ニ於テハ第一部品第二部品ハ其使用期限ノ經過ニ依リ月割ヲ以テ原價ヲ遞減シ第三部品ハ總テ原價ニ依ルモノトス

第十條 轉免死亡ノ者ニシテ其給與品使用期限内ニ係ル第一部品及第三部品ハ現品ヲ還納セシメ第二部品(鍍金渡ノモ)ハ其代料十分ノ八ヲ使用期限ノ月割トシ殘期相當ノ金額ヲ納付セシム

訓令第七十五號(廿七年五月三日) 警察署 警察分署

巡查被服器具取扱手續左ノ通定ニ但明治二十三年十一月訓令第二百七十四號ハ廢ス

巡查被服器具取扱手續

第一條 給與品ハ明治二十六年(三月)訓令第五十六號縣有物品會計規則ニ依リ内務部第四課ニ於テ其出納ヲナスモノトス

第二條 第二部品ノ現品渡又ハ前金渡ヲ受ケタルモノ各署在勤ヲ命セラレタルトキハ第一號書式ノ使用期限證ヲ本人ニ交付シ之ヲ任署ニ差出サシメ其使用期限内轉署シタルトキハ遞傳スルモノトス

第三條 給與規則第十條第一項ニ依リ現品還納ノモノハ品目數量ヲ記シタル返納書ヲ徵シ現品ニ添付

シ五日以内ニ内務部第四課ヘ送付スヘキモノナリ

同條第二項ノ代料返納ニ係ルモノ及同規則第八條ノ賠償金ハ雜收入ニ編入スヘキモノトス

第四條 給與規則第八條ノ場合ニ於テハ縣有物品會計規則第二十九條ニ依リ本人ヨリ辨明書ヲ徵シ内務部長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第一部品ノ交換ヲ要スルモノハ本人ノ請求書ヲ徵シ内務部第四課ニ送付シ現品到着ノ上之ヲ交付シ領收證書并返納書ヲ徵シ現品ニ添付還納スヘキモノトス

第五條 第三部並革帶附屬ノ釣革(革帶ト分離)ハ豫備品ヲ交付スヘキニ依リ手帖及釣革ハ消耗品其他ハ備品出納簿ニ保管ノ轉換トシテ元受ヲナシ其交換ヲ請求スルモノアルトキハ手帖及釣革ハ精算拂トナシ其他ハ返渡ヲナシ本人ノ請求書ヲ徵シ毀損品ト共ニ内務部第四課ニ送付シ現品到達ノ上之ヲ交付シ領收證書ヲ徵シ同課ヘ送付スルモノトス但還納品中巡查部長徽章、腕貫、外套締革、手帖、呼子笛、釣革ハ各署ニ於テ適宜棄却シ手帖及釣革ヲ除クノ外第二號書式ノ證明書ヲ差出スヘキモノトス

第六條 冬服夏服及日覆還納ノ節ハ本人ニ於テ必ス洗滌セシムルモノトス

第七條 現品ヲ還納スルトキハ返納者ノ氏名及其年月日ヲ記シタル小札(厚紙製)ヲ貼付スヘキモノトス

訓令第八十號(廿七年五月八日) 警察署 警察分署

巡查被服器具給與規則第四條ニ依リ第二部品ノ代料金額左ノ通定

- 一 肌着 壹組 金四拾五錢
- 一 長靴 壹足 金貳圓拾錢
- 一 短靴 壹足 金壹圓貳拾錢

一靴下 壹疋 金四錢

訓令第二百六十六號(廿四年十二月廿五日) 郡役所 町村役場
 明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則左ノ通之ヲ
 定ム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

- 第一條 町村立小學校正教員ヨリ納ムヘキ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條第三項ノ納金ハ町村役場ニ於テ給料支拂ノトキ其支拂額「年功増俸」ニ應シテ之ヲ差引キ之ニ對スル同條第二項ノ町付納金ト共ニ每一ヶ月分翌月五日限リ第一號書式其一ノ納付書及同其二ノ領收濟證明請求書ヲ添ヘ縣金庫ヘ拂込ニ其領收證書ヲ受取リ及領收濟證明請求書ヘ式ノ如ク証明ヲ受クヘシ
- 第二條 給料ノ減少又ハ經濟ナ異ニセル學校ヘ轉勤ニ依リ過渡給料ヲ返納スルモノアルトキハ之ニ對スル過納金ハ納人ニ於テ差引カシムヘシ
- 第三條 前條納人ノ差引シタル金員及町村金ノ過納ニ係ルモノハ次月ニ於テ縣金庫ヘ拂込ムヘキ金員ノ内ヨリ引去ルヘシ
- 第四條 郡長ニ於テ直接ニ出納ヲ管理スル聯合町村立小學校ニ係ル納金ハ總テ前各條ニ依リ郡役所ニ於テ之ヲ取扱フヘシ
- 第五條 郡役所町村役場ニ於テハ毎月收入額ヲ取調ヘ第二號書式ノ報告書ヲ製シ第一條ノ領收濟證明書ヲ添ヘ翌月十日迄ニ知事ニ差出スヘシ
- 第六條 郡役所及町村役場ニ於テハ便宜ノ式ニ依リ帳簿ヲ設ケ納金ノ出納ヲ整理スヘシ

訓令第四十一號(廿九年四月廿二日) 郡役所 町村役場
 明治二十九年(三月)法律第十三號中徒弟學校及實業補習學校ノ教員ニ係ル納金ハ明治二十四年(十二月)訓令第二百六十六號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則ニ據リ取扱フヘシ

訓令第三十三號(二十年二月廿四日) 警察署 警察分署
 明治十五年(七月)太政官第四十一號逓巡查看守給切例ニ依リ該金額左表ノ通之ヲ定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

逓巡查看守給助金額表

種目	本例		本例	
	金額	例	金額	例
退職給助	第三項 貳拾圓 一年毎ニ三圓ヲ増給ス	第三項 貳拾五圓 一年毎ニ一圓ヲ増給ス	第三項 貳拾五圓 一年毎ニ一圓ヲ増給ス	第三項 貳拾五圓 一年毎ニ一圓ヲ増給ス
傷痕給助	第四項 三拾五圓	第四項 貳拾五圓	第四項 貳拾五圓	第四項 貳拾五圓
死亡給助	第五項 三拾五圓	第五項 貳拾五圓	第五項 貳拾五圓	第五項 貳拾五圓
療治料	第六項 一日五拾錢以下	第六項 一日五拾錢以下	第六項 一日五拾錢以下	第六項 一日五拾錢以下
祭祀料	第七項 拾圓 一年毎ニ三圓ヲ増給ス	第七項 拾圓 一年毎ニ三圓ヲ増給ス	第七項 拾圓 一年毎ニ三圓ヲ増給ス	第七項 拾圓 一年毎ニ三圓ヲ増給ス

宮崎縣令第二十一號(廿六年三月三十一日)

宮崎縣尋常師範學校書記退隱料及遺族扶助料法左ノ通相定メ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

宮崎縣尋常師範學校並宮崎縣尋常中學校書記退隱料及遺族扶助料法

第一條 宮崎縣尋常師範學校並宮崎縣尋常中學校書記在職滿十五年以上ノ者又ハ職務ニ依リ傷痕ヲ受ケタル等ノ者ニシテ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第三條第四條各款ノ一ニ當ルトキハ該條ニ準シテ退隱料ヲ給ス

第二條 退隱料ノ額及給與法等ハ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第五條第七條第一項第一款乃至第三款第五款第二項第八條及第十一條第二項ニ準據ス

第三條 宮崎縣尋常師範學校並宮崎縣尋常中學校書記在職滿一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ其在職ノ年數ニ依リ金員ヲ給ス其額及給與方等ハ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十條第一項乃至第三項ニ準據ス

第四條 在職年數起算又ハ除算等ハ明治二十五年(二月)勅令第十七號第三條第一項及第五條ニ準據ス本法施行以前宮崎縣尋常師範學校書記及宮崎縣尋常中學校書記勤務ノ年數ハ退隱料等給與上在職年數ニ算入スルモノトス

第五條 宮崎縣尋常師範學校並宮崎縣尋常中學校書記ニシテ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條各款ノ一ニ當ルトキハ其遺族ニ扶助料ヲ給ス

第六條 宮崎縣尋常師範學校並宮崎縣尋常中學校書記在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ故ニアラスニテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

第七條 扶助料ノ額及給與法等ハ府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十三條ニ依リ扶助金ノ額ハ本法第十四條第二項ニ依ル

第八條 本法退隱料給與金扶助料及扶助金ハ國庫ヨリ恩給又ハ退隱料扶助料ヲ受クル者及其資格ヲ有スル者ニハ之ヲ給セス

第九條 宮崎縣尋常師範學校並宮崎縣尋常中學校書記(國庫ヨリ恩給又ハ退隱料ヲ受ク)ハ其俸給百分ノ一ヲ毎年縣廳ニ納ムヘシ

第十條 退隱料又ハ第三條ノ給與金ヲ受クヘキ者ハ退職ノ際退隱料又ハ給與金請求書ヲ差出スヘシ

第十一條 扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ遺族ハ扶助料又ハ扶助金請求書ヲ差出スヘシ

第十二條 但請求書ニハ明治二十五年(二月)文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則第九條第十二條ニ準據シ必要ノ書類ヲ添付スヘシ

第十三條 第十條及第十一條ノ請求ヲ許可シタルトキハ退隱料及扶助料ハ退隱料若クハ助扶料證書ヲ付與ス其第三條ノ給與金及扶助金ハ辭令書ヲ用フ但本文證書ハ居住地町村長ヲ經テ交付ス

第十四條 退隱料扶助料ノ支給及停止等ハ明治二十五年(二月)文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則第十三條乃至第十七條ニ準據ス

第十五條 退隱料及扶助料ヲ受クル者死亡シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキハ居住地町村長ヨリ届出ツヘシ

第十六條 水火災盜難ニ依リ退隱料及扶助料證書ヲ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再渡ヲ請フヘシ

訓令第六十三號(二十七年四月廿一日) 縣立學校(獸醫學校ヲ除ク)
明治二十六年(三月)縣令第二十一號宮崎縣尋常師範學校并宮崎縣尋常中學校書記退隱料及遺族扶助料法ニ依レル書記納金ハ毎月俸給仕拂ノ日ニ於テ之ヲ徵收スヘシ但全年訓令第五十四號(二十七年)度以

降廢止ス

訓令第五十六號(廿四年三月六日)

警察署 警察分署

明治二十五年(五月)訓令第五十六號留置人并護送囚人賄料左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

一留置人賄料一度金貳錢以下

一護送囚人賄料一度金貳錢五厘以下

訓令第九十三號(廿五年六月一日)

郡役所

地方税ニ關スル諸鑑札紛失遺失等ノ義ハ是迄時々届出來候處自今届出ニ及ハス

訓令第八十號(廿四年三月廿四日)

郡役所 町村役場

明治二十三年(九月)法律第八十八號府縣稅徵收法第一條第二項ニ係ル町村交付金ハ左ノ區分ニ依リ別紙用式ニ倣ヒ請求書ヲ調製シ毎回分其翌月五日限リ郡役所へ差出シ郡役所へ之ヲ取纏メ全月十日限リ縣廳へ送付スヘシ

第一回 自四月一日起至九月三十日

徵收ノ分

第二回 自十月一日起至翌年三月三十一日

徵收ノ分

町村交付金請求書

出納吏認印

一金何程

何町(村)分

但地方税 自何月何日徵收額ノ百分ノ四ニ對スル交付金其徵收高左記ノ通至何月何日

出納吏認印

金何程

何稅 (款限リ)

金何程

何稅

(以下之ニ倣ヒ列記スヘシ)

右御下渡相成度候也

何郡何町長

年月日

氏名印

知事宛

備考

郡役所ニテ此請求書ヲ收受シタルトキハ徵稅簿ト照合シ相違ナキコト於テハ其金額ニ出納吏認印スヘシ

訓令第三百三十二號(廿四年四月三十日)

郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校

明治二十二年(三月)訓令第五十四號地方稅支辨ニ關スル文具給與規則ハ本年四月三十日限リ廢止ス但特別用ノ文具ハ所署校ニ備ヘテ使用セシムルコトヲ得

警察

警察署 警察分署

訓令第四十四號(廿六年三月二十三日)
警察署分署處務細則左ノ通改定本年四月一日ヨリ施行ス
但明治二十三年訓令第二百七十八號警察署分署處務細則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

警察署分署處務細則

第一章 職務權限

第一條 警察署長ハ警部長ノ指揮ヲ承ケ分署長ハ警部長及所屬署長ノ指揮ヲ承ケ部下ヲ指揮監督シ部
内ノ警察事務ヲ整理スヘシ

第二條 主管ノ事務ニ就テハ警察署長分署長其責ニ任ス

第三條 警察署長分署長ハ左ニ列記シタル諸件ノ内第八項第九項第十項第十三項第十四項ハ直接知事
ニ其他ハ警部長(分署長ハ所屬署長)ヲ經テ知事ニ具申スルヲ得

一 巡查ノ進退賞罰ニ關スルヲ

二 巡查受持區ノ廢償分合ニ關スルヲ

三 警察上ノ賞與恩給ニ關スルヲ

四 警察上外國人交渉ニ關スルヲ

五 古代ノ沿革ヲ徵スヘキ埋藏物處分ニ關スルヲ

六 警察取締上ニ關スル諸營業ノ禁停止ニ關スルヲ

七 署員所轄外ノ出張ニ關スルヲ但時機緊急ノ場合ハ決行ノ後具申スヘシ

八 豫算科目ノ流用ニ關スルヲ

九一廉五圓以上ノ廳舎建築修繕ニ關スルヲ
 十豫算外ノ廳舎建築修繕ニ關スルヲ
 十一警察上寄附願及請願巡查ニ關スル事
 十二警部ノ除服出仕及願伺ニ關スルヲ
 十三一廉五圓以上ノ備品購求ニ關スルヲ
 十四不用ニ屬スル備品ノ公賣ニ關スルヲ
 十五定規慣例ナキ事件ノ處分ニ關スルヲ
 第四條 警察署長分署長ハ左ニ列記シタル諸件ハ直ニ決行スルヲ得
 一 定規ニ依リ警察費ヲ收支スルヲ
 二 主管ノ事務ニ付署員ニ示達スルヲ
 三 署員ニ事務分掌及受持區勤務ヲ命スルヲ
 四 司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ニ警部代理ヲ命スルヲ
 五 巡查ニ除服出仕ヲ命スルヲ
 六 巡查ニ定規ノ休暇ヲ與ヘ又ハ轉地療養看護歸省等ノ願ヲ許否スルヲ
 七 小使僱罷ノ事
 八 官沒品處分ノ事
 九 主管ノ事務ニ付各裁判所警察署分署郵便電信局林區署郵區市役所町村役場等ヘ文書ヲ往復スルヲ
 十 前各項ノ外成規定例アル事項
 第五條 署長事故アルトキハ上席ノ署員ニ於テ其事務ヲ代理ス
 第六條 警察署在勤ノ警部ハ署長ノ指揮ヲ承ケ巡查ヲ監督シ事務ヲ整理ス

警察署分署在勤ノ巡查部長ハ署長ノ指揮ヲ承ケ巡查監督ノ事ヲ補助ス

第二章 處務順序

第七條 凡ソ事件ハ事ノ細大ヲ問ハス署長自ラ收受處理スルモノトス
 第八條 收受セシ書類ニハ到達ノ年月日ヲ附記シ認印ノ上別ニ定ムル書式ニ依リ書類受附簿ヘ登錄ス
 第九條 收受文書ニ對シ處分案ヲ要スヘキモノハ原書ノ余白ニ起案スヘシ
 第十條 事務ノ處分ハ即決スヘシ其繁重ニ涉リ即事難キモノト雖モ稽滯三日ヲ越ユヘカラス若シ此日時ヲ經過シタルトキハ其理由ヲ書類受附簿ニ登錄スヘシ
 第十一條 文書ヲ發遣スルトキハ其要領ヲ書類發送簿ニ登錄スヘシ
 第十二條 發遣文書ハ署長名ヲ用ユヘシ
 第十三條 人民ヨリ口述ヲ以テ届出タル事件ハ事ノ輕重ヲ問ハス直ニ面接シ其事由ヲ錄取シ速カニ其處分ヲ爲スヘシ
 第十四條 置員ノ進退賞罰其他秘密ニ屬スル文書ハ署長自ラ書寫スヘシ
 第十五條 警察部ニ進達スル文書ニ署長意見ヲ附セサルモノハ渾テ添書ヲ要セス該文書ノ欄外右傍中
 央ニ(同月何日警)ノ印ヲ捺シ其下端ヘ署長檢印ノ上進達スヘシ
 第十六條 處理済ノ文書ハ内勤巡查ヲシテ即時編綴セシムヘシ
 第十七條 檢視檢証ハ專ラ敏捷ヲ主トシ秘密ニ之レガ處分ヲ爲シ及告訴發又ハ被告人ノ取調ハ刑事訴訟法ニ從ヒ速ニ其事件ヲ結了スヘシ
 第十八條 統計ニ關スル諸決定規進達ヲ要スヘキ文書ハ精密ニ調査シ必ス其期限ヲ愆ルヘカラス
 第十九條 警察署分署ニ日誌ヲ備ヘ署内凡テノ事故ハ漏レナク記載スヘシ

第二十條 署長轉充ノ節ハ定規ニ依リ其后任者又ハ上席署員ニ事務引渡シ連署ヲ以テ知事ニ上申スヘ

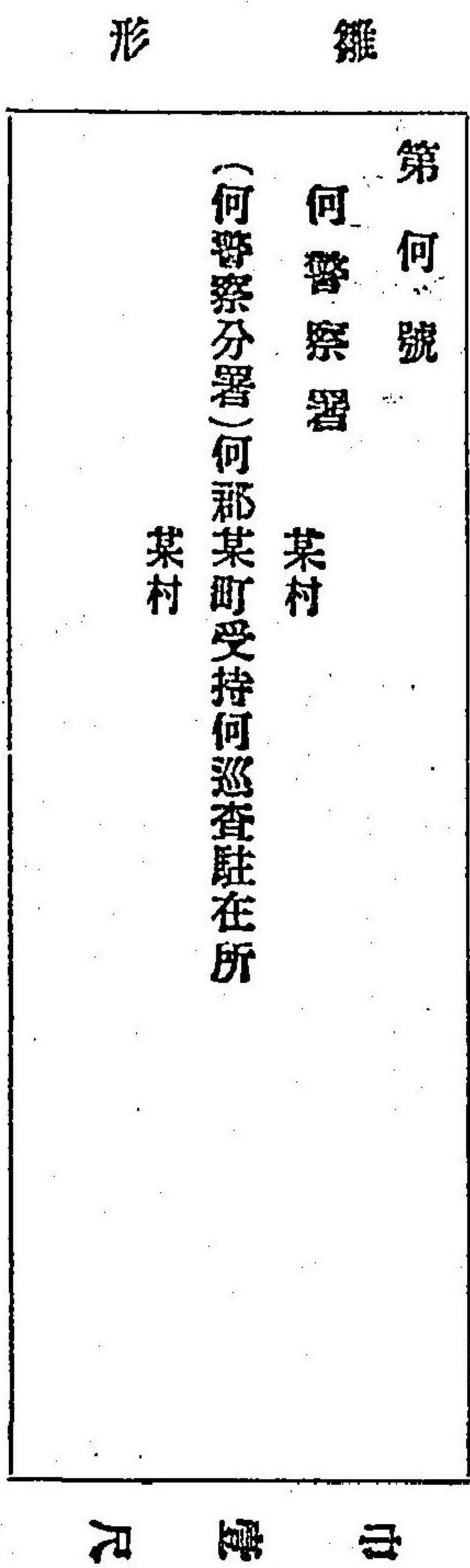
第三章 巡查受持區

第二十一條 警察署分署ハ其全所轄町村ヲ數區ニ分チ一區ヲ巡查一名ノ受持トス其受持區ハ町村ノ區域ニ依ルヘシ

但地形ノ便否人口ノ多寡ニ因リ必要ト認ムルトキハ一町村ヲ數區ニ分チ若クハ數町村ヲ合シテ一區ト爲ス事ヲ得

第二十二條 受持巡查ハ其受持區内ニ居住セシメ村落ニ在リテハ其宿所ヲ以テ駐在所トス但可成町村役場所在地ニ駐在セシムルヲ要ス

第二十三條 受持區ハ順次番號ヲ付シ駐在所ハ左ノ標札ヲ掲ヘシ



第二十四條 受持區ハ便宜ニ區乃至四區ヲ以テ一組合トシ上席巡查ヲ組合長トナス可シ組合區内ニ於テハ互ニ通報又ハ救援ヲ爲スヘシ

第二十五條 警察署分署所在地ノ受持區ハ一組合ヲ以テ一巡行區トシ受持巡查ヲシテ共同警邏ヲ爲サシムヘシ

駐在所ハ其區内ヲ以テ巡行區トシ受持巡查ヲシテ警邏セシムヘシ

第二十六條 警察署分署所在地ノ受持巡查ハ毎朝駐在所巡查ハ毎月一回以上其所屬署ニ召集シ點檢訓練及實務上ノ應問ヲ爲ス可シ但シ駐在所巡查ハ組合毎ニ其半數ヲ召集スヘシ

第四章 受持巡查署務

第二十七條 受持區内執行警察事務ニ付テハ受持巡查其責ニ任ス

第二十八條 巡查駐在所ニ日誌ヲ備ヘ當日ノ勤務時間ハ勿論警邏巡查戸口調査等其從事シタル勤務ノ種別警邏セシ町村名大字名及其取扱タル事故漏レナク記載シ上官ノ檢閱ニ供スヘシ

但警邏巡查察戸口調査其他出張ヲ要スルトキハ勤務ニ服スル前豫メ其警邏出張スヘキ町村名大字名等記載シ置クヘシ

第二十九條 駐在所ハ左ノ事故ヲ管掌ス

一行政處分ニ關スル輕易ノ變死傷火災盜難届ヲ受付其現場ヲ檢視シ調査ヲ作リ所屬署長ヘ送付スル事但時宜ニ依リ檢證處分ヲ必要ト思料スル場合ハ警部代理タルヲ要ス

二放火殺人強盜難又ハ三拾圓以上ノ窃盜難ニ就テハ一面搜查ニ着手シ一面所屬署長ニ急報スヘシ

三乘見迷子ニ就テハ其現場ヲ取調ノ上所屬署長ヘ報告スヘシ

四警察取締ニ關スル諸願届ヲ受理スル事
但諸願届等ニシテ實地ノ檢査ヲ要スルモノハ檢査ノ上許否ノ參考トナルヘキ意見ヲ付スヘシ

五被監視人ノ監視票ニ捺印スルコト
六陸軍召集條例ニ依リ証明ヲ爲スコト

七埋火葬ノ認許証ヲ檢閲シ認印スルヲ
八遺失物紛失物及得遺失物届ヲ受理スルヲ
但長大又ハ貴重ノ物件ハ受理スルノ限リニアラス
九廢造變造ノ貨紙幣發見届ヲ受理スルヲ
但シ該届書ヲ受理シタルトキハ一面捜査ニ着手シ一面所屬署長ヘ急報スヘシ
十祭典及諸興行届ヲ受理スルヲ
十一傳染病豫防消毒執行ノヲ
第三十條 前條各項ノ事件ハ相當處分ヲ爲シ其文書ノ欄外右傍中史ニ受理ノ月日ヲ附記シ其下端ヘ認
印ノ上至急ヲ要スルモノハ即時其他ハ便宜所屬署長ニ送付スヘシ
但署長及警部巡查部長巡規ノトキハ其巡視官ニ差出スコトヲ得
第三十一條 受持區内ニ盜難アリタルトキハ直ニ捜査ニ着手シ一周間以内ニ捜査復命書ヲ所屬署長ニ
差出シ向ホ引續キ捜査スヘシ
第三十二條 受持巡査ニ於テ口述ノ届出ヲ受ケタルトキハ其主意ヲ誤ラサル程詳細錄取シ相當處分ヲ
爲スヘシ

訓令第五十三號廿六年三月三十日

警察署分署勤務規定左之補定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但明治二十二年訓令第四十三號外勤巡査勤務規程全二十三年訓令第二百二號警署巡視規程ハ本令施
行ノ日ヨリ廢止ス

警察署 警察分署

警察署分署勤務規程

第一章 署長及警部巡查部長

第一條 警察署長分署長及在勤警部ハ勤務時間ニ係ハラス常時其職務ニ服スルモノトス
第二條 警察署長ハ毎月一回以上所轄巡査駐在所及分署ヲ巡視シ毎年一回所轄町村及分署部内ノ町村
ヲ周ク巡視スヘシ
第三條 分署長ハ毎月二回以上所轄巡査駐在所ヲ巡視シ毎年一回所轄町村ヲ周ク巡視スヘシ
但駐在所巡視ハ二ヶ月間ニ一回ハ夜間タルヘシ
第四條 在勤警部巡查部長ハ毎月一回以上所轄町村及巡査駐在所ヲ巡視スヘシ
但二ヶ月間ニ一回ハ夜間タルヘシ
第五條 署長及在勤警部巡查部長ハ毎日一回以上所在地ノ準市街地ヲ巡視スヘシ
但警部巡查部長宿直ノ節ハ特ニ一回以上夜間ニ巡視ス可シ
所在地受持町村(前項準市街地ヲ除ク)ハ巡査駐在所巡視ノ程度ニ依ル
第六條 所轄町村ノ周到巡視ハ一時ニ爲スヲ要セス巡査駐在所巡視ノ際數次ニ之ヲ爲スコトヲ得
第七條 部内廣潤又ハ山間僻地ニシテ第二條第三條第四條ノ規定ヲ履行シ難キ警察署分署ニ在リテハ
毎月巡回ノ回数ニ限リ特ニ警部長ノ許可ヲ得其回数ヲ減スルコトヲ得
第八條 署長所轄内周到巡視ヲ爲シタル都度其概況(分署長ハ所屬署長)警部長ヲ經テ知事ニ復命スヘシ
第九條 監督巡視ノ際ハ各駐在所日誌注意項目簿戸口調査簿其他ノ書類及町村配置ノ警選表ヲ精査ス
可シ但日誌並ニ警選表ニハ捺印ス可シ
警選表ハ各受持區警選線路中適宜ノ場所ヲ撰定配置スヘシ
第十條 警察署分署ニ監督日誌ヲ備ヘ巡視中ニ係ル一切ノ事項ヲ記載シ署長ノ査閱ニ供ス可シ
第十一條 署長ノ外警部二名在勤ノ署ニ在リテハ其在勤警部巡查部長ハ輪番ニ宿直ス可シ

署長ノ外一在右勤ノ署ニ在テハ其警部巡查部長内勤巡查ノ内宜名宛輪番ニ宿直スヘシ
署長ノ外警部ヲ置カサル署ニ在リテハ巡查部長内勤巡查豫備巡查ノ内宜名宛輪番ニ宿直スヘシ
第十二條 署長ハ臨時必要ト認ムル場合ハ一週間以内ニ於テ第二十二條第二十四條ノ勤務割ヲ變更指
定シ之ヲ部内ノ全員又ハ幾部ニ施行スルコトヲ得

第十三條 請願配置巡查ノ勤務法ハ警察署長分署長ニ於テ之ヲ規定シ警部長ノ認可ヲ受クヘシ
第十四條 警察署分署ニ於テハ別紙様式ノ監督巡視表ヲ調製シ翌月五日迄ニ警部長ニ進呈スヘシ
第十五條 警察署分署ニ於テハ第三十三條ノ注意項目原簿ヲ備ヘ同條ノ事項ヲ登載シ異動アリタルト
キハ直ニ更正スヘシ

但臺帳アルモノハ其項目ヲ掲ケ員數ノミヲ登載シ置クモ妨ケナシ

第二章 巡查

第十六條 巡查ノ勤務ヲ別テ内勤外勤豫備トス

但配置巡查ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 内勤巡查ハ署長ノ指揮ヲ承ケ文書計算ノ事務ニ従事スヘシ
第十八條 豫備巡查ハ署長ノ指揮ヲ承ケ左ノ勤務ニ従事スヘシ

一 受持區巡查休暇疾病其他ノ事故ニ依リ缺勤ノ節補助スルコト

二 署内諸般ノ雜務ニ従事スルコト

三 公庭取締囚人搬送及國庫金銀衛留置人看守ノコト

四 令狀執行犯人搜查ノコト

五 警察署分署ニ宿直スルコト

六 受持巡查ニ令達ヲ傳送スルコト

其他署長ノ特ニ命令シタル事務

第十九條 極要ノ地ニアル警察署分署ニ於テハ警部長ノ許可ヲ得テ豫備巡查ヲシテ特ニ犯罪捜査ノ事
務ニ従事セシムルコトヲ得

第二十條 外勤巡查ハ内勤事務ニ従事セシムルコトヲ得スト雖モ内勤巡查ハ外勤事務ヲ兼勤セシムル
コトヲ得

第二十一條 所在地受持巡查ハ隔日勤務トス

第二十二條 所在地受持巡查ハ左ニ定ムル方法ニ依ヒ一晝夜十四時間以上ノ勤務ニ服セシム可シ

甲午前八時ヨリ同十時迄警邏 乙全九時ヨリ全十一時迄警邏

甲全十一時ヨリ午後一時迄警邏 乙午後一時ヨリ全三時迄警邏

甲全二時ヨリ全四時迄警邏 乙全四時ヨリ全六時迄警邏

甲全六時ヨリ全八時迄警邏 乙全七時ヨリ全九時迄警邏

甲全九時ヨリ全十一時迄警邏 乙全十一時ヨリ午前一時迄警邏

甲午前一時ヨリ全三時迄警邏 乙全三時ヨリ全五時迄警邏

甲全五時ヨリ全七時迄警邏 乙全六時ヨリ全八時迄警邏

第二十三條 隔日勤務ノ巡查ハ非番ノ日ニ於テ受持區内ノ戸口調査及營業査察等ヲ執行ヲ爲スヘシ
但勤務當日ノ日ト雖モ署長ノ許可ヲ得タルトキハ休憩時間又ハ警邏中ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 駐在所巡查ハ左ニ定ムル方法ニ從ヒ其勤務ニ服スヘシ

第一日 晝間十時間以上警邏及戸口調査 第二日 全上

第三日 夜間十時間以上警邏 第四日 非番

警邏時間ノ起點一、二、十一、十二月ニ在テハ晝間八午前八時ヨリ夜間八午後六時ヨリ三、四、九、十

月ニ在テハ晝間ハ午前七時ヨリ夜間ハ午後七時ヨリ五、六、七、八月ニ在テハ晝間ハ午前六時ヨリ夜間ハ午後八時ヨリトス

第二十五條 受持巡查ハ非番ノ日ト雖モ事故アルトキハ直ニ其勤務ニ服スヘシ

但其事由ヲ日誌ニ詳記スヘシ

第二十六條 受持巡查欠員又ハ病氣其他ノ事故ニ依リ欠勤(駐在巡查ハ四日以上ニ亘リタルトキ)アルトキハ豫備巡查ヲ以テ補助セシムヘシ

第二十七條 前條豫備巡查ニ差支アルトキハ組合受持巡查ヲ以テ補助セシムヘシ

第二十八條 警邏ノ際ハ其線路配置ノ警邏表ニ認印スヘシ

第二十九條 各巡查ハ前各條ニ規定シタル處ニ依リ其勤務ニ服スヘシト雖モ臨時事故アル場合ハ上官ノ指揮スル處ニ從ヒ服務スヘシ

第三章 警邏戸口調査注意事項

第三十條 警邏巡察ハ安寧ヲ保チ非違ヲ警ムルヲ以テ目的トスルモノナレハ左ノ事項ハ特ニ注意スヘシ

一 法律規則實施上ノ狀況

二 一定ノ職業ナク各所ヲ徘徊金錢ヲ強請スルモノ及浮浪者乞丐者

三 瘋癲人及醉狂人

四 路上急病人及醉倒人

五 棄兒迷子

六 人氣ノ群集雜沓

七 狂犬猛獸及逸走ノ畜類

八 車馬船舶ノ交通及其破損

九 路傍ノ便所

十 崩壞ノ虞アル建造物

十一 防圍ナキ井竈

十二 道路ノ凹凸及塵埃

十三 橋梁ノ危險

十四 指道器其他公衆ノ用ニ供スル漂識又ハ街燈ノ損否

十五 溝渠ノ毀損不潔及停滯

十六 往來禁止ノ標識

十七 墮落轉倒ノ虞アル物件

十八 市街ノ裝置ヲ害スル物件

十九 浮説流言

二十 巫覡人ヲ惑ス者

二十一 危險若クハ風俗ヲ害スヘキ遊戯

二十二 道路妨害ノ物件

二十三 風俗ヲ害スル貼札藥書

二十四 諸犯則者

二十五 夜間門戸ノ不締

二十六 夜間運搬物品及携帶品

二十七 通行人ノ舉動

二十八 風俗ヲ害スヘキ圖畫ノ販賣

二十九 飲料水ノ良否

三十 警察取締ニ關スル營業者

三十一 地主作人ノ折合

第三十一條 前條ノ事項其他凡テ執行シタル事件ハ之日誌ニ記載シ其重要ナルモノハ實況ヲ所屬署長ニ申報スヘシ

第三十二條 戸口調査ハ受持區内住民ノ性行生活ノ摸樣及其爲人等ヲ知悉シ警察上緩急變通ノ位ヲ圖ルニ依リ依テ左ノ事項ハ特ニ注意ス可シ

但調査ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

一 戸口ノ増減

二 職業ノ動情

三 生活ノ難易

四 家族ノ和合スルヤ否

五 鰥寡孤獨及廢疾者

六 孝子貞婦及義僕

七 無賴無産ノ徒ノ集合スル場所及全上ノ徒ヲ全居セシムル家

八 傾ニ貧困ニ陥リ又ハ暴富ニ至リタル者

九 頓死又ハ負傷者其他家内ニ異狀アルトキ

十 傳染病者ノ有無及種痘未済ノ者

十一 他ヨリ轉住シタル者

十二 出產婚姻及死亡

十三 脱稅者ノ有無

十四 徵兵適齡者

十五 不就學兒童

十六 各自信仰スル宗旨及教法熱心者

十七 密賣淫ノ嫌疑アル者

十八 被監視人ノ行狀

十九 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二十 仮出獄者

二十一 報酬ヲ受ケ他人ノ子ヲ養育スル者

第三十三條 受持區内ニ於ケル警察上關係ノ事項ハ細大トナク注意記憶シ應答ニ差支ヘサルヲ要ス殊ニ左ニ例記スル事項ハ注意項目簿ヲ備ヘ登載シ置ク可シ

但登載事項中異動アリタルトキハ直ニ更正シ所屬署長ニ報告ス可シ

一區内ノ戸數入口

二區内ノ廣袤

三地方裁判所區裁判所ノ位置及檢事止檢事豫審判事ノ住所氏名

四執達吏公證人代官人ノ住所氏名

五郡役所町村役場ノ位置及郡長町村吏員ノ住所氏名

六町村區長並ニ世話人衛生組合委員ノ住所氏名 七帝國議院縣郡町村會議員ノ住所氏名

八陸軍大隊區司令部監視區所ノ位置及該官吏ノ住所氏名

九小林區署派出所ノ位置及該官吏守人ノ住所氏名官林御料地ノ名稱及其數

十國土保安ノ爲樹木ノ斫伐土石ノ採掘ヲ禁止セラレタル場所

十一消防組ノ名稱人員及役員ノ氏名

十一歸休兵及豫備機備ノ軍籍ニ在ルモノ、住所氏名

十三學校病院郵便電信局銀行諸社教會所寺院諸製造所鑛山ノ種類位置及其所長若クハ持主等ノ氏名

十四醫師獸醫產婆接骨師藥舖藥種商藥劑師製藥者賣藥營業者ノ住所氏名

十五時計師金銀細工鑄掛職寫真師畫工表具師印刷師製肉師ノ住所氏名

十六旅人宿牛馬宿料理屋飲食店貸坐敷營業者及藝娼妓(藝名トモ)ノ住所氏名

十七古物商質屋質使ノ住所氏名

十八孝子貞婦義僕其他篤行者ノ住所氏名

十九被監視人仮出獄者ノ住所氏名

二十強窃盜詐欺取財放火人殺賭博密賣淫等ノ罪ヲ犯セシ者ノ住所氏名

二十一瘋癲白痴者ノ住所氏名但瘋癲者ハ鎖鑰セシモノトテ鎖鑰セサルモノトテ明記シ置クヘシ

二十二赤貧者及公ケノ救助ヲ受クル者ノ住所氏名

二十三軍統獵銃所有者及職遊獵者ノ住所氏名

二十四獵銃及煙火製造人並ニ火藥免許商人ノ住所氏名火藥庫貯藏所ノ位置

二十五墓地火葬場ノ位置及管理者ノ住所氏名

二十六獸類化製場屠獸場牛乳搾場並ニ販賣所酪牛馬厩及所ノ位置及所主ノ住所氏名

二十七劇場寄席遊藝場及湯屋温泉場等ノ位置及持主ノ氏名

二十八新開雜紙雜覽所ノ位置持主ノ住所氏名及其新聞雜誌ノ種類

二十九馬車人力車ノ員數及營業者ノ住所氏名 三十種牡牛馬持主ノ住所氏名

三十一渡船場及渡船持主ノ住所氏名 三十二神社佛閣ノ例祭及開市場ノ定日

三十三名所古跡山河池港灣ノ名稱 三十四所屬警察署又ハ分署若クハ隣區駐在所ヘノ距離

三十五受持區警邏各線路ノ里程並ニ全區内一周里程 三十六隣縣ニ通スル國縣道ノ里程

第三十四條 受持區巡查ハ警察事務執行ノ便ヲ圖ル爲メ別ニ定ムル様式ニ依リ受持區内ノ全圖ヲ製シ

注意項目簿ノ末尾ニ添付シ置ク可シ

訓令第六十九號(廿七年十二月廿二日)

警察署

警察分署

警察署分署勤務規程附則左ノ通相定ム

警察署勤務ノ巡查ハ此附則ニ準據スヘシ

但明治十六年(十一月)丁卯十八號同十七年(十二月)丁第七十五號同十八年(三月)丁第九號同年(八月)丁第四十三號同二十二年(十二月)訓令第二百九十號及訓令第二百九十三號同二十四年(二月)訓令第三十八號ハ廢止ス

警察署分署勤務規程附則

第一章 通則

第一條 此附則ニ掲クル願届書ハ警部ハ知事ニ巡查ハ所屬署長ニ差出スヘシ

但特ニ明文アルモノハ此限リニアラス
第二條 赴任出張附省其他私事旅行中正當事故ノ爲メ日限ヲ經過スル時ハ相當ノ證明(病氣ハ醫師
ノ診斷書ヲ)添
ヘ其旨届出ヘシ

第三條 赴任旅行ノ里程ハ一日十二里計トシ歸省其他私事旅行ノ里程ハ一日十里計トス
但一里ニ滿タサル端數ハ除棄ス

離路等ニシテ實際旅行ニ困難ナルトキハ所屬署長ノ承認ヲ得テ一日八里迄ニ減少スルコトヲ得
第四條 前條ノ如ク規程スト雖モ汽船汽車其他交通ノ便アル地ニ於テハ實際要スル所ノ日數ニ依リ計
算ス

第二章 赴任心得

第五條 新任警部巡查ニシテ署勤務ヲ命セラレタル時ハ左ノ日限内ニ出發赴任スヘシ

一 警部ハ辭令ヲ受ケタル日ヨリ五日以内 二 巡查ハ辭令ヲ受ケタル日ヨリ三日以内

第六條 轉署(駐任)ヲ命セラレタル時ハ左ノ日限内ニ出發赴任スヘシ

一 警部ハ辭令ヲ受ケタル日ヨリ七日以内

但署長ニシテ后任者へ直接事務引繼ヲ要スル爲メ本項ノ日限内ニ出發赴任シ難キ時ハ其結了ノ日
ヨリ三日以内

二 巡查ハ辭令ヲ受ケタル日ヨリ四日以内

但休暇中ニ係ル時亦同シ

第七條 前二條ノ如ク規程スト雖モ廳下ニ在テ警察部又ハ官崎警察署勤務ヲ命セラレタル者若クハ警
察部官崎警察署間ノ轉勤ヲ命セラレタル者ハ即日赴任スヘシ

第八條 事務引繼其他公用及病氣等ニテ日限内ニ出發シ難キ時ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 警部又ハ新任巡查ハ其事由ヲ警部長ニ届出テ認可ヲ受クヘシ
二 署勤務ノ巡查ハ元在勤務長ニ其事由ヲ届出テ認可ヲ受クヘシ
三 前項ノ認可ヲ與ヘタル署長ハ其旨警部長ニ報告スヘシ
第九條 赴任届ハ第一號到着届ハ第二號書式ニ依リ警部ハ知事へ巡查ハ警部長(駐在所勤務ハ)所屬
部署長ヲ經テ差出スヘシ

第三章 欠勤心得

第十條 警部巡查病氣ノ爲メ欠勤スル時ハ直ニ其旨届出ヘシ

但警部ハ欠勤一週日巡查ハ欠勤二日ニ及フ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出テ爾后一週日毎ニ同様届
出ヘシ

第十一條 病氣欠勤中ハ許可ナクシテ猥リニ外出スルヲ得ス

但醫師ノ診斷ニ依リ外出運動ヲ要スル時ハ該診斷書ヲ添ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十二條 病氣欠勤ノ者出勤スル時ハ直ニ其旨届出ヘシ

第十三條 職務ノ爲メ負傷シ又ハ傳染病ニ罹リ欠勤スル時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ヘシ全癒シタル
時亦同シ

第十四條 父母ノ看護ヲ要スル時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出テ許可ヲ受クヘシ

第十五條 看護ノ爲メ歸省又ハ自己ノ病氣ニ因リ轉地療養ノ爲メ旅行セントスル時ハ往復日數ヲ除キ
警部ハ三十日巡查ハ二十日以内ノ日數ヲ豫定シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出テ許可ヲ受クヘシ

若シ旅行中延期ヲ要スル時ハ警部ハ三十日巡查ハ二十日以内ノ日數ヲ豫定シ其日限内ニ相當證明書
(病氣ハ醫師)ヲ添ヘ届出テ許可ヲ受クヘシ

第十六條 父母看護ノ爲メ歸省ヲ要スル場合ニ際シ即時診斷書ヲ得難キ時ハ親族ノ書信又ハ電報ヲ添

へ一面ハ願出テ許可ヲ受ケ一面ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ差出スヘシ
第十七條 前二條ノ場合ニ於テハ出發ハ前日歸省ハ翌日其官届出ツヘシ
但歸省轉地ノ場所發着ノ時亦同シ

第十八條 父母祭日ニテリ休暇セントスル時ハ其前日届出ヘシ

第十九條 親族ノ喪ニテリ忌引セントスル時ハ即時ニ親族ノ稱呼氏名及忌日數ヲ記シ届出ヘシ
但警部ニシテ父母忌中又ハ年回墓參ノ爲メ旅行セントスル時ハ其旨届出テ許可ヲ受クヘシ

第三章 巡查休暇心得

第二十條 巡查ニシテ滿一ケ年皆勤セシ者ニハ三週間半ケ年皆勤セシ者ニハ一週間ノ慰勞休暇ヲ與フ
ルコトヲ得

前項ノ外五箇年以上皆勤ノ者ニハ一週間十箇年以上皆勤ノ者ニハ三週間特ニ休暇ヲ要スルコトヲ得
第二十一條 前條ノ皆勤ヲ爲シタル者ハ第三號書式ニ依リ皆勤證書ヲ請求スヘシ但半ケ年皆勤シ已ニ
休暇ヲ受ケタル者ハ爾后半ケ年皆勤スルモ一週間ノ休暇ノ外之ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十二條 皆勤證書ノ請求アリタル時ハ第四號書式ニ依リ證書ヲ附與スヘシ

第二十三條 休暇日數ハ拜命(巡查教習所受業生タリシ)ノ日若クハ病氣其他ノ事故ニシテ欠勤シタル
時ハ更ニ勤務ニ就キタル日ヨリ起算スヘシ

第二十四條 休暇ハ數次ニ區分シテ受ケルコトヲ得

第二十五條 休暇ノ有効期限ハ休暇成立ノ翌日ヨリ滿一ケ年トス

第二十六條 左ノ各項ハ欠勤ニ算入セス

- 一 職務ノ爲メ負傷又ハ傳染病ニ罹リ療養中ノ日數 二 父母祭日
- 三 賜休暇日數 四 非番

五 毎日勤務ノ者ニシテ五時間以上服務シ欠勤シタルトキ

六 隔日勤務ノ者ニシテ九時間以上實際勤務ニ服シ欠勤シタルトキ

七 繼續勤務ノ者ニシテ七時間以上實際勤務ニ服シ欠勤シタルトキ

八 宿直勤務ノ者ニシテ十時間以上其勤務ニ服シ欠勤シタルトキ

第二十七條 左ノ各項ハ皆勤及欠勤日數ニ算入セス
一 陸軍軍召集條例ニ依リ召集ニ應ジタル日數 二 忌引日數

第二十八條 休暇ヲ得ントスル者ハ皆勤證書ヲ以テ願出テ受クヘシ

第二十九條 前條ノ休暇ヲ願出スト雖モ公務ノ都合ニ依リ其日數ヲ端縮若クハ一時許可セサルコトヲ
ルヘシ

既ニ休暇ヲ得タル場合ト雖モ公務ノ都合ニ依リ全部之ヲ取消シ又ハ一時之ヲ停止スルコトヲ得

第三十條 休暇中轉署ヲ命セラレタル時ハ更ニ願出テ許可ヲ受ケルコトヲ得ス

第三十一條 休暇中一泊以上ノ旅行ヲ爲サントスル時ハ其旨届出ヘシ

但管外ニ係リ三日以上ニ渉ルモノハ願出テ許可ヲ受クヘシ

第四章 出張巡回及外出

第三十二條 警部ニシテ所轄外ニ出張スル時ハ其都度發着共届出ヘシ

所轄内ニ於ケル出張巡視ニシテ四日以上ニ渉ル時ハ署長ニ限リ其日數ヲ豫定シテ届出ヘシ

第三十三條 警部巡查公務ノ爲メ上廳シタル時ハ發着並宿所共其都度届出(巡查ハ直接)ヘシ

第三十四條 巡查ニシテ非番當日三里以上ノ地ニ旅行セントスル時ハ其旨届出テ承認ヲ受クヘシ

但旅行地ニ宿泊スルヲ得ス

第五章 雜則

第三十五條 駐在巡查宿所ヲ定メントスル時ハ豫メ届出テ檢定ヲ受クヘシ
第三十六條 警部巡查住所ノ門戶(可成公衆ノ目ニ觸ル、場所)ニハ第五號雜形ノ標札ヲ掲クヘシ

訓令第六號(廿九年一月十九日)

警察署警察分署書類編纂保存規程左ノ通定ト但明治二十三年(十一月)訓令第二百九十號ハ廢止ス

警察署 警察分署

第一條 書類ヲ大別シテ例規通常ノ二種トス

例規書類トハ警察ニ關スル法律勅令閣省縣令訓令告示警訓及伺指令等ニシテ成規定例トナル可キモノナク云フ但其處分ノ終了一箇年以内ニ止ルモノハ此限ニアラス

通常書類トハ前項以外ノモノナク云フ

第二條 例規書類ハ第一號表ニ依リ項ヲ以テ編纂シ目ヲ以テ第二號雜形ノ索引ヲ附ス可シ但署限例規

ハ項目ヲ別タス編纂シ第二號雜形ニ準ジ目錄ヲ附スヘシ

第三條 一合達ニシテ第一號表ニ依リ分離シ難キモノハ廢寫ノ上編纂シ其廢寫ニ手數ヲ要スルモノハ索引ノモニ記載シ符號欄内ニハ存所ノモヲ記入シ置クモ妨ケナシ

第四條 通常書類ハ第一號表ニ依リ目ヲ以テ編纂ス可シ但第六號表第五目ノ書類ニハ第八號雜形ノ目錄ヲ附シ相當記入ス可シ

第五條 書類ハ總テ第三號雜形ノ表紙ヲ附ス可シ

第六條 例規書類ハ警察報ヨリ採集シ警察報ニ登載セサルモノハ左ノ各項ニ依ル可シ

一筆記若クハ印刷ニ係ルモノハ直ニ之ヲ編纂スルモノトス

二雲天版等ニ係ルモノハ廢寫若クハ廢寫ノ上之ヲ編纂スルモノトス

三署限例規ニシテ其書ニ保存スルモノハ原議ヲ以テ駐在所ニ發遣スルモノハ例規印ヲ捺スルモノトス

第七條 筆記證ニ係ル例規ニシテ警察報ニ登載スルモノハ其到達マテ便宜保管ノ上令達原簿ニ編纂ス可シ

第八條 例規書類ノ改廢ハ左ノ各項ニ依リ整理ス可シ
一全部ノ改廢廢止若クハ自然消滅ニ係ルモノハ索引ニ其事由ヲ記入シ朱線ヲ施シタル上之ヲ棄却スルモノトス但參考ノ爲メ保存ノ必要アルモノハ前段ノ手續ヲ爲シテ便宜保存スルコトヲ得

二一部ノ改正ニ係ルモノハ其部分ニ挿入削除ヲ施シ
明治 年 月 改正(追加) 日 印ヲ捺シ置クモノトス
第三號(削除)

第九條 改正又ハ廢止ヲ布令シタル達文ニハ記入濟 印ヲ捺シ置クモノトス
第十條 書類重積シテ取扱不便ニ至ルトキハ次卷ヲ設ク可シ此場合ニ於テハ每卷ノ表紙ニ參着(第一卷ニ係ル卷參着第二卷ニハ)ヲ朱記スルモノトス

第十一條 書類ノ保存期限ハ第四號表ニ依ルヘシ但保存ノ必要ナキモノハ保存期限内ト雖モ之ヲ棄却シ又保存滿期ノモノト雖モ保存ノ必要アルモノハ尚之ヲ保存スルコトヲ得
明治 年 月 日 棄却 明治年月日棄却印ヲ捺シ署長之ニ捺印ス可シ

第十二條 保存ノ必要アル書類ニシテ雲天版等ノ印刷ニ係リ漸次煙滅ノ虞アルモノハ復寫シ置ク可シ但第七條ノ場合ニ於テハ達文ノミヲ復寫シ置クモノトス

第十三條 書類ハ第五號雜形ニ依リ目錄簿ヲ作り書類調製毎ニ記載シ書類ヲ棄却スルトキハ署長之ニ捺印ス可シ

第十四條 書類保存期限ハ翌年一月(會計書類)ヨリ起算スルモノトス

第十五條 通常書類ハ歷年毎ニ設ク可シ但會計書類ハ會計年度ニ依ルモノトス
 第十六條 書類ハ總テ順序ヲ定メ符牌ヲ附シ一定ノ場所ニ格段シ置ク可シ
 第十七條 書目ハ變更増減スルコトヲ得ス
 第十八條 機密書類ノ編纂ハ保存方法ハ警部ニ於テ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

第十九條 此規程中例規ニ係ル條項ハ巡查駐在所ニモ之ヲ適用ス但第十六條及第十八條ハ此限ニアラズ
 第二十條 巡查駐在所ニ於テ書類ヲ棄却スルトキハ監督官巡視ノ際捺印ヲ受ケシム可シ
 第二十一條 巡查駐在所ノ通常書目及保存期限ハ第六號表ニ依ラシム可シ
 第二十二條 巡查駐在所ノ通常書類ニハ第七號雛形ノ表紙ヲ附セシム可シ

丁第八號(十六年九月廿四日)

警察署長及分署長交代ノ際事務引繼手續別紙之通相定候條此旨相達候事

警察本署 警察署 同分署

警察署長及分署長事務引繼手續

第一條 警察署長及分署長交代ノ際ハ該署ニ屬スル事務並ニ諸帳簿諸物件金員等左ノ書式ニ準シ總テ目錄ヲ作り後任ヘ引渡互ニ交渡ノ證ヲ交換スヘシ
 第二條 受渡濟ノ上ハ双方運署ヲ以テ其旨届出ヘシ
 但分署ハ所屬警察署ヲ經由スヘシ
 第三條 所轄分合及廢署ノ際モ前條ニ準スヘシ

事務引繼書式

諸帳簿目錄	何冊
一 布告 明治何年何月ヨリ 何年何月ニ至ル	何冊
一 諸省達 全	何冊
以下倣之 但書籍目錄モ本項ノ通リ 得遺失並ニ遺留物品目錄	
第何號 是レハ臺帳記載ノ番號ヲ云フ	何個
一 得遺失物	何個
一 遺留物	何個
以下倣之	
一 拘留 犯罪取調中件數目錄	何人
丙	
何ノ犯罪見込住所石掛リ官氏名 以下倣之	
一 召換中ノ者	何人
文例前ニ同シ	
一 違警取調中ノ者	何人
文例前ニ同シ	
備付品目錄	

一 椅子	何	個
一 何々	何	個
以下倣之		
消耗品在高目録		
一 何々	何	帖
一 紙類	何	帖
以下倣之		
被服並ニ屬具在高目録		
一 外套	何	程
一 冬服	何	程
一 可服	何	程
以下倣之		
金員出納明細目録		
一金何圓	警	部
是レニ掛ル書類	警	部
一日計簿	何	冊
一 何々簿	何	冊
一 證書綴	何	冊
一金何圓	警	察
	費	

是レニ掛ル書類		
一日計簿	何	冊
一 何々簿	何	冊
一金何圓	何	冊
是レニ掛ル書類		
一 何簿	何	冊
一 何々	何	冊
一金何圓	何	冊
是レニ掛ル書類		
一 何帳	何	冊
一 何々	何	冊
一金何圓	何	冊
是レニ掛ル書類		
一 何帳	何	冊
淫賣罰金及不用品賣却代等ノ金アルトハ前雜形ノ振合ニヨルヘシ		
右之通及御引繼候也		
年 月 日	元	何
何署長又ハ分署長	何	署
官氏名宛	官	民
	氏	名

受取書式

記

何警察署又ハニ屬スル諸帳簿物件等御引渡相成正ニ受取候也

何署長又ハ分署長

官氏名印

年月日

元何署長又ハ分署長

官氏名宛

演説書

今般事務引継ノ條件左ニ及演説候

一何々事件ハ何々致シ又ハ其儘及引渡候事

一何々ハ臺帳計載ノ前ヲ以テ現品及引渡候事

一何々ハ何々以下倣之尤モ人情ノ如何地政ノ難幼等詳細記載アルヲ要ス

元何署長又ハ分署長

年月日

何署長又ハ分署長

官氏名宛

官氏名印

丁第六十七號(十七年十一月廿八日)

警察本署

警察本署各部長交代之際事務引継手續ハ明治十六年九月丁第八號達ニ準シ取扱フヘシ此旨相達候事

丁第八十二號(十七年十二月十九日)

警察本署

其署非常ニ張心得別此ノ通相定候條此旨相達候事

非常出張心得

第一條 警察本署詰警部以下出火其他非常ノ際ニハ速ニ警察本署へ出頭シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

但近坊ニシテ事候緊急ノ場合又ハ近火ニ係ルルハ直ニ該場へ出張シ本條ノ手續ヲナスヘシ

第二條 出張ノ警部警部補制服帶剣ハ勿論夜間ハ制規(第一節詰警部警部補畫用)ノ提燈ヲ携帶スヘシ

但同用係靴等夜間ハ制規ノ提燈ヲ携帶スヘシ

第三條 警部長出張ノ時ハ晝間ハ大旗以間ハ高張提燈ヲ目標トナスヘシ

第四條 第一部詰警部警部補ノ内互者乃至二名警部長ニ附從シテ傳令使トナリ其他ハ指揮ニ依リ警防

等ニ從事スヘシ

第五條 警部長ノ指揮ヲニシテ警部以下各自同意ニ出張ノ場所ヲ離レ又ハ退去スルコトヲ得ス

第六條 出張中出火其他非常ノ際ニハ警部長ノ指揮ヲ待ツテ出張スヘシ

乙第四拾九號(十八年四月十四日)

戸長役場

自今警察官ニ於テ倒死變死人等ヲ檢視スルニ際シ該檢視官ヨリ立會ヲ求メタルトキハ速ニ立會候様致

スヘシ此旨相達候事

訓令第九十八號(廿一年十二月廿八日)

警察署 警察分署

行政處分ニ屬スル檢視ノ義萬不悞已場合ニ限リ巡查ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

丁第貳拾八號(十九年四月一日) 警察本署 警察署 警察分署
自今警部警部補ニシテ妻ヲ娶ル者ハ其婦ノ族籍住所職業氏名年齢何ノ誰女又ハ姉妹等ノ譯ヲ詳記シ警
察本署へ届出ヘシ

丁第二十七號(十九年四月一日) 警察本署 警察署 警察分署
自今巡查ニシテ妻ヲ娶ラントスルモノハ婚姻ヲ行フ前其婦タルヘキ者ノ族籍住所職業氏名年齢何ノ誰
女又ハ姉妹等ノ譯ヲ詳記シ媒酌人親戚朋友ノ内兩人ノ連署ヲ以テ結婚ノ日ヨリ十日以前ニ警察署分署
へ届出署長ニ於テ其妻トナルヘキ者ノ身分平素ノ行狀媒酌人ノ如何ヲ篤ト取判シ果シテ不都合無之モ
ト見込ム時ハ認可候様致スヘシ
右相達ス

訓令第三百七號(廿三年十二月十二日) 警察署 警察分署
巡查并ニ其家族ニシテ商業ヲ營マント欲スルモノハ其種類ヲ詳記シ願出ヘシ

丁第四十九號(十九年五月十二日) 警察本署 警察署 警察分署
囚人護送心得別紙ノ通相定ム
右相達ス

囚人護送心得
第一條 凡ソ囚人ノ護送ハ明治十五年太政官第十號達ニ仍ルト雖モ尙左ノ各條ニ從ヒ取扱フヘシ

第二條 囚人ヲ護送スル時ハ發遣ノ署ニ於テ一件書類及ヒ証據物件囚人ノ所持品ヲ封緘シ(所持金ヲ
付スル場合ハ封入トシ破綻ノ) 別ニ沿道警察署及ヒ分署ニ對シタル別紙書式ノ傳遞狀(人相書ヲモ
患ナキ様嚴緘スルモノトス) ナ付シ發遣スヘシ但當内ニ於テ甲署ヨリ乙署限
府縣ヨリ護送シ來ル囚人ニシテ其人相書ナキモノ) ナ付シ發遣スヘシ但當内ニ於テ甲署ヨリ乙署限
最切之ヲ受ケタル警察署分署ニ於テ新ニ調成ス) ナ付シ發遣スヘシ但當内ニ於テ甲署ヨリ乙署限
リ送付スル囚人ハ便宜護送簿ヲ以テスルモ妨ケナシ
第三條 巡查ヲシテ護送セシムル囚人ニハ必ス繩取夫ヲ付スヘシ但逃走ノ憂ナシト認メ捕縛ヲ施サ、
ルモノニ限リ繩取ヲ付セサモ妨ケナシ
第四條 囚人二名以上五名マテハ繩取一名ヲ六名以上十名マテハ尙ホ巡查一名繩取一名ヲ増スヘシ但
模樣ニ因リ護送巡查及ヒ繩取ノ數ハ各署ニ於テ便宜増減スルコトヲ得
第五條 傳送護送ニ付スヘキ囚人ノ行狀(逃走ニ巧ナルカ又ハ狂暴ナルカ等)ヲ當初發遣ノ署ニ於テ篤
ト取調傳遞狀ニ記載シテ不虞ノ害ヲ豫防スヘシ且ツ途中異狀ノ發動ハ護送巡查ニ於テ傳遞狀ノ紙尾
又ハ別紙ニ詳細記載スヘシ但護送巡查ニ於テ記載シタル事項中裁判上又ハ取調ニ必要アリト思料ス
ル廉アルトハ之ヲ受ケタル署ニ於テ該狀又ハ拔書ヲ當該官へ交付スヘシ
第六條 遞込ノ囚人疾病ニ依リ歩行シ難キ場合ハ最寄醫師ヲシテ診察セシメ車馬ニ乘ラシムルモ妨ケ
ナシ但醫師アラサル地又ハ急行ヲ要スル場合ハ此限リニアラス
第七條 囚人護送途中分署派出所等アラサル地ニ於テ宿泊スル時ハ必ス相當ノ看守者ヲ雇入逃走ノ憂
ナキ様嚴緘ヲナスヘシ
第八條 護送途中囚人ヲシテ他ハハ勿論囚人相互ノ間ト雖モ猥リコ談話セシムルヘカラス
第九條 護送途中沐浴ノ際囚人ト相對シテ喫飯スヘカラス
第十條 囚人ヲシテ飲酒喫煙ハ勿論常食外ノ食物ヲ與ヘカフラス

第十一條 押送送中囚人ニ面接又ハ物品ヲ與ヘント請フ者アリト雖モ一切受理スヘカラス
第十二條 前條諸願者ノ住所氏名縁故ノ如何等聞科レ其答辨及ヒ其際囚人ノ舉動等第六條ニ準シ記載
スヘシ

第十三條 囚人ノ引渡終リタル時ハ其身及ヒ其類物件トモ其受領ノ証ヲ請ヒ受クヘシ

傳 遞 狀 書 式

住所身分職業

氏 名

罪名又ハ刑名

右ハ目錄ノ書類物件ト共ニ何府或ハ何縣或ハ何署或ハ何所迄沿道警察署及ヒ分署遞傳護送相成度候也
但本犯又ハ被告人ハ云々ト第六條ニ依リ注意ヲ要スヘキ事項ヲ記ス

宮崎縣

何警察署又ハ分署印

年月日

何府或ハ何縣或ハ何署或ハ何所迄沿道

警察署警察分署御中

目錄

一何府何々宛封書

一何々

一何々

一何々

右之通有之候也

一何月何日何所ニ於テ被告人誰ハ何々々々

幾 個
何 々

一何々

(護送巡查ニ於テ途中ノ舉動ヲ記載スル例)

訓令第四十號(二十年三月五日)

巡查看守給助例施行順序左ノ通之ヲ定ム

巡查看守給助例施行順序

警察署

警察分署

戸長役場

第一條 本令ニ據リ給助ヲ出願スルモノハ左ノ手續ヲナスヘシ

一年金ヲ受クヘキ者(退職及傷疾者)ハ第一號書式ノ願書ニ所在區戸長ノ與印ヲ受ケ本官廳ヲ經テ本廳へ出願スヘシ

二一時給助金ヲ受ル者(祖父母父母兄弟姉妹并孤)ハ第三號書式ノ願書ニ親族二名(親族ナキ時ハ其ノ連署ヲ以テ其區戸長ノ與印ヲ受ケ本官廳ヲ經テ本廳へ出願スヘシ)

三療治料ヲ請求スル者ハ月末毎ニ其日數ト金額トヲ請求書ニ詳記シ主治醫ノ藥價表ヲ添ヘ本廳署長若クハ監獄ヲ經テ本廳へ差出スヘシ

第二條 本令ニ據リ年金ヲ受クヘキ者ニハ第五號書式ノ証票ヲ附與スヘシ

第三條 年金ハ年兩度(三月九月)ニ於テ半額宛テ下付スルモノトス但受給者ハ金額ノ交付ヲ受クル爲メ第六號書式ニ倣ヒ所在地市町村長ノ證明アル生存證書ヲ每交付月十五日迄ニ本廳へ差出スヘシ

第四條 年金ヲ受クヘキ者本令第八條第九條ノ各項ニ該ルカ又ハ轉籍死亡再縁等戸籍上異動アルトキハ所在地區戸長ノ與印ヲ受ケタル書面ヲ以テ其官廳ヲ經由シ速ニ本廳へ差出スヘシ但本令第八條第一項ニ該ルカ若クハ死亡再縁等ニ係リ給助ヲ受クルノ權利消滅シタルトキハ該屆書ニ年金証票ヲ添ヘ之ヲ返納スヘシ

第五條 職務ノ爲メ負傷シタル者及負傷後若クハ傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ證明ハ公立病院（病院
サル地ハ）ノ診斷書ヲ差出スヘシ但他縣ニ於テ負傷ニ原因シ死亡ニ係ル者或ハ孤兒滿二十歳以上
ニシテ癡篤疾者ノ證明モ本文ニ全シ

丁第三十一號（十九年四月二日）

警察本署 警察署 警察分署

警務要書中左ニ記列ノ條件ハ自今警察上ノ標準ト相定メ施行ス

右相達ス

警務要書

上卷

第一篇 通規

第一章 要領

第二章 行狀及心得

第五章 服裝及帶劍

第一款 服裝

第二款 帶劍

第六章 携帶品

第二篇 通務

第一章 巡邏警察

第二章 戶口調査

下卷

第一篇 安寧警察

第一章 集會

第三章 假造貨紙幣

第四章 嘯聚暴動

第五章 銃砲彈藥附刀劍類

第一款 銃砲

第二款 火藥及爆發物

第三款 刀劍類

第六章 燃質物及發火物

第七章 火技

第八章 變災

第一款 要領

第二款 水災

第三款 火災

第九章 人命急變

第一款 要領

第二款 創傷

第三款 打撲傷及骨折傷

第四款 火傷及電傷

第六款 負傷者運搬法

- 第七款 昏倒
- 第八款 假死
- 第九款 絞縊
- 第十款 溺水
- 第十一款 人工呼吸術
- 第十二款 中毒
- 第十三款 死徵及死體處置
- 第十章 瘋癩
- 第十一章 棄兒迷兒及失踪者
- 第十二章 難船及漂流物
- 第一款 難船
- 第二款 漂流物
- 第十三章 遺失及埋藏物類
- 第一款 遺失物
- 第二款 埋藏物及逸走畜類
- 第三款 盜賊拾遺物
- 第十四章 猛惡獸
- 第十五章 群集喧噪
- 第二篇 宗教警察
- 第一章 教會及講社

- 第二章 說教及禮拜
- 第三篇 衛生警察
- 第一章 檢疫
- 第二章 種痘
- 第三章 飲食物
- 第一款 要領
- 第二款 菓子菓物及蔬菜類
- 第三款 鳥獸魚肉類
- 第四款 酒醬油類
- 第五款 牛乳
- 第六款 冰雪
- 第四章 飲料水
- 第五章 游泳
- 第六章 著色料
- 第七章 醫藥
- 第一款 醫療
- 第二款 藥品
- 第八章 家畜
- 第九章 屠場
- 第十章 墓地及葬場

第十一章	汚穢物
第四篇	風俗警察
第一章	演藝遊藝場及遊藝人
第二章	遊藝場
第三章	遊藝場
第四章	貸坐敷引手茶屋及密賣淫
第一款	貸坐敷引手茶屋
第二款	娼妓
第五章	徵章
第六章	祭典及葬儀
第一款	祭典
第二款	葬儀
第七章	賣卜符咒
第八章	賭博
第九章	富籤
第十章	乞丐及浮浪
第五篇	營業警察
第一章	度量衡
第二章	古物商及質屋
第四章	旅人宿

第五章	湯屋
第六章	印版
第八章	市場
第九章	會社
第六篇	河港警察
第一章	船舶
第二章	水部建設物
第四章	河岸地
第七篇	道路警察
第一章	道路橋梁
第二章	渡船場
第四章	電線
第六章	車馬
第八篇	建築警察
第一章	建物
第二章	製造所
第九篇	田野警察
第一章	田圃原野
第二章	山林
第三章	牧畜

第四章 嶺山
第十篇 漁獵警察
第一章 鳥獸獵
第二章 捕魚及採藻

訓令第二百九十四號(廿二年十二月十九日)
警察官吏召集規則左ノ通り之ヲ定ム

警察署 警察分署

警察官吏召集規則

- 第一條 此規則ハ非常事變其他急速ヲ要スル場合ニ於テ警察官吏ヲ召集スルノ手續ヲ示スモノナリ但
演習ノ爲臨時召集ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 召集ヲ分チテ大召集小召集ノ二種トス大召集ハ警部長ニ於テ管内ノ警察官吏小召集ハ警察署
長又ハ分署長ニ於テ所屬ノ警察官吏ヲ召集スルモノナリ云フ
- 第三條 召集ハ必要ノ人員ヲ度トシ全員又ハ幾部ヲ召集スルモノトス
- 第四條 警察署分署交番所ハ非常ノ場合ト雖モ閉鎖スルヲ得ス
- 第五條 召集票ヲ受ケタルトキハ直ニ正裝晝夜兼行シテ指定ノ場所ニ參集スヘシ
- 第六條 警察署分署ニ於テ大召集票ヲ受ケタルトキハ直ニ便宜ノ場所ニ召集ヲ行ヒ上班ノ者之ヲ引平
シテ指定ノ場所ニ參集スヘシ但路程ノ便ニ依リ直ニ指定ノ場所ニ參集スヘキ旨ヲ召集票ニ附記スル
トヲ得
- 第七條 召集票ハ發給ノ際携帶シテ參集シタル場所ノ上官ニ納ムヘシ但召集票ヲ落手シタル上官ハ其
裏面ニ參集ノ時間ヲ記入スヘシ

- 第八條 召集票ヲ受ケタルモノ疾病其他正當事故ノ爲メ參集スルコト能ハサルトキハ急飛ヲ以テ直
ニ召集票ヲ發シタル上官ヘ届出ツヘシ
- 第九條 召集票ハ豫テ警察本部警察署分署ニ於テ調製シ召集ノ用ニ備フヘシ
- 第十條 召集票ハ召集ヲ要スル場合ニ於テ指定ノ場所ヲ記入シ便宜ノ方法ヲ以テ迅速送達シ且ツ受取
書ニハ送達シタル日時ノ記入ヲ要ス但電信アル地ニ於テハ電報ヲ以テ召集スルコトヲ得
- 第十一條 召集票ハ左ノ雛形ニ據ルヘシ但警備所在地ノ警察官吏ニ發スル召集票ハ木札ニ換用スルコ
トヲ得

召集票雛形 縦五寸 用紙厚紙

面表寸二巾

何 召集 名又ハ總員ヲ召 集ス	何 官署又ハ何地 ハ警部巡查同十 官署名 印
--------------------------	------------------------------------

警部長ヨリ各署ニ警察署長ヨリ分署
ニ向テ發スル記載例トス

面裏

何警察署 (何分署)

警部長ヨリ各署ニ警察署長ヨリ分署
ニ向テ發スル署名ノ記載例トス

面表

何 召集 地ハ召集ス	何 官署又ハ何 官署名 印
------------------	------------------------

警部長署長ヨリ所屬官吏各自ニ向テ
發スル記載例トス

裏面寸法用紙同上

大召集ノトキハ警察署分署ニ於テモ
表面ニ大召集ト書スヘシ

裏
何年何月何日 前何時後
何年何月何日 后何時着

面
住所官氏名 (駐在所巡查ニハ單
ニ駐在所名ヲ記ス)

參着時間ハ第七條但書ニ依リ
記入スヘキ記載例トス

第十二條 警察署分署ニ於テ演習ノ爲メ召集ヲ爲シタルトキハ必ス點檢訓授等ヲ行ヒ空シク歸任セシ
メサル様注意スヘシ

第十三條 警察署分署ニ於テ召集ヲ行フトキハ召集簿ヲ製シ左ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

一 召集ノ願末
二 參着者ノ日時

但先着者ヨリ順次記載スヘキモノトス
三 不參又ハ遲參ノ事由

四 前項記載外ノ要件

第十四條 警察署分署ニ於テ召集ヲ行フタルトキハ第十三條ノ召集簿廢本ヲ添テ警部長ニ申報スヘシ

訓令第百十九號(廿三年四月十四日)
巡查訓授規程左ノ通之ヲ定ム

警察署 警察分署

第一章 要領

第一條 警察署分署長(署長差支アルトキハ監督)ハ每期點檢ノ後必ス訓授ヲ行フヘシ

第二條 訓授ハ専ラ各巡查ヲシテ實務ニ關セシメ處分ノ中正ヲ期スルニ在ルヲ以テ訓授ノ事項ハ警察
上必要ナル法律規則其他ノ命令訓示例規及職務執行上ニ關シ適切ノモノナルヲ要ス

第三條 每期訓授スヘキ事項ハ各署長ニ於テ適宜選定スヘシト雖モ臨時必要ノ場合ニ在リテハ警部長
ニ於テ指定スルコトアルヘシ

第四條 署長ハ毎月別紙雛形ノ訓授表並應問表ヲ作リ翌月五日迄ニ警察本部ニ送致スヘシ

第二章 訓授ノ方法
第五條 訓授ハ書物ヲ用フルコトナク而シテ其法律規則ノ如キハ主要ヲ適シ理論ヲ去リカメテ平易簡
明ニ口授スヘシ

第六條 訓授ノ時間ハ點檢後凡ソ三十分トス

第七條 毎朝訓授ノ始若クハ其後ニ於テ前日當番ノ者ノ申告ヲ聞キ其處分ノ當否ヲ正スヘシ

第八條 每週一回前日訓授シタル事項ヲ試問シ其優劣ヲ判シ點數ヲ採ルヘシ但試問點數ハ十ヲ以テ最
高トス

第九條 町村駐在所巡查ハ毎朝訓授ヲ行ヒ難キニ付在署巡查ニ訓授セシ事項ヲハ一ヶ月内數次ニ通知
列ヘハ何日ヨリ何日迄何々條例全部何々規則第何條迄訓授ト通知スル(ノ類而テ事務處分上ノ訓授ニ關スルモノハ其要領ヲ別ニ通達スヘシ)ニ毎月召集ノ際尙ホ其通知
セシ事項ノ要點ヲ訓授シ同時ニ試問ヲ爲スヘシ

第十條 前條訓授及試問ハ必ス二時間以上之ヲ爲スヘシ

第三章 受訓者心得

第十一條 監督(監督差支アルトキハ首席巡查)ハ毎朝點檢後直ニ巡查ヲ率ヒ訓授場ニ到リ署長ノ來場
ヲ待ツヘシ

第十二條 署長來由又ハ退場ノトキハ齊シク立禮スヘシ
第十三條 受訓中ハ着席シ應問又ハ申告ノトキハ直立シテ劔ノ柄頭ヲ握リ右手ヲ垂下シ終始姿勢ノ肅正ヲ保チ言語明瞭ニ陳述スヘシ
第十四條 点檢後直ニ其場ニ於テ訓授ヲ受ルトキハ總テ訓授者ノ指揮ニ從ヒ第十一條以下ノ規定ニ依ルヲ要セス

警察署 警察分署

訓令第二百十號(廿三年四月十四日)
巡查講習規則左ノ通之ヲ定ム

但明治十九年(七月)丁第六十一號逕巡查訓練規則ハ廢止ス

巡查講習規則

第一條 本則ハ巡查ヲシテ職務上必要ナル各般ノ科目ヲ講習セシムル爲ニ設クルモノトス
第二條 講習ハ毎月二回以上四回以下各警察署分署ニ於テ開會スヘシ
第三條 講習開會ノ度數ハ前條ノ範圍ニ依リ各署ニ於テ豫メ之ヲ定メ署部長ニ届出ツヘシ
第四條 町村駐在巡查ニシテ毎回出會シ難キ者ニハ各署長ニ於テ便宜自修ノ方法ヲ授クヘシト雖モ可成毎月一回以上ハ出會セシムヘシ
第五條 警察署長分署長ハ自ら會頭ト爲リ講習上各般ノ責ニ任スヘシ
第六條 警察署長分署長ハ署員中伎倆熟達ノ者一名又ハ二名ヲ選拔シテ教導ト爲シ武術教練ノ任ニ當ラシムヘシ
第七條 講習科目ヲ分ツコト左ノ如シ
一 文學

警察上必要ナル法律規則

二 武術

擊劍柔術水練捕細

三 操練

巡查操練法敬禮式

第八條 前條講習科目中文學ニ在リテハ署部長ヨリ必要ノ書目ヲ指定スルコトアルヘシ
第九條 署部長ハ毎年一回法律規則中ヨリ試験問題數題ヲ發シ期日ヲ定メ警察署長分署長ヲシテ試験ヲ執行セシムヘシ但武術操練ノ試験ハ毎年巡閱ノ際ニ於テスルモノトス
第十條 試験問題ハ署長ニ於テ封シ確保管シ當日試験場ニ於テ開封スヘシ
第十一條 警察署長分署長ニ於テ試験ヲ執行シタルトキハ其願末ヲ成績書類ニ付シ署部長ニ報告スヘシ
第十二條 試験点數ハ法律規則一題各二十点武術操練一技各十點トス
前項各科總点ノ半數以上ヲ得タル者ヲ及第トシ十分ノ八以上ヲ得タルモノヲ優等トス
第十三條 署部長ハ警察本部警部一名ヲ委員ト爲シ警部警部補ノ内二名ヲ委員ト爲シ試験成績ヲ審査評定セシムヘシ
第十四條 武術操練ノ成績ハ署部長之ヲ査定シテ審査委員ニ下附スヘシ但武術ハ各署教導ヲシテ參考点ヲ採ラシムルモノトス
第十五條 委員審査終レハ別紙乙紙式ノ成績表ヲ製シ審査表ヲ添ヘ委員長意見ヲ附シ署部長ニ報告スヘシ
第十六條 試験優等ノ成績ヲ得タル者ハ署部長指名シテ特別試験ヲ行フコトアルヘシ但特別試験ニ在

ワテハ武術操練ノ二科ヲ除クモノトス
第十七條 優等者ニハ特ニ賞狀ヲ下付スルモノトス
第十八條 試験當日事故アリテ應スルコト能ハサル者ニハ事故終了ノ後受験セシムヘシ但問題ハ新ニ
之ヲ授クルモノトス

訓令第五百五十八號(廿三年五月十二日)
巡查講習規則講習科目中操練法別冊ノ通之ヲ定ム

(別冊ハ別ニ願フ)

警察署 警察分署

訓令第九十二號(廿三年七月二日)
犯罪前科索引取扱心得

警察署 警察分署 監 獄

犯罪前科索引取扱心得
第一條 警察署分署ニ於テ重罪又ハ輕罪(主刑罰金ノ)犯人(本縣及鹿兒島熊本佐賀長崎)ヲ拿捕シタル
トキハ第一號罪科報告表ノ表面ヘ相當記入ノ上本犯ヲ檢事ニ交付スルト同時ニ之ヲ發送スヘキ監獄
ニ報告スヘシ但裏面ノ内族籍營業年齡並人相ノ各欄ハ警察署分署ニ於テ取調記入スルモノトス
監獄ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ裁判確定ノ上裏面ヘ相當記入シ警察本部保安課ヘ送付スル
モノトス但送付後ト雖モ死亡又ハ逃亡シタルトキハ其都度報告スルモノトス
第二條 警察署分署ニ於テ前條ノ犯人ヲ拿捕シ取調ノ後罪トナラサルコトヲ發見シ署限リ放還シタル
モノアルトキハ第二號表式ニ依リ警察本部保安課ヘ報告スヘシ
第三條 豫審判事又ハ檢事等逮捕シタル犯人ニシテ第一號報告ノナキモノハ監獄ニ於テ罰ニ之ヲ調成

シ第一條末項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 警察署分署ニ於テ第一條ノ犯人ヲ拿捕シ本縣在籍ノモノニシテ前科等判明セサルモノハ直ニ
第三號用紙問ノ部各欄ニ記入ノ上警察本部保安課ヘ送付シ其答ヲ受クルノ必要ナキモノハ何裁判所
回シノ印ヲ捺スヘシ

保安課ニ於テハ索引ト照合シ答ノ部ヘ相當記入ノ上返付スルモノトス但索引紙ニ其氏名ナキカ又ハ
類似ノモノナルトキハ答ノ部雜ノ欄ニ索引無氏名又ハ類似記載ノ印ヲ捺ス尤モ何裁判所回シノ印
アルモノハ直ニ其裁判所檢事ヘ送付スルモノトス

第五條 警察署分署ニ於テ前條ノ返付ヲ受ケタルトキハ一件書類ト共ニ(共ニスルコト能ハサルトキ
送付スル)檢事ニ送付スヘシ(ハ便宜ノ符號ヲ付シ後ヨリ
モノトス)類似記載ノ印アルモノハ其當否ヲ記シ更ニ警察本部保安課ヘ報告スルモノトス

第六條 被告人ヲ逮捕セス捜査ノ爲メ第四條ノ手續ヲ爲ストキハ其紙端ニ深偵用ノ印ヲ捺スヘシ
第七條 警察署分署ニ於テ記載済ノ印アル報告ノ返付ヲ受ケタルトキハ其姓名ヲ伊呂波別トシ編
綴保存スヘシ

第八條 無籍者又ハ他府縣在籍者ニシテ常ニ本縣下ニ住居スルモノハ凡テ此手續ニ依リ取扱フモノト
ス

第九條 前條ノ場合ハ第一號乃至第三號用紙ノ納端ニ縣下常居ノ印ヲ捺スルモノトス

附 則

一第一號ヨリ第三號ニ至ル用紙ハ共犯ノ多少ニ拘ハラズ一人ニ付一葉ヲ用ユルモノトス
用紙記載例

第一號表面

- 一 第號トアルハ犯人拿捕ノ順序ニ依リ毎年一號ヨリ順次記號スルモノトス
- 一 黨類ノ欄ニハ共犯者又ハ連類ト思科スルモノ、内重ナルモノ、氏名ヲ記シ二名以上ナルトキハ外何名ト略記スルモ妨ケナシ
- 一 雜ノ欄ニハ後日參考トスヘキ雜件ヲ詳記スヘシ

同號裏面

- 一 上欄ニハ明治何年何月何日何監獄報告ト記入スルモノトス
- 一 犯數ハ初犯再犯又ハ三犯ト記スルノ類
- 一 死去逃亡放免トアル欄ハ仮令ハ死去セシモノハ逃亡放免トアルヲ抹塗シ其年月日ヲ記シ其下ニ病名ヲ記入スヘシ又逃亡ノトキハ其他ヲ塗抹スルコト前例ニ依ル
- 一 逃亡ハ越獄其他ノ事由ヲ記シ放免ハ無罪又ハ免訴ト別記スヘシ
- 一 族籍トアルハ華士族平民ト類別記入スヘシ
- 一 雜ノ欄ニハ後日參考トスヘキ本人ノ器動其他異様ノ事柄ヲ付記スヘシ

第二號

- 一 第號トアルハ報告ノ順序ニ從ヒ毎年一號ヨリ順次記號スルモノトス
- 一 上欄明治年月日トアルハ報告ノ年月日ヲ記入スヘシ
- 一 引致ノ欄ニハ其年月日ヲ記入スヘシ

第三號

- 一 本管ノ欄ニハ本人ノ本籍ヲ記シ族籍ノ欄ニハ華士族平民ト類別記入スルモノトス
- 一 上欄雜ノ部ニハ參考トナルヘキ事故ヲ詳記スルモノトス
- 一 監視及刑期ノ下室欄ニハ初再三トモ列記スルモノトス

訓令第九十五號(廿三年七月四日)

警察官吏稱呼法左ノ通之ヲ定ム

警察署 警察分署

警察官吏稱呼法

- 第一條 警察官吏タル者ハ其上官ニ對シ從順ナルヘキハ勿論之ニ對シ相當ノ禮讓ヲ盡サ、ル可ヲサルヲ以テ服務中ハ常ニ一定ノ稱呼法ヲ選用スヘシ
- 第二條 各官稱呼法ハ左ノ區別ニ依ル
 - 一 警部長以下警部警部補巡查ヨリ知事ニ對シテハ 知事閣下
 - 二 警部警部補巡查ヨリ警部長ニ對シテハ 警部長殿
 - 三 警部警部補巡查ヨリ課所署長ニ對シテハ 課長殿又ハ何課長殿 所長殿又ハ何所長殿 署長殿又ハ何署長殿
 - 四 巡查ヨリ課所署長以外ノ警部警部補父ハ巡查部長ニ對シテハ 何警部殿 何警部補殿 何部長殿
 - 五 巡查教習所受業生ヨリ教習所教官并助教ニ對シテハ 教官殿又ハ何教官殿 助教殿又ハ何助教殿
- 第三條 警察部内ニ在テ互ニ對話スル場合ニ他人ヲ指稱スルトキモ亦前條ノ例ニ依ルヘシト雖モ尊稱(殿)ヲ附スルニ及ハス但警部以下ニ於テ知事警部長ヲ指シ又ハ直接所屬ノ課所署長ヲ(其課所署員相互間ニ於テ指ストキハ尊稱ヲ附スヘキモノトス

第四條 上官ヨリ下官ニ對シ又ハ同僚相互ノ間ニ於テハ氏名若クハ氏職名ヲ呼ブヘシ

告示第五百五十一號(廿四年十一月十八日)

巡查試験及採用規則左ノ通り定ム

但明治二十二年(六月)告示第三十九號巡查採用規則ハ廢止ス

巡查試験及採用規則

第一條 巡查ハ試験ノ上採用ス但シ左ニ記載シタル者ハ此限リニアラス

一 警部警部補ノ職ヲ奉シタル者

二 巡查補助證書ヲ有スル者

三 陸海軍現役滿期下士以上ノ者

四 陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラレ下士過任證書ヲ有スル者

第二條 新ニ採用セシ者ハ二ヶ月間巡查教習所科程ヲ練習セシメ卒業ノ後實務ニ服セシム但教習中ハ月俸四圓ヲ給ス

第三條 巡查教習所ノ科程卒業ノ後ト雖モ巡查ニ缺員アラサルトキハ歸郷シテ待命セシム

但待命中ハ俸給ヲ給與セス

第四條 巡查志願者ハ品行方正年齡二十一年以上四十年未滿ニシテ徵兵ニ相當セシム且ツ左ノ諸項ニ抵触セサル者タルヘシ

一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサル者但舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ本文ノ權衡ニ準ス

二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

三 巡查懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ故ナク巡查ヲ辭職シ二年ヲ經過セサル者

四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身代ノ限處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

五 酒癖アルモノ又ハ暴行ノ癖アル者

第五條 巡查體格ノ検査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者

四肢完具セル者但執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎屈強直等ノ類ハ此限ニアラス

胸腔機關及腹内臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但較著ノ疾病ニアラサルモ全身諸機能減衰ノ者亦同シ

服裝又ハ運動ニ不便ナルモノ

贅生物畸形等容貌醜惡ナル者

二 身幹五尺一寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者

三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者

四 聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者

五 言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ル者

六 精神完全ナルモノ即チ精神病及神經病 鬱癡癩狂癡狀及癲踏病癩癩等ノ病ニナキ者

第六條 巡查技藝ノ試験ハ左ノ諸項ニ適合スルモノヲ以テ合格トス

一 刑法刑事訴訟法警察法規等ノ大要ニ通スル者

二 本邦歴史及地理ノ大略ニ通スル者

三假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
四算術加減乗除ヲ爲シ得ル者

五普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者

第七條 巡査試験ハ巡査教習所ニ於テ警部二名以上立會ノ上巡査教習所長之ヲ施行ス

第八條 巡査ニ採用スルモノハ左ノ誓書ヲ差出サシム

誓文

某 儀

今般官時縣巡査志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論人民ニ對シテハ町寧親切ニ職務ヲ執行シ且ツ總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又奉職五ヶ年ニ滿タスニテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候様ノ儀決シテ無之且ツ自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ警察官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損致候様ノ所業決シテ仕マシク依テ誓文如件

明治 年 月 日

府縣國郡市町村番地身分

何 某 實印

第九條 新ニ採用スル巡査ハ先ツ三級俸ヲ給シ其陸海軍現役滿期ノ下士及巡査補助證書ヲ有スル者ニ係ルトキハ直ニ二級俸ヲ給スルコトアルヘシ但陸海軍現役滿期ノ下士ニシテ士官適任證書ヲ有スルモノハ特ニ一級俸ヲ給スルコトアルヘシ
第十條 巡査志願ノ者ハ左ノ願書式ニ從ヒ身元保證人連署ノ上履歷書ヲ添ヘ警察部ニ差出スヘシ
巡査採用願(用紙半紙ニシテ普通)

族籍職業(戸主又ハ誰ノ幾男ナリコトモ記載スヘシ)

天然痘又ハ通痘済
私儀巡査志願ニ付御採用被成下度萬一官給品ヲ亡失毀損等ニ至ラシメ辨償難致キハ身元保證人ニ於テ引受ケ直ニ辨償可致候依テ履歷書相添ヘ此段奉願候也
年 月 日

現住所 人 何 某 印
現住所 人 何 某 印
現住所 族籍職業 何 某 印
身元保證人 何 某 印

宮崎縣知事某殿

訓令第二十二號(廿七年二月四日)

警察署 警察分署

巡査点檢規則左ノ通相定ム

但明治二十二年五月訓令第百十四號巡査点檢式ハ廢ス
巡査点檢規則

第一總則

- 第一條 點檢ハ巡査ノ人員、服装、姿勢、體式、及官給品保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス
- 第二條 點檢ヲ別テ通常點檢臨時點檢ノ二種トス
- 第三條 點檢ハ署長之ヲ行フ署長不在ナルトキハ警部警部不在ナルトキハ巡査部長之ヲ代理スヘシ
- 第二通常點檢
- 第四條 通常點檢ハ毎朝出務時間各巡査ニ對シ之ヲ施行スルモノトス
駐在巡査ニ對シテハ訓授ノ爲メ參集シタル日之ヲ行フヘシ

第五條 嚮導ハ巡查部長ヲ以テ之レニ充ツヘシ巡查部長差支アルトキハ上席巡查ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

嚮導ハ各列ノ右翼ニ置クヘシ巡查部長餘員アル時ハ左翼ニモ之ヲ置クヘシ

第六條 署長ハ定刻ニ至レハ呼子笛ヲ吹キ(第二十三條第十二項ノ)吹方ニ依ルモノトス)以テ各巡查ヲ點檢場ニ參集セシムヘシ

第七條 前條ノ合圖アリタル時ハ嚮導先ツ列ノ右翼トナルヘキ位置ニ立チ左翼ノ嚮導アルトキハ巡查整列ノ后其位置ニ就クヘシ

各巡查ハ遲滞ナク點檢場ニ參集シ嚮導ニ準ヒ豫定ノ順序ニ依テ嚴肅ニ整列スヘシ

第八條 警部及嚮導ニ當テサル巡查部長ハ列ノ背后ニ參列スヘシ

第九條 列ハ二列トス但協所ノ廣狹人員ノ多寡ニ依リ一列ニ編成スルコトヲ得

列ノ順序ハ身幹ノ長短ニ依リ長キヲ上位トシ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

第十條 點檢ノ際巡查ハ降雨ノ外外套ハ席卷シ兩端ヲ連結シテ左肩ヨリ右腋下ニ斜擔スヘシ

點檢ヲ受クヘキ器具ハ一定ノ所ニ携帯スヘシ

第十一條 署長ハ列ノ前面中央點ニ立チ號令ヲ以テ點檢ノ準備ヲ爲スヘシ

第十二條 嚮導ハ號令ニ應ジ自ラ標準トナリテ列員ヲ整頓スヘシ

第十三條 準備終レハ左ノ順序ニ依リ署長號令ヲ嚮導檢視スヘシ

一手帖、名刺、二捕繩、三呼子笛、四頭髮

嚮導ノ檢視終レハ署長ハ右翼ノ前面ヨリ後面ニ至ル迄順次服装ノ整否ヲ檢視スヘシ

第十四條 檢視ノ際嚮導ニ於テ器具ノ毀損其他不都合ノ廉アリト認メタル時ハ檢視ヲ終リタル後署長ノ前ニ進ニ簡單ニ其事由及巡查ノ氏名ヲ申告シ直ニ舊位ニ復スヘシ

第十五條 署長前條ノ申告ヲ受ケ又ハ自ラ不都合ヲ認メタルトキハ其場ニ於テ訓戒又ハ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 點檢終レハ署長解散ヲ命スヘシ

第十七條 點檢ヲ受クヘキ巡查三名以下ナル時ハ署長其席ニ召集シ前各條ヲ斟酌シテ適宜點檢ヲ行フコトヲ得

第三臨時點檢

第十八條 臨時點檢ハ禮式ヲ檢閱シ官給品ノ保存及代價ヲ以テ給與スル物品ノ適否并ニ刀身ヲ檢視スルモノトス

第十九條 臨時點檢ハ毎月一回之ヲ行フモノトス但特ニ必要アリトスル時ハ其時々之ヲ行フ

駐在巡查ニ對スル禮式點檢ハ訓授ノ爲メ參集シタル日其他ノ點檢ハ監督巡視ノ際之ヲ行フコトヲ得

第二十條 物品ノ點檢ハ各署長ニ於テ豫メ受檢ノ場所及順序ヲ示シ混雜ナカシム可シ

第二十一條 禮式ノ點檢ハ通常點檢ト同シク整列セシメ警察禮式ニ依リ種類ヲ指示シ列ノ初位ヨリ順次署長ノ面前ニ於テ其式ヲ爲サシムヘシ

第二十二條 本則ニ規定セサル運動ハ總テ巡查操練法ニ依ルヘシ

第四號令及點檢方法

第二十三條 伍列及點檢施行ノ整否ハ號令ノ發唱如何ニ關ス故ニ號令ハ簡明快活ナルヲ要ス又豫令動令ノ區分ヲ明瞭ニスヘシ

一氣ヲ付ケ

此號令ニテ各巡查ハ兩踵ヲ一線上ニ揃ヘ兩足ハ矩形ヨリモ少シク狭ク開キテ同線ニ外側ニ向ケ兩膝ハ凝ラサル様ニ之ヲ伸ハシ身体ハ正シク腰ノ上ニ落チ着ケテ且少シク前ニ傾ケ兩肩ハ故ラニ張